令 和 ４ 年 度

福島大学大学院
人間発達文化研究科
（修士課程・専門職学位課程）
学 生 募 集 要 項

新型コロナウイルスの感染拡大の状況により，試験日程・選抜方法等が変更になる可能性があります。
最新情報は本学ウェブサイトでご確認ください。
（入試情報　http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/）

国立大学法人
福島大学
Fukushima University

〒960－1296
福島市金谷川１番地
☎024－548－8064（入試課）
http://www.fukushima-u.ac.jp/

福島大学
スマートフォン対応サイト

目　　次

Ⅰ　福島大学大学院人間発達文化研究科（修士課程・専門職学位課程）学生募集要項

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）　…… 1
1．専攻別学生募集人員　…… 2
2．出願資格　…… 3
3．出願手続　…… 4
4．選抜方法　…… 8
5．試験日程　…… 14
6．障害等のある入学志願者の事前相談　…… 14
7．合格者発表　…… 15
8．入学手続および入学手続に係る留意事項　…… 15
9．入学料・授業料の減免について　…… 15
10．注意事項　…… 16
11．入学志願者の個人情報保護について　…… 16
12．東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について　…… 16
13．令和４年度入試における新型コロナウイルス感染症対応について　…… 18

Ⅱ　福島大学大学院人間発達文化研究科（修士課程・専門職学位課程）案内

1．人間発達文化研究科の目的　…… 20
2．研究科の概要・特徴　…… 20
3．専攻・領域の概要　…… 21
4．授業科目および履修基準　…… 24
5．履修方法等　…… 58
6．長期履修学生制度について　…… 59
7．取得資格等　…… 60
8．授業担当教員の研究概要　…… 61

出願書類等

- ○　入学願書（一般入試・学類所属生特別入試・現職教員特別入試）
- ○　受験票・写真票（一般入試・学類所属生特別入試・現職教員特別入試）
- ○　受験承諾書
- ○　研究計画および履歴等
- ○　研究業績書
- ○　作品提出用紙
- ○　検定料収納証明書貼付票・検定料免除申請書
- ○　受験票等送付用封筒
- ○　宛名票（シール）

Ⅰ　福島大学大学院人間発達文化研究科（修士課程・専門職学位課程）学生募集要項

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

１．人間発達文化研究科の教育目標と求める学生像

：人間発達文化研究科では，人間や地域や文化の抱える課題を自覚し，次世代を育てようとする意欲をもち，修了までに次の３つの力を身につけ，「人材育成のエキスパート」（経験を通して得た知識や技能を駆使できる熟達者）となることを希望する学生あるいは社会人を受け入れます。

・人間や地域や文化に対する問題意識を持ち，高度専門職業人にふさわしい知識と技能の修得（専門探究力）を望む学生あるいは社会人。

・課題を解決するために必要な組織や人材を活かしながら，修得した知識や技能を学校や地域で積極的に生かそうとする能力の修得（コーディネート力）を望む学生あるいは社会人。

・人間や社会の発達における文化の役割を理解し，次世代を育成しようとする能力の修得（人材育成力）を望む学生あるいは社会人。

：人間発達文化研究科には，教職実践専攻，地域文化創造専攻，学校臨床心理専攻の３つの専攻があります。各専攻が求める学生像は，次の通りです。

・教職実践専攻では，地域の教育課題について理解を深め幅広い視野を備えるとともに，授業力，マネジメント力など高い実践力を身につけ，常に学び続け，教育課程の改善や学校改革をけん引する＜教員のミドル・リーダー＞をめざす学生を求めます。

・地域文化創造専攻では，諸文化を構成する学問分野における研究力・実践力を修得するとともに，地域支援に必要なコーディネート力及び人材育成力を合わせ持つ＜地域支援エキスパート＞をめざす学生を求めます。

・学校臨床心理専攻では，臨床心理学及び学校福祉の臨床的な実践研究に基づき，様々な課題を抱える子ども・青年や家族・学校に対応する効果的な指導・援助・支援を行う＜発達支援エキスパート＞をめざす学生を求めます。

２．入試の際に求める知識・技能・関心

高度職業人として，「人材育成のエキスパート」となるためには，以下に掲げる関心，知識，技能を有している学生あるいは社会人を求めます。

①　「人間発達」あるいは「地域や文化」に対する研究的な強い関心。

②　大学院での研究の基礎となる当該分野や領域での学力。

③　大学院での研究に関する明確な目標と計画。

学校臨床心理専攻学校福祉臨床領域については，当分の間，学生募集を停止します。

１．専攻別学生募集人員

【一般入試】

専　　攻	入学定員(募集人員)	領　　域　・　コ　ー　ス	取得できる学位
教　職　実　践	16名	ミドル・リーダー養成コース 教育実践高度化コース 特別支援教育高度化コース	教職修士（専門職）
地域文化創造	17名	人間発達支援領域　（約２名） 日英言語文化領域　（約３名） 地域生活文化領域　（約２名） 数理科学領域　（約２名） スポーツ健康科学領域（約３名） 芸術文化領域　（約５名）	修士（地域文化）
学校臨床心理	７名	臨　床　心　理　領　域	修士（教育学）
合　　計	40名		

（注）　領域内の内定員は，一般入試と学類所属生特別入試および現職教員特別入試を合わせた数です。

【学類所属生特別入試】

専　　攻	募集人員	領　　域　・　コ　ー　ス	取得できる学位
教　職　実　践	若干名	教育実践高度化コース 特別支援教育高度化コース	教職修士（専門職）
地域文化創造	若干名	人間発達支援領域 日英言語文化領域 地域生活文化領域 数理科学領域 スポーツ健康科学領域 芸術文化領域	修士（地域文化）

【現職教員特別入試】

専　　攻	募集人員	領　　域　・　コ　ー　ス	取得できる学位
教　職　実　践	若干名	ミドル・リーダー養成コース 教育実践高度化コース 特別支援教育高度化コース	教職修士（専門職）
地域文化創造	若干名	人間発達支援領域 日英言語文化領域 地域生活文化領域 数理科学領域 スポーツ健康科学領域 芸術文化領域	修士（地域文化）

各専攻，領域・コースの内容については，20ページ以降を参照してください。

２．出　願　資　格

⑴　大学を卒業した者および令和４年３月までに卒業見込みの者

⑵　学校教育法第104条第７項の規定により学士の学位を授与された者および令和４年３月31日までに学士の学位を授与される見込みの者

⑶　外国において学校教育における16年の課程を修了した者および令和４年３月31日までに修了見込みの者

（注）大学卒業までの教育課程が16年に満たない場合には，個別の入学資格審査が必要です。

⑷　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和４年３月31日までに修了見込みの者

⑸　我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および令和４年３月31日までに修了見込みの者

⑹　外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府または関係機関の認証を受けた者による評価を受けたものまたはこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了することおよび当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって学校教育法施行規則第155条第１項第４号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により，学士の学位に相当する学位を授与された者および令和４年３月31日までに授与される見込みの者

⑺　専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および令和４年３月31日までに修了見込みの者

⑻　文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第５号）

⑼　本大学院において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，令和４年３月31日までに22歳に達するもの（平成12年４月１日に生まれた者を含む。）

教職実践専攻については，出願資格⑴～⑼のいずれかに加え，次の条件を満たす者とします。

⑽　教員免許状（小学校，中学校，高等学校，特別支援学校，養護，栄養の普通免許状一種）を取得した者および令和４年３月31日までに取得見込みの者

なお，取得見込みの者で，令和４年３月31日までに取得できなかった場合は，入学を認めません。

【一般入試】

出願できる者は，出願資格⑴～⑼のいずれかを有する者とし，教職実践専攻は加えて出願資格⑽を満たす者とします。

【学類所属生特別入試】

出願できる者は，出願資格⑴～⑼のいずれかを有する者（教職実践専攻は加えて出願資格⑽を満たす者）とし，加えて以下に該当するものとします。

・　福島大学人間発達文化学類（夜間主コース文化教養モデルを含む。）を令和４年３月までに卒業見込みであること。
・　卒業研究指導教員による推薦を得ていること。
・　研究意思が明確で，卒業後の入学を確約できること。

【現職教員特別入試】

出願できる者は，出願資格⑴～⑼のいずれかを有する者（教職実践専攻は加えて出願資格⑽を満たす者）とし，加えて以下に該当するものとします。

・　出願時までに３年以上の教職経験（学校教育法第１条に定めるもの，および保育所に限る。）を持ち，出願した年度内に勤務実績のある者。

（注）学校教育法第１条に定めるものとは，幼稚園，小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，中等教育学校，特別支援学校，高等専門学校，大学の各校種である。

３．出　願　手　続

⑴　出 願 期 間

令和３年９月28日㈫から10月１日㈮　午後５時まで

出願資格⑼で出願する場合は，出願前に個別の入学資格審査を行います。入学資格個別審査申請書（本学所定の用紙）に添付書類を添えて，令和３年９月14日㈫〔午後５時必着〕までに提出してください（なお，入学資格個別審査申請書は，福島大学に請求するか，本学ウェブサイトの「入試情報」（http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/）からダウンロードしてください。）。

⑵　願書提出先

〒960－1296　福島市金谷川１番地
福島大学入試課　　☎　024－548－8064

⑶　出 願 方 法

入学志願者は，次項⑷に示す出願書類を取りそろえ，封筒の表に**「人間発達文化研究科入学願書」と朱書**し，必ず**一般書留速達にして**郵送してください。

出願期間を過ぎた場合は受理できませんので，郵送期間を十分考慮し早めに送付してください。ただし，令和３年９月30日㈭以前の発信局消印のある一般書留速達に限り，期限後に到着した場合でも受理します。

持参の場合，入試課の窓口受付時間は平日の午前９時から午後５時までです。

(4) 出願書類および検定料

	書類等の名称	摘　　要
全入試区分共通	① 入学願書	本学所定の用紙
	② 受験票・写真票	本学所定の用紙。写真は出願前３か月以内に撮影した上半身正面脱帽のものを貼付してください（縦４cm×横３cm）。
	③ 研究計画および履歴等（★）	本学所定の用紙
	④ 教育職員免許状の写しまたは教育職員免許状取得見込証明書 ※教職実践専攻受験者	「教育職員免許状の写し」を提出する場合は，原本と相違ない旨の所属長または所轄長の証明を要する。 免許状を取得見込みの者は，大学等が証明した教育職員免許状の取得見込証明書を提出すること。
	⑤ 検定料収納証明書貼付票	「検定料収納証明書貼付票」裏面の「検定料支払方法のご案内」を参照の上，検定料**30,000円**を下記の期間内に払い込んでください。（払込手数料が別途必要です。） **【払込期間】** **令和３年９月26日㈰～10月１日㈮　午後４時30分まで** **（期間外は払い込みできません。）** **「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り，「検定料収納証明書貼付票」に貼付した上で出願書類に同封してください。** ※ファミリーマートで支払いの方は，レシート（受領書）原本を貼付してください。 入学願書を受理した後は，いかなる理由があっても検定料は返還できません。ただし，次の場合は検定料返還請求ができますので下記に申し出てください。 ア．検定料を払い込んだが，出願しなかった。（出願書類を提出しなかったまたは出願が受理されなかった） イ．検定料を誤って二重に払い込んだ。 ウ．出願期間終了までに，検定料免除に該当することを証明する書類を取得できなかったものの，出願期間終了後に取得した。 なお，請求方法等については，該当者へ個別に通知します。 また，返還の際の振込手数料は請求者負担となります。 検定料返還に関する問合せ：福島大学財務課出納係　☎024-548-8015 ※検定料免除について 本学では，東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故ならびに平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し，被災受験者の進学機会の確保を図るために，令和３年度に行われる全ての入試において，検定料免除の特別措置を行います。 免除の条件については16ページ「12. 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について」を確認してください。 なお，検定料免除申請を行う場合は，出願時に検定料を払い込まないでください。また，「検定料収納証明書貼付票」の提出は不要です。
	⑥ 受験票等送付用封筒	所定の封筒に374円（速達）分の切手を貼り，入学志願者の郵便番号，住所，氏名を明記してください。
	⑦ 宛名票（シール）	合格通知を受けるところの郵便番号，住所，氏名を記入してください。

	書類等の名称	摘　　要
一般入試	⑧　出願資格を証明する書類	以下の書類のうち，該当するもの ・卒業（見込）証明書 （出身（所属）大学長または学部長が作成したもの） ・学位授与証明書 （出願資格⑵に該当する者。学位授与機構が発行したもの。学位の授与を申請する予定の者は，短期大学長または高等専門学校長が作成した学位授与申請予定証明書。） ・修了（見込）証明書 （出願資格⑺に該当する者。証明書内に「修業年限が４年以上であること」「課程の修了に必要な総授業時間数が3,400時間以上あること」の必要要件が明記されたもの） ・専修免許状または一種免許状の写し （出願資格⑻に該当する者のうち，昭和28年文部科学省告示第５号十に該当するもの。）
	⑨　成績証明書	出身（所属）大学長・学校長または学部長が作成したもの
	⑩　学習履歴レポート ※教職実践専攻受験者	大学でのこれまでの学びを，レポート形式で4,000字～6,000字程度で執筆してください。⑴何を学んできたのか，⑵どんな力がつき，何ができるようになったのか，⑶どんな興味・関心が芽生え，どのようなテーマを立てどのような方法で卒業研究を行っているのか等を，できるだけ詳しく論じてください。 教員経験のある方は，大学院で研究したいテーマに対応する，教育現場での自身の実践およびその考察を，レポート形式で4,000字～6,000字程度で執筆してください。 いずれも様式は，Ａ４用紙，40字×30行。図表の文字は，本文の文字数に含みません。 なお，レポート本文および研究資料等はファイルに入れたり，ホチキスで留めたりしないで，すべてクリップで留めて提出してください。
	⑪　受験承諾書　※現職教員等	学校等に在職中の者は所属長の承諾書
	⑫　研究業績書　※代替希望者（★）	本学所定の用紙
	⑬　作品提出用紙 ※芸術文化領域の美術分野において作品提出を希望する者	本学所定の用紙

	書類等の名称	摘　　要
学類所属生特別入試	⑧　卒業見込証明書	本学が発行したもの
	⑨　成績証明書	本学が発行したもの
	⑩　学習履歴レポート	大学でのこれまでの学びを，レポート形式で4,000字～6,000字程度で執筆してください。⑴何を学んできたのか，⑵どんな力がつき，何ができるようになったのか，⑶どんな興味・関心が芽生え，どのようなテーマを立てどのような方法で卒業研究を行っているのか等を，できるだけ詳しく論じてください。 様式は，Ａ４用紙，40字×30行。図表の文字は，本文の文字数に含みません。 なお，レポート本文および研究資料等はファイルに入れたり，ホチキスで留めたりしないで，すべてクリップで留めて提出してください。

	書類等の名称	摘　　要
現職教員特別入試	⑧　出願資格を証明する書類	以下の書類のうち，該当するもの ・卒業証明書 （出身（所属）大学長または学部長が作成したもの） ・学位授与証明書 （出願資格⑵に該当する者。学位授与機構が発行したもの。学位の授与を申請する予定の者は，短期大学長または高等専門学校長が作成した学位授与申請予定証明書。） ・修了（見込）証明書 （出願資格⑺に該当する者。証明書内に「修業年限が４年以上であること」「課程の修了に必要な総授業時間数が3,400時間以上あること」の必要要件が明記されたもの） ・専修免許状または一種免許状の写し （出願資格⑻に該当する者のうち，昭和28年文部科学省告示第５号十に該当するもの。）
	⑨　受験承諾書	所属長の承諾書
	⑩　実践記録レポート	大学院で研究したいテーマに対応する，教育現場での自身の実践およびその考察を，レポート形式で4,000字～6,000字程度で執筆してください。 様式は，Ａ４用紙，40字×30行。図表の文字は，本文の文字数に含みません。 その際，実践記録レポートを裏付ける資料（指導案や公刊された指導記録など）を１報以上提出してください。研究資料は，レポート本文のどこに対応するのかを明示してください（書式は任意）。 なお，レポート本文および研究資料等はファイルに入れたり，ホチキスで留めたりしないで，すべてクリップで留めて提出してください。

（注）１．黒か青のボールペンまたは万年筆を用い，楷書で記入してください。パソコンによる作成も可。
２．誤って記入した場合は，誤記入の部分を二重線で消し訂正してください。
３．提出書類中，**日本語以外で書かれた証明書には，その日本語訳を必ず添付してください。**
４．★印は，本学ウェブサイトの「入試情報」（http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/yoko.html）からもダウンロードできます。

見開き

4．選　抜　方　法

【一般入試】

入学者の選抜は，学力検査，成績証明書および面接の結果を総合して判定します。

★右頁に各領域に対応する付注を記載しています。必ず参照してください。

<table>
<tr><th rowspan="2">専攻</th><th rowspan="2">領域</th><th colspan="2">学　力　検　査　科　目</th></tr>
<tr><th>外国語科目
付注１）参照</th><th>専　門　科　目</th></tr>
<tr><td>教職実践専攻</td><td></td><td></td><td>小　論　文
付注１）参照</td></tr>
<tr><td rowspan="4">地域文化創造専攻</td><td>人間発達支援</td><td>英　語
【代替措置】
付注１）②参照</td><td>教育心理学
障害学
幼年教育
３つの分野から，入学後研究する分野を１つ選択してください。
付注２）参照</td></tr>
<tr><td>日英言語文化</td><td>英　語
日　本　語
【代替措置】
付注１）③参照</td><td>日本語学
日本文学
漢文学
国語科教育学
英語学
英米文学
英語科教育学
７つの分野から，入学後研究する分野を１つ選択してください。</td></tr>
<tr><td>地域生活文化</td><td>英　語
【代替措置】
付注１）②参照</td><td>歴史学
地理学
社会学
経済学
倫理学
社会科教育学
食物学
被服学
住居学
家庭科教育学
10の分野から，入学後研究する分野を１つ選択してください。</td></tr>
<tr><td>数理科学</td><td>英　語
【代替措置】
付注１）②参照</td><td>数学
生物学
化学
地球科学
４つの分野から，入学後研究する分野を１つ選択してください。
付注２）参照</td></tr>
<tr><td>スポーツ健康科学</td><td>英語・ドイツ語から１科目選択
【代替措置】
付注１）②参照</td><td>体育学
運動学
２つの分野から，入学後研究する分野を１つ選択してください。
付注２）参照</td></tr>
</table>

専攻	領域	付　　注
教職実践専攻		1）小論文は課題を与えて論述させます。
地域文化創造専攻	人間発達支援	1）外国語科目について ① 当該言語の通常の辞書の持ち込みを認めます（電子辞書は除く。）。 ② 出願時までに３年以上の社会経験を有する者は，学力検査の外国語に代えて小論文を選択することができます。小論文は課題をあたえて論述させます。 2）専門科目試験について ア）教育心理学は，心理学全般にわたる知識，及び論文読解に関する出題を行います。 イ）障害学は，障害学に関する必須問題と選択問題を出題します。 ウ）幼年教育は，幼児教育，幼児心理，保育内容の問題を出題します。
	日英言語文化	1）外国語科目について ① 専門科目で英語学，英米文学，英語科教育学を選択する場合は，英語（英語学，英米文学，英語科教育学向け）を選択してください。辞書の持ち込みは認めません。 ② 専門科目で日本語学，日本文学，漢文学，国語科教育学を選択する場合は，英語（日本語学，日本文学，漢文学，国語科教育学向け）または日本語のいずれか一方を選択してください。 ただし，その際，母語・母国語を選択することはできません。当該言語の通常の辞書の持ち込みを認めます（電子辞書は除く。）。 ③ 専門科目で日本語学，日本文学，漢文学，国語科教育学を選択する者で，出願時までに３年以上の社会経験を有する者は，学力検査の外国語に代えて小論文を選択することができます。小論文は課題をあたえて論述させます。
	地域生活文化	1）外国語科目について ① 当該言語の通常の辞書の持ち込みを認めます（電子辞書は除く。）。 ② 出願時までに３年以上の社会経験を有する者は，学力検査の外国語に代えて小論文を選択することができます。小論文は課題をあたえて論述させます。
	数理科学	1）外国語科目について ① 当該言語の通常の辞書の持ち込みを認めます（電子辞書は除く。）。 ② 出願時までに３年以上の社会経験を有する者は，学力検査の外国語に代えて小論文を選択することができます。小論文は課題をあたえて論述させます。 2）専門科目試験について ア）数学は，数学に関する必須問題と選択問題（数学，数学科教育学）を出題します。 イ）生物学，化学，地球科学は，各科目に関する問題と理科教育学の問題を出題します。
	スポーツ健康科学	1）外国語科目について ① 当該言語の通常の辞書の持ち込みを認めます（電子辞書は除く。）。 ② 出願時までに３年以上の社会経験を有する者は，学力検査の外国語に代えて小論文を選択することができます。小論文は課題をあたえて論述させます。 2）専門科目試験について 体育学の専門科目には，スポーツ哲学，保健体育科教育学，スポーツ医科学，スポーツ社会学が含まれます。運動学の専門科目には，運動学，トレーニング論，運動生理学，舞踊教育学が含まれます。選択した分野の中から１題を選択し，解答してもらいます。

※地域文化創造専攻における外国語科目代替措置の社会経験とは次のようなことをいいます。職業（アルバイト，パート等を含む）に就いており，労働時間が週20時間以上のもの，あるいは主婦（主夫）業に就いているもの。

見開き

★右頁に各領域に対応する付注を記載しています。必ず参照してください。

専攻	領域	学力検査科目	
		外国語科目 付注１）参照	専門科目
地域文化創造	芸術文化	英語 【代替措置】 付注１）②参照	演奏Ａ ピアノ 演奏Ｂ 管弦打楽器 演奏Ｃ 声楽 作曲・指揮 音楽科教育学 絵画 彫刻 美術理論・美術史 美術科教育学 ９の分野から，入学後研究する分野を１つ選択してください。 付注２），３）参照

専攻	領域	付　　注
地域文化創造	芸術文化	1）外国語科目について ① 当該言語の通常の辞書の持ち込みを認めます（電子辞書は除く。）。 ② 芸術文化領域における代替措置については，以下のとおりです。 代替措置Ⅰ ア）自らの研究業績をもつ者は，その研究業績を英語と代替することができます。 イ）代替を希望する者は，入学願書の学力検査科目の外国語の欄に「研究業績等」と記入し，研究業績２点以内を，研究業績書，出願書類とともに，10月１日㈮までに提出してください。 ウ）代替可能な業績は，入学後専攻しようとする領域にかかわる内容のもので，何らかの形で「公刊」されたものであること。ただし，公刊予定のものについては，そのことを証明する書類を付してください。具体的には，以下のものが該当します。 ・論文……学会誌，研究機関等の研究紀要，商業誌等に記載されたもの。 ・著書，翻訳書，辞典等の項目執筆 ・研究報告…地域研究会，県・文部科学省等の指定研究の発表会，小・中・高教研等の研究会，民間の研究会などの発表資料で研究内容が具体的に示されているものと，それが明示されているパンフレットやプログラム，録音や録画等。なお，共著の場合は，分担部分を明示してください。 代替措置Ⅱ（外国人留学生の代替措置） 出願資格⑶（外国において学校教育における16年の課程を修了した者）に該当する外国人留学生は，芸術文化領域において 「外国語科目・英語」を「日本語」に代替することができ，通常の辞書の持ち込みを認めます（電子辞書は除く。）。代替を希望する者は，入学願書の学力検査科目の外国語の欄に「日本語」と記入してください。 代替措置Ⅲ（社会人の代替措置） 出願時までに３年以上の社会経験を有する者は，学力検査の外国語に代えて小論文を選択することができます。小論文は課題をあたえて論述させます。 2）音楽分野の専門科目試験について ① 音楽分野における試験の検査内容は以下のとおりです。 ⑴ 演奏Ａ「ピアノ」……暗譜により，ア）およびイ）を演奏します。 ア）J. S. Bach「平均律クラヴィア曲集（第１巻または第２巻）」のうちで，任意の１曲。 イ）古典派以降のピアノ作品で，任意の１曲。 ⑵ 演奏Ｂ「管弦打楽器」……任意の１曲を演奏します（楽器は伴奏のピアノ以外すべて受験者が準備してください。）。 ⑶ 演奏Ｃ「声楽」……歌曲，オペラ，オラトリオから任意の１曲を暗譜で歌う。（伴奏者が必要な場合は，受験者が準備してください。） ⑷ 作曲・指揮……作曲・指揮とも和声（試験当日にソプラノ課題による四声体を作成）を課します。あわせて，作曲の場合は楽譜または録音・録画による異なる作品２点を，また，指揮の場合は録音・録画による２公演を，出願書類とともに提出してください。録音・録画で提出する場合は，CD，DVD，Blu-ray Disc のどれかの形によるものとします。なお，提出物（コピーでも可）は返却しません。 ⑸ 音楽科教育学……筆記試験 ② 演奏Ｂ・Ｃの実技検査では，伴奏者を同伴することができます。その場合伴奏者は，９時に音楽棟伴奏者控え室に集合してください。 3）美術分野の専門科目試験について ① 美術分野における試験の検査科目は以下のとおりです。⑴あるいは⑵から選んでください。 ⑴ 作品提出，または筆記試験（絵画，彫刻） （注） 入学願書，受験票および写真票の専門科目記入欄には，作品提出か筆記試験のいずれかについても明記してください。 ⑵ 美術理論・美術史，または美術科教育学…筆記試験 ② 提出作品は２年以内に制作したもの３点とし，指導教員や上司等による制作証明書（様式任意）または出展目録等を添付してください。 作品の大きさは特に制限しません。作品と制作証明書の提出は，試験当日８：30～８：45の間に美術棟（本要項末の案内図参照）内の受験生控え室に，原則として本人が直接提出してください。

※地域文化創造専攻における外国語科目代替措置の社会経験とは次のようなことをいいます。職業（アルバイト，パート等を含む）に就いており，労働時間が週20時間以上のもの，あるいは主婦（主夫）業に就いているもの。

見開き

★右頁に各領域に対応する付注を記載しています。必ず参照してください。

専攻	領域	学力検査科目	
		外国語科目 付注１）参照	専門科目
学校臨床心理	臨床心理	英語 【代替措置】 付注１）②参照	臨床心理Ⅰ　｝必須 臨床心理Ⅱ　｝付注２）参照

面　接	入学後の研究計画を中心に行います。教職実践専攻では，学習履歴レポート，研究計画等をもとにして，志望動機や研究の見通し等について質問します。研究しようと考えている教科または分野にかかわる基礎的知識等を問う場合もあります。

【学類所属生特別入試】

入学者の選抜は，学習履歴レポート，成績証明書および面接の結果を総合して判定します。

面　接	学習履歴レポート，研究計画等をもとにして，志望動機や研究の見通し等について質問します。研究しようと考えている教科または分野にかかわる基礎的知識等を問う場合もあります。

【現職教員特別入試】

入学者の選抜は，実践記録レポートおよび面接の結果を総合して判定します。

面　接	実践記録レポート，提出資料，研究計画等をもとにして，志望動機や研究の見通し等について質問します。研究しようと考えている教科または分野にかかわる基礎的知識等を問う場合もあります。

専攻	領域	付　　注
学校臨床心理	臨床心理	1）外国語科目について ①　当該言語の通常の辞書の持ち込みを認めます（電子辞書は除く。）。 ②　臨床心理領域の代替措置については，以下のとおりです。 ア）出願時までに３年以上の教職経験（学校教育法第１条に定めるものに限る。）をもつ者は，自らの研究業績を，英語と代替することができます。 イ）代替を希望する者は，入学願書の学力検査科目の外国語の欄に「研究業績等」と記入し，研究業績２点以内を，研究業績書，出願書類とともに，10月１日㈮までに提出してください。 ウ）代替可能な業績は，入学後専攻しようとする領域にかかわる内容のもので，何らかの形で「公刊」されたものであること。ただし，公刊予定のものについては，そのことを証明する書類を付してください。具体的には，以下のものが該当します。 ・論文……学会誌，研究機関等の研究紀要，商業誌等に記載されたもの。 ・著書，翻訳書，辞典等の項目執筆 ・研究報告…地域研究会，県・文部科学省等の指定研究の発表会，小・中・高教研等の研究会，民間の研究会などの発表資料で研究内容が具体的に示されているものと，それが明示されているパンフレットやプログラム等。なお，共著の場合は，分担部分を明示してください。 2）専門科目試験について ア）臨床心理Ⅰは，臨床心理学の基礎的知識について出題します。 イ）臨床心理Ⅱは，入学後主として研究する臨床心理学の分野の問題を選択してください。

5．試　験　日　程

⑴　試　験　日　令和３年10月20日㈬

⑵　試 験 会 場　福島大学人間発達文化学類（本要項末の案内図参照）

⑶　学力検査等時間割

【一般入試】

<table>
<tr><td rowspan="2">専攻</td><td rowspan="2">領　　域</td><td colspan="3">学　　力　　検　　査</td><td>面　　接</td></tr>
<tr><td>９：00～10：00</td><td colspan="2">10：20～11：50</td><td>14：00～</td></tr>
<tr><td>実践教職</td><td></td><td></td><td colspan="2">小論文</td><td rowspan="9">研究計画を中心に行います。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">地域文化創造</td><td>人間発達支援</td><td rowspan="6">外国語
（代替措置）</td><td colspan="2">教育心理学，障害学，幼年教育</td></tr>
<tr><td>日英言語文化</td><td colspan="2">日本語学，日本文学，漢文学，
国語科教育学，英語学，
英米文学，英語科教育学</td></tr>
<tr><td>地域生活文化</td><td colspan="2">歴史学，地理学，社会学，経済学，
倫理学，社会科教育学，食物学，
被服学，住居学，家庭科教育学</td></tr>
<tr><td>数　理　科　学</td><td colspan="2">数学，生物学，化学，地球科学</td></tr>
<tr><td>スポーツ健康科学</td><td colspan="2">体育学，運動学</td></tr>
<tr><td>芸　術　文　化</td><td colspan="2">演奏，作曲・指揮，
音楽科教育学，絵画，彫刻，
美術理論・美術史，美術科教育学</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>９：00～10：00</td><td>10：20～11：20</td><td>11：40～12：40</td></tr>
<tr><td>学校臨床心理</td><td>臨　床　心　理</td><td>外国語
（代替措置）</td><td>臨床心理Ⅰ</td><td>臨床心理Ⅱ</td></tr>
</table>

集合時間等については，受験票送付の際に併せてお知らせします。

【学類所属生特別入試】

集合時間等については，受験票送付の際に併せてお知らせします。

【現職教員特別入試】

集合時間等については，受験票送付の際に併せてお知らせします。

6．障害等のある入学志願者の事前相談

障害（学校教育法施行令第22条の３に定める障害の程度）等のある入学志願者で，受験上および修学上の配慮を必要とする場合は，出願の１か月前までに本学入試課に申し出てください。

7．合 格 者 発 表

令和３年10月28日㈭　午前11時

合格者の発表は，本学ウェブサイトの「入試情報」（http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/）に受験番号を掲載します。

合格者には「合格通知書」および入学に必要な手続・諸会費等を記載した「入学手続の手引き」を送付します。

なお，電話等による合否の問い合わせには応じません。

合格者発表当日は，インターネット回線が混雑するため，つながりにくい場合があります。

8．入学手続および入学手続に係る留意事項

⑴　合格者は，下記期間に**郵送により**入学手続を完了してください。詳細は，合格者に送付する「入学手続の手引き」に記載しますので，必ずご確認願います。

令和３年12月10日㈮～17日㈮　午後４時必着

（注）指定期日までに入学手続を完了しない場合は，合格者としての権利を失います。

⑵　入学辞退者の取扱い

入学手続完了後，特別な事情により入学を辞退する場合には，令和４年３月31日までに**「入学辞退願」（様式は任意）**を提出してください。

⑶　入学時の大学への納入金

入学料（予定額）	282,000円

（注）１．上記の入学料は予定額です。入学料の改定が行われた場合は，改定時から新たな金額が適用されます。

２．入学手続完了後に，入学を辞退した場合（留年等により入学資格を満たせなくなった場合を含む。）は，入学料の返還はできません。

（参考）１．授業料について

授業料は，入学後に口座引落により納入していただきますので，入学時に納入する必要はありません。なお，授業料の金額（予定額）は次のとおりです。授業料の改定が行われた場合は，改定時から新たな金額が適用されます。

授業料（予定額）	前期分　267,900円 後期分　267,900円 合計（年額）　535,800円

２．諸会費について

入学時に必要となる入学料以外の諸会費（「学生会」「後援会」「同窓会」の会費等）については「入学手続の手引き」送付の際にお知らせします。

9．入学料・授業料の減免について

経済的理由により入学料または授業料の納入が困難で，かつ，大学等における学業成績が優秀と認められる場合には，選考のうえ入学料または授業料の減免が許可される制度があります。

10. 注　意　事　項

⑴　出願手続後は，提出書類の変更および検定料の返還には応じません。

⑵　出願者に対する宿泊施設の斡旋は行いません。

⑶　令和４年度（令和５年３月）退職予定教員は，修了研究の指導を担当しません。

⑷　入学後研究しようとする専門領域にかかわる指導教員（予定）の有無について不明の際は，あらかじめ文書により問い合わせてください。

⑸　令和３年11月以降に２次募集を行うことがあります。実施する場合は，募集要項を令和３年10月下旬以降に公表する予定です。

⑹　学生募集要項に関して不明な点があれば，福島大学入試課に照会してください。

福島大学入試課
〒960－1296　福島市金谷川１番地
☎　024－548－8064

11. 入学志願者の個人情報保護について

本学では，提出された出願書類や入学試験により個人情報を取得します。取得した個人情報は，「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」および「国立大学法人福島大学個人情報保護管理規則」に基づき下記の目的でのみ利用し，その保護に努めます。

○　入学者選抜に関する業務（統計処理等の付随する業務を含む。）に利用します。

○　入学手続に関する業務に利用します。

○　入学手続完了者にあっては，入学後の修学指導業務および学生支援業務，授業料徴収業務，入学者の教育に係る調査研究に利用します。また，入学料免除，授業料免除および各種奨学金に申請（応募）者にあっては，入学試験の成績等を当該免除者または奨学金貸与者の選考判定に利用する場合があります。

なお，出願手続に関する業務を円滑に進めるため，業務の一部を外部に委託しています。委託先に対して，必要な個人情報を提供しますが，委託先との間で適切な取り扱いに関する契約の締結をはじめ，適切な監督を行います。

12. 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について

本学では，東日本大震災，東京電力福島第一原子力発電所事故，および平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し，被災受験者の進学機会の確保を図るために，令和３年度に行われる全ての入試において，検定料免除の特別措置を下記のとおり行います。

⑴　対　象　者

出願期間までに次のいずれかに該当すると認められた本学入学志願者については，検定料を全額免除します。

①　東日本大震災において指定された災害救助法適用地域で被災された方，または平成23年度以降に「激甚災害」に指定された災害により被災された方で，本人または主たる家計支持者

が居住していた家屋が全壊，大規模半壊，半壊，流失の罹災と認定された方

② 東日本大震災において指定された災害救助法適用地域で被災された方，または平成23年度以降に「激甚災害」に指定された災害により被災された方で，主たる家計支持者が死亡または行方不明となった方

③ 東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて設定された「警戒区域」,「計画的避難区域」,「緊急時避難準備区域」,「特定避難勧奨地点」に平成23年３月11日時点で本人または主たる家計支持者が居住していた方で，これに伴い避難を余儀なくされた方

上記免除対象者の詳細については以下の表をご確認ください。

<table>
<tr><td>区　　分</td><td colspan="5">検定料免除の可否（可は○，否は×で示しています）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①家屋の全・半壊</td><td>全　壊</td><td>大規模半壊</td><td>半　壊</td><td>流　失</td><td>一部損壊</td></tr>
<tr><td colspan="4">○</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②主たる家計支持者が死亡または行方不明</td><td colspan="4">主たる家計支持者</td><td>主たる家計支持者以外</td></tr>
<tr><td colspan="4">○</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③原発事故による影響</td><td>警戒区域</td><td>計画的避難区域</td><td>緊急時避難準備区域</td><td>特定避難勧奨地点</td><td>それ以外の地域</td></tr>
<tr><td colspan="4">○</td><td>×</td></tr>
</table>

注：区域については，再編前の区域としています。

⑵ 必 要 書 類

検定料免除を申請するにあたって必要な書類は以下のとおりです。

①検定料免除申請書（本要項に添付された指定の様式）

②次に挙げる証明書のいずれか一つの写し

上記⑴①に該当する場合，「市町村長が発行する罹災証明書」

上記⑴②に該当する場合，「主たる家計支持者の死亡または行方不明を確認できる書類」

上記⑴③に該当する場合，「避難している（いた）ことが確認できる書類」（自己申立書でも可）

⑶ 必要書類の提出方法と提出期間

出願期間中に出願書類と合わせて提出してください。

なお，検定料免除申請を行う場合は，出願時に検定料を払い込まないでください。また，「検定料収納証明書貼付票」の提出は不要です。

13. 令和４年度入試における新型コロナウイルス感染症対応について

⑴ 検定料返還および振替受験について

令和４年度福島大学大学院人間発達文化研究科（修士課程・専門職学位課程）入試において新型コロナウイルス感染症の罹患等により，受験することができない者は，以下のとおり検定料返還もしくは振替受験を申請することができます。

（注） １次募集においては，検定料を返還します。なお，２次募集を行う場合に，２次募集志願者が新型コロナウイルスに罹患等で欠席した場合には振替受験を行います。

① 対 象 者

Ⅰ 新型コロナウイルス感染症に罹患し，試験日までに医師が治癒したと診断していない者（無症状の者を含む）

Ⅱ 試験直前に保健所等から濃厚接触者に該当するとされた者

（注） ただし，無症状の濃厚接触者については，後掲「⑵ 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応」による申請により，受験を許可された場合，別室での受験ができます。

Ⅲ 発熱・咳等の症状があり，試験当日の検温で３７．５度以上の熱がある者

② 申 請 期 間

試験日の前日および当日 ９：00～17：00

③ 申 請 手 続

A 申請期間内に本人または代理人が「受験票」と「診断書等（治療期間及び検温した体温が明記されたもの）」を持参し，「追試験等申請書」により申請してください。

B 申請期間内に本人または代理人が来学できない場合は，電話で受付を行います。受付後，「受験票」および「診断書等」の提出が必要となります。

（注） 診断書等の提出は申請期間の翌日までとします。（翌日が土曜・日曜にあたる場合は，月曜日（月曜日が祝日にあたる場合は火曜日）とします。）

④ 申請結果について

認否については，本人に通知します。

⑤ 検定料の返還について

検定料の返還手続については，上記①～④と同様の手続となります。検定料の返還が認められた場合には，別途，「検定料返還請求書」を提出してください。指定する銀行口座に振り込みとなります（ただし，振込手数料を減じた額となります）。

⑵ 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応について

本学を受験予定で，保健所より濃厚接触者に該当すると伝えられた者のうち，以下のいずれの要件も満たす場合で，本学入試課へ所定の申請手続を行い，受験を許可された場合，別室での受験ができます。

保健所より濃厚接触者に該当すると伝えられた者で受験を希望する場合は，まずは速やかに本学入試課に電話でご連絡ください。なお，原則入試２日前の午前10時までに入試課にご連絡をお願いします。

【受験を認める要件】

① 初期スクリーニング（自治体による PCR 検査または検疫所における抗原定量検査）の結果，陰性であること

② 公共の交通機関（電車，バス，タクシー等）を利用せず，かつ，人が密集する場所を避けて試験場に来ることができること（自家用車等を利用すること）

③ 受験当日も無症状であること

（注）１．本学入試課への申告後に別室での受験に問題がないと判断された場合，申請者へ確認を行うと同時に，速やかに郵送またはメールで申請者宛てに許可証を送付します。

２．受験当日は許可証を持参し，指定時間，指定場所（許可証と同封）に集合してください。そこで，無症状であるかの確認を行います。

試験当日にいずれの要件も満たした場合は，感染防止対策をとり，別室受験とします。
試験当日に発熱，咳等の症状がある場合には受験できません。

⑶ 受験生のみなさまへのお願い

本学では，試験場等の衛生管理体制に万全を期し，入試を実施します。受験生のみなさまは，以下の新型コロナウイルス感染症対策をお願いします。

≪試験前≫

○日頃からの体調管理，不要不急の外出等は行わないなど，感染リスクを避ける行動を心がけてください。

○新型コロナウイルス感染症に罹患し治癒していない者および保健所等から濃厚接触者に該当するとされた者は受験できません。（無症状の濃厚接触者は「⑵ 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応について」をご確認ください）

≪試験当日≫

○試験当日は，検温を行い３７．５度以上の熱がある場合は受験を取り止めてください。

○試験場内において，写真照合時を除き，必ずマスクを着用してください。

○アルコールによる手指消毒，トイレ後の手洗いを行ってください。

○発熱，咳等の体調不良の場合には，試験監督等に申し出てください。

○換気を行いますので，体温調節が可能な服装をご準備ください。

○試験前，休憩時間等は，他者との接触・会話を極力控えてください。

○移動の電車等においても，マスクを着用し，友人との会話は極力控えてください。

≪試験終了後≫

○入学試験受験後，２週間以内に新型コロナウイルス感染症に罹患したことが判明した場合には，必ず，福島大学入試課に連絡してください。

○入試において感染者が出た場合には，保健所に連絡先等の情報提供を行う場合があります。ただし，提供する個人情報は新型コロナウイルス感染症拡大防止以外には利用いたしません。

Ⅱ　福島大学大学院人間発達文化研究科（修士課程・専門職学位課程）案内

１．人間発達文化研究科の目的

本研究科は，教育を「人間発達」と「文化」の両視点からとらえ直し，それぞれの関心に応じて深化させるだけでなく，従来の枠組みを越えた専門性を構築することを目的とします。そのために，自らの学問追求の成果を実践の場に生かし，その結果から自らの学問追求の課題を省察します。こうして，教育と，人間発達，言語，地域生活，数理，自然科学，芸術，スポーツに関わる諸学問を，現実の課題に関係づけることによって，それぞれの学問体系を再構成します。このように，地域社会の発展に資する知の在り方を探究することを通して，教員としての専門性の向上や，今日の課題に応えることのできる実践力のある高度専門職業人の育成をめざします。

２．研究科の概要・特徴

本研究科は，「教職実践専攻（教職大学院）」，「地域文化創造専攻」「学校臨床心理専攻」の３専攻より成っており，各専攻には下表のような学問分野・授業科目領域を設け，研究科全体としては次のような特徴を持っています。

専　攻	領域・コース	分野・授業科目領域
教職実践（教職大学院）	ミドル・リーダー養成コース 教育実践高度化コース 特別支援教育高度化コース	必修の共通５領域として，教育課程の編成・実施に関する領域，教科等の実践的指導方法に関する領域，生徒指導・教育相談に関する領域，学級経営・学校経営に関する領域，学校教育と教員のあり方に関する領域，選択領域として，学校改革領域，授業改善領域，特別支援に関する理論と実践領域がある。
地域文化創造	人間発達支援領域	教育心理学，発達心理学，障害学，幼児教育，幼児心理，保育内容
	日英言語文化領域	日本語学，日本文学，漢文学，国語科教育学，英語学，英米文学，英語科教育学
	地域生活文化領域	歴史学，地理学，倫理学，経済学，社会学，社会科教育学，食物学，被服学，住居学，家庭科教育学
	数理科学領域	代数学，幾何学，解析学，生態学，地球科学，理科教育学
	スポーツ健康科学領域	運動学，運動生理学，スポーツ教育学，スポーツ医学，スポーツ社会学，コーチ学，保健体育科教育学，バイオメカニクス
	芸術文化領域	器楽，声楽，作曲，音楽科教育学，絵画，彫刻，美術理論・美術史，美術科教育学
学校臨床心理	臨床心理領域	臨床心理学，教育臨床学，発達臨床学，家族臨床学，児童福祉臨床学，犯罪心理臨床学
	学校福祉臨床領域	学校福祉学（生活指導を含む），学校保健，健康教育

⑴　人材育成を主眼としたカリキュラム構造

教職実践専攻では，ミドル・リーダーとなる教員を養成するために，必修の「共通５領域」および「学校における実習領域」に加え，目的に応じて学びを深化させる「選択科目領域」や，理論を実践に生かし省察する「プロジェクト研究領域」を配置します。

地域文化創造専攻および学校臨床心理専攻では，高度専門職業人を養成するために，「課題研究」および「専門演習」を軸とした「専門探究力」に加え，「コーディネート力」や「人材育成力」を育むための「専攻共通科目」，「領域共通科目」などの科目を配置します。また，必要に応じて「実践研究」を修了研究に結びつけることができます。

⑵　大学院学生相互の研究交流を重視した授業科目の配置

今日，高度専門職業人に必要とされる「省察的実践力」（自他の実践を省察することによって得られる実践力）を身につけるための機会を授業として位置づけています。教職実践専攻では，週間・月間カンファレンスやラウンドテーブル（教育実践報告会）を実施し，地域文化創造専攻では学生の研究交流による「実践コミュニティ」の形成をめざし「領域共通科目（領域コミュニティ）」を各領域に配しています。

⑶　少人数のゼミナール形式による授業

多くの授業科目が少人数によるゼミナール形式であり，その多くは教員と学生，学生相互のディスカッションを含むものです。演習科目も多く，個々の学生の興味や関心に沿った授業展開が可能です。

⑷　複数指導教員による多面的指導

教職実践専攻および地域文化創造専攻では，主指導教員と副指導教員の複数指導体制で研究を進めます。両者は，学生の研究テーマに即したより有効な研究方法や指導方法について話し合い，研究のまとめまでを一貫して進めていきます。

⑸　現職のまま学べる多様な履修形態

学校臨床心理専攻では，現職に就いたまま学ぶことができるよう，昼夜開講制による授業を導入し，また，長期履修制度による３年以上の長期履修に対応しています。

３．専攻・領域の概要

⑴　教職実践専攻

本専攻では，「マネジメント経験を積みながら省察する実践力」「高度な授業力」「アクティブな理論的探究力」「新たな教職への自覚と強い責任感」をもち，理想とする教員像と自らの役割を常に問い続け，教育課程を含む学校のマネジメント経験を積みながら教師力を向上させていく教員，すなわち福島県の教育を牽引する「ミドル・リーダー（次のミドル・リーダー，次世代のミドル・リーダーを含む）」を養成します。教育に関する理論と学校現場における教育実践とを往還させる仕組みとして，「学校における実習」においてカンファレンスを，「プロジェクト研究」においてラウンドテーブル（実践報告会）を実施し，自らの実践を省察し次の実践へステップアップする力を育成し，学校改革・授業改善に結びつく実践的研究能力を育成します。

「ミドル・リーダー養成コース」は現職教員のみを対象とし，授業力や生徒指導力などの自らの教育実践力をもとにマネジメント経験を積み，学期や年間を通しての学年，学校レベルの課題に対応する力を身につけて，学年，学校経営課題への対応力を磨きます。

「教育実践高度化コース」は若手現職教員で様々な実践課題が見え始めた方や，多様な現職教員と交流することを通じて教育実践の課題を総体として理解し，学校教員となりたい学部新卒学生を対象とし，授業力など基盤となる教育実践力を磨きます。

「特別支援教育高度化コース」は障害の重度化・重複化・多様化に対応できる専門性の高い特別支援学校教員を目指す現職教員，学部新卒学生を対象とし，高度な教育実践力や学校マネジメント力を磨きます。

(2) 地域文化創造専攻

本専攻では文化を「人間発達支援」「言語」「社会や生活」「数理的・科学的思考」「身体」「表象」の６つの側面に分け，対応する６つの領域の文化に関する高度な専門探究力を身につけるとともに，現実の地域社会の様々なニーズに対応できるコーディネート能力と，地域における有為な人材育成を担うことのできる，学際的・複眼的対応力を持った〈地域支援エキスパート〉を育成していきます。加えて，学校教育の教科内容と教科教育法を中心とした研究も行い，教員としての指導力の向上に結びつけることができます。

○ 人間発達支援領域

本領域の発達科学に関する分野では，教育心理学，発達心理学，障害学などについて研究を行うとともに，乳幼児期から老年期までの生涯発達の理解を目指します。発達科学に関する高い専門性を身につけ，人や社会に対して客観的な視点をもち，科学的思考および問題解決ができる人材を育成します。

幼児教育や保育に関する分野では，行政・保育者・保護者・社会にまつわる現代的課題を踏まえて，幼児教育や幼児心理，保育内容の観点から，乳幼児期の健全な発達を保障する教育や保育について研究します。保育に関わるさまざまな現場で，高い専門性を備えて実践をリードできる人材を育成します。

○ 日英言語文化領域

本領域では，日本語および英語圏の言語研究，文学研究に加え，日本文化との関わりが深い中国文化の研究に基づいて，通時的・共時的な比較研究の視点をふまえつつ，世代や地域をつなぐ文化の橋渡し役としての能力を養成します。

人間や社会に対する深い洞察力を身につけ，文化の継承・伝達・創造に寄与することのできる人材，日本語および英語圏の地域の文化理解に必要とされる高度な専門的知識をもち，地域間交流，世代間交流，国際交流の諸活動をリードすることのできる人材を育成していきます。また，国語科や英語科の教科内容，教科教育法についての研究を行い，確かな指導力と知識・技術をもった教員を養成します。

○　地域生活文化領域

本領域では，社会科学と生活科学全般をつなぎ合わせ，現代の社会・自然環境の実態を把握するための研究方法を習得するとともに，地域の文化・生活のあり方について学んでいきます。そして，現代社会が生み出す複合的問題を解決する能力を身につけさせるとともに，実践的コミュニケーションスキルを育成していきます。これらを通じて，地域特性や生活実態を調査し統計的にまとめていく研究能力と，地域に積極的に入っていくコーディネート能力と，組織，施設，地域の中で人材教育や消費者教育などを行うことのできる教育力を兼ね備えた地域支援エキスパートを養成していきます。また，社会科・地理歴史科・公民科・家庭科の教科内容，教科教育法についての研究を行い，確かな指導力と知識・技術をもった教員を養成します。

○　数理科学領域

本領域では，数学・自然科学の研究を通して専門的能力を高め，さらに，さまざまな現象を論理的・体系的に理解する能力を養成します。数学・自然科学ばかりではなく，隣接分野などを幅広く学習することにより広い視野の獲得をめざします。数理科学領域での研究活動により獲得された，豊かな専門性と広い視野を活かして，企業・団体の中で活動することのできるバランスのとれた高度専門職業人の育成を行います。そして，地域の自然や文化にも明るい将来のリーダーとして，企業・団体で大いに活躍できる人材の育成をめざします。また，算数・数学科や理科の教科内容，教科教育法についての研究を行い，確かな指導力と知識・技術をもった教員を養成します。

○　スポーツ健康科学領域

本領域では，現代社会におけるスポーツ・体育・健康の諸問題を科学的認識に基づいて究明し，スポーツ文化の発展や，人々の健康的なライフスタイルの確立に貢献できる人材を養成していきます。総合型地域スポーツクラブマネージャーを指導，育成していく人材や，各種目のスポーツ指導者をリードするような高度な専門的力量を持った優れた指導者，また，健康増進施設等を統括し，運動プログラムの作成，管理やインストラクターの指導ができるような人材を育成していきます。また，保健体育科の教科内容，教科教育法についての研究を行い，確かな指導力と知識・技術をもった教員を養成します。

○　芸術文化領域

本領域では，音楽や美術の専門的なスキルの獲得および理論の構築を根底に置き，人間個人や社会における表現の意義を明確にして表現活動を核にした地域再生や活性化を推進できる人材を養成していきます。地域の音楽・美術活動をリードし，文化事業の運営に必要とされるコーディネート力を身につけた人材や，地域資源に精通し，地域の人々に対して幅広い手法で芸術文化を発信することの出来る人材を育成していきます。また，音楽科や美術科の教科内容，教科教育法についての研究を行い，確かな指導力と知識・技術をもった教員を養成します。

⑶　学校臨床心理専攻

本専攻は，社会人を含む援助専門職に携わろうとする者や現職のままキャリアアップをめざす教員らを対象に，様々な課題を抱える子ども・青年やその家族に対応する効果的な指導・援助・支援を行うための臨床的方策について，教育・研究を行います。現職に対応するために，昼夜開講制を実施し，土曜日の授業，休業期間中の集中講義も行っています。「臨床心理領域」と「学校福祉臨床領域」の２領域を置き，高度な知識や能力，技能の習得という専門性，ならびに学校教育と心理臨床や福祉，保健，医療，司法，矯正保護等とを結びつける統合性という２つの観点から，各種の臨床機関や学校で活躍するエキスパートの養成を行います。

○　臨床心理領域

本領域は，心理学や教育学などの人間諸科学の基礎をふまえて，学校や地域，家庭における臨床心理学の実践的スキルを学び，様々な課題を抱える子ども・成人やその家族に対応する効果的な指導・援助・支援を行うための臨床的方策について，教育研究を行います。

また，円滑に学校生活を送ることをめざす教育臨床と，子どもの発達に関わる発達臨床，精神障害を対象とした病院臨床，非行問題等の心理臨床などのアプローチを行います。学際的教育研究を通して，公認心理師，臨床心理士やスクールカウンセラー，臨床機関の専門家として実践できる人材の養成をめざします。

○　学校福祉臨床領域（**募集停止中**）

本領域は，子どもの生活や学習の全体を踏まえ，学校，家庭，地域の協働に着目し，子どもの発達支援，家族支援の創造に関心のある教員，社会福祉職（スクールソーシャルワーカーなど），社会人，学部卒業生等の研究・教育のスキルアップを目指します。

４．授業科目および履修基準

⑴　授業科目の構成

①　教職実践専攻

１．「共通５領域」（20単位）をおき，教育の理論について学び，大学院生の実践課題追究の基礎を形成します。さらに「選択科目領域」（８単位）には，学校改革領域，授業改善領域，特別支援に関する理論と実践領域の科目をおき，理論を深化・発展させ実践に活かす礎とします。

２．「学校における実習領域」（10単位）では，インターンシップや先進的な教育実践の視察，研究授業や教員研修の企画運営などの学校支援を通して，実践力を養います。

３．「プロジェクト研究領域」（８単位）では，ラウンドテーブル（教育実践報告会）を設定し，自他の実践内容を相互に批評できる「省察的実践家」としての資質を高め，理論と実践との統合を図ります。

②　地域文化創造専攻

１．主として教育心理学，幼年教育，言語や地域生活，数理・自然科学，スポーツ・健康，芸術などの各文化領域に関わる授業科目を配置します。

2．「専攻共通科目」（２単位）をおき，高度専門職業人としての基本的資質を形成していきます。

3．「領域共通科目」（２単位）として，「人間発達支援コミュニティⅠ・Ⅱ」「日英言語文化コミュニティⅠ・Ⅱ」「地域生活文化コミュニティⅠ・Ⅱ」「数理科学コミュニティⅠ・Ⅱ」「スポーツ健康科学コミュニティⅠ・Ⅱ」「芸術文化コミュニティⅠ・Ⅱ」（各１単位，隔週）をおき，研究交流の活性化を図るとともに，自他の研究内容を相互に批評できる「省察的実践家」としての資質を高めます。

4．地域においてフィールドワークや事例研究を行う科目（選択必修，２単位）をおき，地域に根ざした実践研究を重視するとともに，理論との架橋をめざし，地域支援エキスパートに必要なコーディネート力を養成していきます。

③　学校臨床心理専攻

1．履修基準は，①基礎論は「学校臨床心理特論」を含めて６～８単位，②方法論は４～６単位，③実践論は６～８単位，④実践研究は２単位，⑤課題研究は２単位，⑥自由選択は６～８単位，合計30単位を修得しなければなりません。

2．ただし，臨床心理領域は，公認心理師となるために必要な科目が設けられています。また，（公財）日本臨床心理士資格認定協会（以下「協会」）により第１種の臨床心理士養成大学院として指定されています。当該領域に入学した学生は，公認心理師に必要な科目や協会で定める所定の科目の単位を履修しなければなりません。

⑵　履修基準

①　教職実践専攻

区　　分	単位
共通５領域	20
選択領域	8
学校における実習領域	10
プロジェクト研究領域	8
合計単位	46

②　地域文化創造専攻

区　　分	単位
専攻共通科目	2
領域共通科目	2
専攻専門科目	14
課題研究	4
専門演習	4
自由選択	4
合計単位	30

③　学校臨床心理専攻

区　　分	単位	
基礎論	6～8	計 12
方法論	4～6	
実践論	6～8	
実践研究Ⅰ・Ⅱ	2	
課題研究Ⅰ・Ⅱ	2	
自由選択	6～8	
合計単位	30	

備　考：学校臨床心理専攻の「実践研究Ⅰ・Ⅱ」および「課題研究Ⅰ・Ⅱ」についての履修方法は，それぞれの区分に応じ，ⅠおよびⅡの両方を選択履修することが望ましい。

(3) 授業科目一覧

（ただし授業科目名，授業科目の内容および担当教員の一部を変更することがあります。）

○ 教職実践専攻

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
教育課程編成実践研究	教科と領域等を結ぶカリキュラム・デザインができる教員を育成する。教育課程の編成方法及び構成要素間の関連の在り方，個々の児童生徒等の学びの履歴の在り方について理解し，教育課程全体の編成について多様な計画を試作することができる。	2	三石　初雄 （非常勤）
特別支援学校における教育課程編成の実際	特別支援学校における教育課程編成について，理論的理解および実践的理解を目指す科目である。特に，知的障害に特徴的な教育課程編成を中心として，肢体不自由や病弱に関する教育課程についても理解を深める。	2	特任教授 小檜山宗浩 （令和3年度担当）
授業づくりの理論と実際	文献購読のみならず，授業の事実に基づき他者と共に振り返ることで，子どもの学びを見取り，授業づくりに生かす思考を深める。それを通して，継続的な授業改善を支える授業観や教師観を身につける。	2	坂本　篤史 宗形　潤子
教材開発と教育方法の実践と課題	高度な授業力を形成するための教材開発と教育方法について，グループディスカッションを通した授業開発や，学校現場への訪問，授業実践の振り返りなどにより実践的に学ぶ。それらを通して，教科観や教材観を深める。	2	坂本　篤史 橋本美智子
生徒指導の事例研究	生徒指導の基本的な視点を学ぶとともに，諸事例の検討を通じて生徒指導の問題の解決をめざす。生徒指導の意義と原理や子ども理解の必要性を押さえた上で，学校や教師による取り組みを事例検討するなかで，問題解決に向けての視点と方策を修得する。	2	教授 松下　行則 （令和5年3月 退職予定）
学校カウンセリングの事例研究	特別な支援が必要とされる個々の生徒の状況や家庭環境を理解し，有効な指導方法と多角的な支援等の学校カウンセリングの実践に基づく事例検討を通して，家族を含めた生活指導や学校カウンセリングについて理解を深める。	2	特任教授 片寄　　一 （令和3年度担当）
特別な支援が必要な生徒に対する学校カウンセリングの実際	特別な支援が必要とされる児童生徒に対する生活指導の実践に基づく事例検討を通して，特別支援教育における学校カウンセリングについての実践力を高める。	2	
学校ガバナンスの事例研究	本授業は学校経営，教育行政の先進事例に関する講義をまず行い，その後，受講生自身が先進事例や身近な事例を調査し報告する。受講生の報告はグループによる調査を計画し，実際に報告する課題解決学習とする。	2	准教授 阿内　春生
学校・学級づくりの実践研究	現代学校経営の基礎となった1998年中教審答申の「学校の自律性」以降から現在の「地域と共にある学校」にいたるまでの学校経営・学校づくりの指針を学んだ上で，特色ある学校づくり・学級づくりの事例を検討し，ミドル・リーダーの役割を明らかにする。	2	教授 松下　行則 （令和5年3月 退職予定）
特別支援学校における学級経営の実践研究	特別支援学校における学級経営について，理論的理解および実践的理解を目指す科目である。知的障害に対する学級経営を中心として，肢体不自由や病弱を対象とした学級経営の実態と課題について理解を深める。	2	特任教授 小檜山宗浩 （令和3年度担当）
特別支援学校における学校経営の実践研究	特別支援学校における学校経営について，理論的理解および実践的理解を目指す科目である。今般の特別支援学校の学校課題とその対応策について事例をもとに理解を深める。	2	
学校と地域	子育て，環境問題，地域福祉など広く現代の地域と学校に関わる諸問題に取り組む地域学習実践に焦点を当て，論文や実践記録を素材に学生相互で議論を行う。さらに，これら先駆的実践例をもとにそれらの実践を支えた構造と方法等について探究する。	2	特任教授 中田スウラ （令和3年度担当）
公教育の理念と教育改革	19世紀以降各国において確立してくる公教育について，基本的事項を学ぶ中でその理念を明らかにする。レクチャーやグループによりこれからの教育実践を担うにふさわしい教育観を各自が持つことを目的とする。	2	教授 谷　　雅泰
特別支援学校と地域の実践研究	特別支援学校が地域において果たす役割について，特別支援学校のセンター的機能に着目して理解を深める。実践的事例検討を通して，幼児児童生徒に対する支援，教員に対する支援，関係機関との連絡調整などを理解する。	2	特任教授 小檜山宗浩 （令和3年度担当）

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
福島の学校と教育課題Ⅰ	震災後の福島の教育について，学校がどのような状況に置かれてきたかの概要を理解する。関係者をゲストスピーカーとしたレクチャーを受け，福島の教育課題は何かについて，受講者同士のディスカッションにより明らかにしていく。	1	特任教授 中田スウラ （令和３年度担当）
福島の学校と教育課題Ⅱ	同Ⅰの受講を前提に，さらに震災後に福島の学校の置かれた現状について追究する。Ⅰ・Ⅱの授業は合同で行われるので，２年生は昨年度の学びを前提に１年生の学びをリードし，福島の教育課題についてさらに明らかにしていく。	1	
学校マネジメント論及び事例研究	学校改革の歴史的経緯や「チーム学校」等の最新の動向を踏まえ，ミドルリーダーとしての「学校マネジメント」を修得し，現任校等の事例をもとに改善プランや評価の視点等を明らかにし実践に取り組めるようにする。	2	特任教授 佐藤　和彦 （令和３年度担当）
教育行政の理論と実践	教育関連法規や政策動向，政治と教育の関係変化，学校教育をめぐる裁判例などを理解し，学校の中核的リーダーとしての資質向上を目指す。講義は事例研究を中心に教育政策の動向や学校をめぐる裁判事例などを扱う。	2	准教授 阿内　春生
教師の成長と授業研究	授業研究会を通した教師の学びのあり方について，文献購読のみならず，学校現場への訪問観察などにより学ぶ。それを通して，校内研修として授業研究会をミドルリーダーとしてデザインし実施するための視点を深める。	2	准教授 坂本　篤史
世界の教育改革と現在	1980年代以降の世界的な経済の構造転換・国際化と教育改革，21世紀の知識構造社会における教育改革に視点をあて，国際的な比較の視点のもとに，歴史的展開の事例を学ぶ事を通して，21世紀への世界的な教育改革の動向を明らかにすることを目指す。	2	未　　定
主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅰ（言語活動・表現活動）	言語活動・表現活動に関する資質・能力の育成について，主体的な学びの視点からその理論と方法を修得する。具体的には，育成する能力を教科個別的な視点と教科横断的な視点から整理し，授業を構想し検証する。	2	小川　　裕 太田　　孝 他
主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅱ（課題探求・解決力）	本授業では，自己の実践を相互に振り返り，仮説を設定し，解決のための構想を基に授業参観をし，授業の再構築をはかる。これら一連の活動を通して，課題探求・解決力の育成についての考察を深め，授業力を高めていく。	2	鈴木　昭夫 浜島　京子
主体的な学びで育成するための理論と実践Ⅲ（協働的問題解決・自己有用感）	協働的問題解決・自己有用感を生かした学びについて，これまでの研究の成果に基づいて，授業過程の構想と実践，分析と考察を行い，主体的な学びの具現に向けた授業改善に必要な知識や素養を身に付ける。	2	森本　　明 粊田　惣男 菅家　礼子
国語授業の理論と実践	「主体的・対語的で深い学び」の視点から国語科授業の在り方や方法について探究する。国語科の専門的内容に関する最新の学術的動向を踏まえた上で，これから求められる教科内容を構築する力を養い，授業実践力を高める。	2	特任教授 太田　　孝 （令和３年度担当） 他
社会科授業の理論と実践	社会科の誕生の歴史や実践を分析し，教科の本質やその背景となる社会科学の内容について強化。また，主体的な学びを進めるために，学習指導要領や今日的課題等を協働で省察，分析し，実践力を高める。	2	特任教授 粊田　惣男 （令和３年度担当） 他
算数・数学授業の理論と実践	これまでの算数・数学教育研究の成果ならびに学校現場における算数・数学授業研究の成果に基づいて，授業過程の構想と実践，分析と考察を行い，算数・数学の授業改善に必要な知識や素養を身につける。	2	教授 森本　　明 他
理科授業の理論と実践	理科における今日的課題，現代的科学観，指導内容の系統性等を踏まえ，課題を明確にし，児童・生徒理解，教材研究，指導内容の関連性等から深く研究する。その際，PBL の手法を取り入れるとともに，教材研究に当たっては最新の科学的知見や ICT 等の活用を踏まえる。	2	特任教授 鈴木　昭夫 （令和３年度担当）
音楽授業の理論と実践	音楽各分野の専門的な知識・技能の深い修得を図るとともに，「音楽的な感受」を核にした授業を立案し，感性を豊かに働かせて主体的・創造的に音楽表現したり鑑賞したりする能力を育てるための理論と方法を修得する。	2	特任教授 小川　　裕 （令和３年度担当）
図画工作・美術授業の理論と実践	図工と美術の授業計画の組み立て，教材開発，指導と評価の在り方について，今日的教育課題と照らし合わせながら，表現・鑑賞領域の専門知識と技能の習得をとおして新たな視点から捉え直し，探究していく。	2	特任教授 内藤　良行 （令和３年度担当）

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
家庭科授業の理論と実践	本授業では，児童・生徒が家庭生活への関心を高め，生活改善を目指す家庭科授業について，問題解決学習やアクティブラーニングのあり方を含め，実践例の分析，授業案・教材の作成，授業実施，討論等を通して検討を深める。	2	特任教授 浜島　京子 （令和３年度担当）
体育授業の理論と実践	体育科教育，身体，運動文化に関する新たな知見の習得と授業分析を通して，主体的な学びを保障する授業を探究する。また，受講者自身の実践力向上のための課題とその解決策を見出すことを目指す。	2	特任教授 菅家　礼子 （令和３年度担当）
英語授業の理論と実践	多様な理論（第二言語習得，英語構造，英語圏を中心とした文学及び文化的コード等）に基づき，授業の実践へ向け建設的な問題意識を喚起しつつ，多角的視点からより良い授業実践を研究し続ける能力を醸成する。	2	芝田　直久 （非常勤）
道徳科授業の理論と実践	「考え，議論する」道徳科授業を実践するために教科書の実践的検討を行い，道徳科にふさわしい目標の立て方，発問の工夫，評価の仕方など，問題解決を促す授業実践の実際を実践事例をもとに検討し，道徳科授業づくりを行う。	2	教授 松下　行則 （令和５年３月 退職予定）
生活科・総合的な学習の時間に関する理論と実践	生活科や総合的な学習の時間の課題を踏まえ，その存在意義を設立趣旨や自他の実践の省察等から協働的に学ぶ。子どもの思いや地域を生かし，各教科と関連付けたカリキュラム開発とマネジメントの力を身に付ける。	2	宗形　潤子 鈴木　昭夫
インクルーシブ教育システムと障害理解教育の実践	インクルーシブ教育システムの理論および実践について理解を深めた上で，障害理解教育の模擬授業を交えて，インクルーシブ教育を取り巻く現状と課題について学ぶ。社会における障害理解の促進に向けて，特別支援教育の立場から考える。	2	准教授 髙橋　純一
障害児に対する実践的指導方法の事例研究	特別支援学校やその他の学校現場に在籍する障害児への実践的指導方法および効果的な事例検討の技法を学ぶ。そのうえで，事例検討を通して個別性に基づいた教育的関わりを探る。	2	特任教授 片寄　　一 （令和３年度担当）
障害児に対する実践的指導方法の実際	特別支援学校在籍児童生徒に対する実践的指導方法の実際を学ぶ。個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成，教材開発，校内委員会などについて実践的支援方法の習得を目指す。	2	教授 鶴巻　正子
応用行動分析学からみた知的障害教育の事例と実践	前半は子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用の視点から応用行動分析学を学び，特別支援学校在籍児童生徒の行動理解や指導方法を演習形式で検討する。後半はその視点から知的障害教育の事例と実践を省察する。	2	
自立活動の事例と実践	肢体不自由児を対象とした自立活動の理論と実践について学ぶ。自立活動の授業内容，教師の専門性の向上，他職種との協働の必要性など，効果的な自立活動の実践について授業分析を通して学ぶ。	2	特任教授 小檜山宗浩 （令和３年度担当）
病弱児教育の事例と実践	特別支援学校，特別支援学級，通級，院内学級，自宅等様々な場所で行われている病弱児教育について，事例と実践を通して有効な教育方法を探る。	2	特任教授 片寄　　一 （令和３年度担当）
長期インターンシップⅠ	学部新卒学生用であり，大学教員や実習校教員の指導，現職教員学生の支援を得ながら，教科指導・授業づくりだけでなく，生徒指導・生活指導，学級経営・学級づくりをはじめとする教員の仕事の総体を１年間（前期）にわたって経験する。	4	全　　員
長期インターンシップⅡ	学部新卒学生用であり，大学教員や実習校教員の指導，現職教員学生の支援を得ながら，教科指導・授業づくりだけでなく，生徒指導・生活指導，学級経営・学級づくりをはじめとする教員の仕事の総体を１年間（後期）にわたって経験する。	6	全　　員
教職専門実習Ⅰ	若手現職教員学生用であり，連携協力校などの先進的な授業実践，児童生徒支援活動を参観し，授業や児童生徒支援改革の見通しを持つ。カンファレンス等を通して参観事例について学生間あるいは大学教員等と意見交換すると共に，自分自身の教育活動を振り返る。	2	全　　員
教職専門実習Ⅱ	ミドル・リーダー用であり，学校課題に対応するためのマネジメント力を育成するために，各教育機関を訪問したり，学校における現職教育の企画運営に参加したりする。また，連携協力校等の主任クラスの役割をシャドーイングを通じて実地に学ぶ。	3	全　　員
学校支援実習Ⅰ	若手現職教員学生用であり，連携協力校において，学部新卒学生のメンターとして定期的継続的にカンファレンス等を実施すると共に，チーム学校の一員として授業や行事等の支援を行う。	2	全　　員

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
学校支援実習Ⅱ	ミドル・リーダー用であり，チーム学校を支えるために，若い現職学生や学部新卒学生，講師等に指導・助言する。チーム学校の一員として，授業や学校行事等に参画する。	3	全　　員
教育実践高度化実習	若手現職教員学生用であり，拠点校の教員とＴ・Ｔ等を組み，教科指導・授業づくりと研究・提案授業，学級経営・学級づくり，不登校・特別支援等の児童生徒への対応などの各自の研究課題に即して実習を展開する。	6	全　　員
学校課題対応実習	ミドル・リーダー用であり，各自の研究課題に即して，連携協力校の協働実践研究・校内研究に研究協力者として関わる。その学校で行われる公開研究会に参加し，研究協議や指導助言を行ったり，あるいは教員研修等を企画運営したりする。	4	全　　員
教育実践高度化プロジェクト研究Ⅰ	学部新卒学生および若手現職教員学生用であり，研究課題に基づいて教育実践を行い，ディスカッションを通して省察し，課題設定をし，学校における実習と連携させ，教育実践の改善を行う。１年前期に配置し，研究課題を明確にする。	2	全　　員
教育実践高度化プロジェクト研究Ⅱ	学部新卒学生および若手現職教員学生用であり，研究課題に基づいて教育実践を行い，ディスカッションを通して省察し，再度課題設定をしなおして教育実践の改善を行う。１年後期に配置し，連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。	2	全　　員
教育実践高度化プロジェクト研究Ⅲ	学部新卒学生および若手現職教員学生用であり，研究課題に基づいて教育実践を行い，ディスカッションを通して省察し，課題設定をしなおし，教育実践の改善を行う。２年前期に配置する。	2	全　　員
教育実践高度化プロジェクト研究Ⅳ	学部新卒学生および若手現職教員学生用であり，研究課題に基づいて教育実践を行い，ディスカッションを通して省察し，課題設定をしなおし，教育実践の改善を行う。２年後期に配置する。	2	全　　員
学校課題対応プロジェクト研究Ⅰ	ミドル・リーダー用であり，学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い，ディスカッションを通して省察し，再度課題設定をしなおして教育実践の改善を行う。１年前期に配置し，学校課題に対応した研究課題を明確にする。	2	全　　員
学校課題対応プロジェクト研究Ⅱ	ミドル・リーダー用であり，学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い，ディスカッションを通して省察し，再度課題設定をしなおして教育実践の改善を行う。１年後期に配置し，連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。	2	全　　員
学校課題対応プロジェクト研究Ⅲ	ミドル・リーダー用であり，学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い，ディスカッションを通して省察し，再度課題設定をしなおして教育実践の改善を行う。２年前期に配置し，連携協力校での実践を分析しながら課題解決法を探究する。	2	全　　員
学校課題対応プロジェクト研究Ⅳ	ミドル・リーダー用であり，学校課題に対応した研究課題に基づいて教育実践を行い，カンファレンスを通して省察し，再度課題設定をしなおして教育実践の改善を行う。２年後期に配置し，実践結果の分析・評価を行うと共に，課題検証の実践を行う。	2	全　　員
特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅰ	特別支援教育に関する実践の省察，教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善を行うことで，理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。１年前期に配置し各自の研究課題を明確にする。	2	鶴巻　正子 小檜山宗浩 片寄　　一
特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅱ	特別支援教育に関する実践の省察，教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで，理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。１年後期に配置し，連携協力校での状況を分析しながら課題解決法を探究する。	2	
特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅲ	特別支援教育に関する実践の省察，教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで，理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。２年前期に配置し，授業等を計画し，教育実践を行い，カンファレンス等を通して省察する。	2	
特別支援教育実践プロジェクト研究Ⅳ	特別支援教育に関する実践の省察，教育実践プロジェクトや実習における課題設定・計画立案・省察・改善等を行うことで，理論と実践を往還しながら教育実践を進める力量を養う。２年後期に配置し，実践結果の分析・評価を行うと共に，課題検証の実践を行う。	2	

○　地域文化創造専攻（人間発達支援領域）

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
教育心理学特論演習	教育現場において必須と思われる心理学的知識として，「学習能力の発達の基盤となる認知発達」・「発達における認知機能障害」・「学校における心理的問題」について学ぶ。それを踏まえて後半では，先行研究を調べ，独自の手法について模索する。	4	教授 住吉　チカ
認知教育方法特論	効果的な教授技術の開発・教材作成のために必要な心理学的知識として特に，知識形成，問題解決能力，及び学習障害などのトピックスについて，認知心理学的視点から論じる。	2	
認知教育方法特論演習	知識形成，問題解決能力，及び学習障害についての知識を，どのように効果的な教授技術の開発・教材作成に活かせるか考えるために，認知心理学，発達心理学の手法を学ぶ。それを踏まえて後半では，先行研究を調べ，独自の手法について模索する。	4	
進路指導の心理特論	学校教育における進路指導の意義とその役割について，職業発達心理学の視点から検討する。特に，代表的な進路指導の理論を中心に進路指導に関する研究動向と今日のキャリア教育の動向を取り上げる。また，学校教育における進路指導の具体的な展開について文献や資料，データをもとに検討する。	2	未　　定
進路指導の心理特論演習Ⅰ	学校教育における進路指導やキャリア教育に関わる各種調査報告，研究論文を中心に関連する文献や資料を読みながら，今日の進路指導やキャリア教育の問題点や今後の課題について代表的な理論を中心に検討する。また，特に心理学的な調査研究のアプローチを習得し，自ら調査研究のデザインなど作成し，実際のデータに基づく報告書のまとめ方やプレゼンテーションについて学ぶ。	4	
進路指導の心理特論演習Ⅱ	進路指導に関する視点を基本に，学校教育後のキャリア発達や開発に関わる各種調査報告，研究論文を中心に関連する文献や資料を読みながら，今日のキャリア開発の問題点や今後の課題について検討する。また，特に職業生活を中心とした心理社会学的な調査研究のアプローチを習得し，自ら調査研究のデザインなど作成し，実際のデータに基づく報告書のまとめ方やプレゼンテーションについて学ぶ。	4	
発達心理学特論	子ども期（乳幼児～生徒）の発達と大人期（成人～高齢者）の生涯発達・加齢の類似点及び相違点に着目しつつ，広い視野に立ってヒトの発達過程及び学習過程を理解する。発達・加齢における認知や社会・パーソナリティの諸特徴について解説する。	2	教授 木暮　照正
発達心理学特論演習Ⅰ	子ども期（乳幼児～生徒）と大人期（成人～高齢者）における認知や社会・パーソナリティ面の特徴について授業内で紹介する。また最新の知見を，特に英語論文として公表されているものを中心に受講生内で文献講読し，発表と討議を行うことで理解を深める。	4	
発達心理学特論演習Ⅱ	子ども期（乳幼児～生徒）と大人期（成人～高齢者）における認知や社会・パーソナリティ面の特徴について授業内で紹介する。また最新の知見を，特に英語論文として公表されているものを中心に受講生内で文献講読し，発表と討議を行うことで理解を深める。	4	
乳幼児・小学生の心理学特論	乳幼児および児童期の発達心理学における学問的な目的，方法などの基礎的な知識について解説するとともに，乳幼児期・児童期に関する研究分野での専門的知見について理解を深める。	2	教授 高谷理恵子
乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅰ	乳幼児～児童期まで子どもは，心的内面を言語化して表現することが難しい。著名な先行研究の講読を通して，このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法を模索するとともに，乳幼児，および小学生という発達段階についての理解を深める。具体的に講読する文献の選定にあたっては，受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。	4	
乳幼児・小学生の心理学特論演習Ⅱ	乳幼児～児童期まで子どもは，心的内面を言語化して表現することが難しい。著名な先行研究の講読を通して，このような言語表現が十分に期待できない対象の内面を探る研究方法を模索するとともに，乳幼児，および小学生という発達段階についての理解を深める。具体的に講読する文献の選定にあたっては，受講者の修士論文のテーマと関連を意識する。	4	

授業科目名	授業科目の内容	単位数	担当教員名
中学生・高校生の心理学特論	中学生・高校生の心身の発達及び学習の過程についての専門的理解を深めると共に，求められるサポートや理解の視点などについて議論する。中学生・高校生における身体的側面および心理的側面の変化の特徴を理解し，それらと自己意識の変化，仲間関係や集団関係の変化との関係について理解する。	2	准教授 富永美佐子
中学生・高校生の心理学特論演習	中学生・高校生の心身の発達及び学習の過程についての専門的理解を深めると共に，求められるサポートや理解の視点などについて議論する。毎回，定められた文献を講読し，⑴青年期の心身の変化と心理，⑵青年期の認知的変化と人間関係，⑶アイデンティティ形成等について，議論を行う。	4	
人間理解特論	生徒指導，教育相談および進路指導などに関する視点を踏まえて，⑴カウンセリングの歴史的発展，⑵教師やカウンセラーなど発達援助職者の理論的背景，を理解し，さらに⑶中学生・高校生への直接的介入（個人・グループ）のあり方について検討する。	2	
人間理解特論演習	生徒指導，教育相談および進路指導などに関する視点を踏まえて，⑴カウンセリングの歴史的発展，⑵教師やカウンセラーなど発達援助職者にとって必要な「人間理解」のための理論的背景，⑶中学生・高校生への直接的介入（個人・グループ）のあり方，について解読するとともに，教育現場で起りうる身近な事例を取り上げ，それらの解決に向けた関わり方をワークを通して学ぶ。	4	
集団の心理特論	この授業では，集団の形成，発展，解消にかんする社会心理学的な知見について講述する。特に，学級集団の特徴，児童・生徒の仲間関係，教師のリーダーシップなどにかんする社会心理学的知見を基に，身近な事例やこれまでの研究成果を踏まえて学習する。	2	教授 飛田　操 （令和5年3月 退職予定）
集団の心理特論演習Ⅰ	この授業では，集団の形成，発展，解消にかんする社会心理学的文献を講読し，議論する。特に，学級集団の特徴，児童・生徒の仲間関係，教師のリーダーシップ，障害のある児童・生徒が含まれる学級集団運営などにかんする文献を購読するとともに，これらの文献と自らのテーマとの対応について検討する。	4	
集団の心理特論演習Ⅱ	この授業では，集団の形成，発展，解消にかんする社会心理学的文献を講読し，議論する。特に，学級集団の特徴，児童・生徒の仲間関係，教師のリーダーシップ，障害のある児童・生徒が含まれる学級集団運営などにかんする文献を講読するとともに，これらの文献と自らのテーマとの対応について検討する。	4	
障害学特論Ⅰ	障害の概念と障害観の形成について基礎理論を学ぶ。障害の概念モデル（社会モデル，医学モデル）から，障害の概念について論考する。また，障害観の形成における心のはたらきについて考察する。心理学および障害学の観点から，講義や文献講読を通して議論を深める。	2	准教授 高橋　純一
障害学特論Ⅱ	障害児・者が示す障害特性について理解する。心理学や障害学における実験・調査データ，当事者研究を踏まえて，障害児・者の感覚特性（感覚過敏，感覚鈍麻など）や行動特性について解説する。その上で，障害児・者の障害特性と社会システムとの関係について議論を深める。	2	
障害学特論Ⅲ	インクルーシブ教育システムおよび障害理解教育について，理論的背景および教育実践を交えて学ぶ。インクルーシブ理念の理解，インクルーシブ教育システムの現状と課題，社会における障害理解の促進について，講義や文献講読，事例検討を通して議論を深める。	2	
幼児教育学特論	保育・幼児教育の実践で遊びは大きな比重を占めている。しかし，遊びを論じる切り口・理論は一様ではない。本授業では，極力毛色の異なる遊び論を講読し，各論者の異同を議論する。それにより，遊び論の拡がりと，それぞれの保育・幼児教育実践とのつながりを検討する。	2	准教授 保木井啓史
幼児教育学特論演習Ⅰ	本授業では，インタビューなど小規模な言語データの質的分析に適した方法である Steps for Coding and Theorization（SCAT；大谷2011など）の習得を目指し，「中堅保育者としての成長とは何か」（予定）をテーマとした現役保育者へのインタビューの実施・分析・結果のまとめという一連の研究プロセスに参与する。	4	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
幼児教育学特論演習Ⅱ	観察調査は，幼稚園・保育所といった保育施設に関わる人々のリアルな生活世界をすくいとり研究の俎上に乗せるための重要な方法である。本授業では，観察調査と事例の分析技術の習得を目指し，幼稚園・保育所など保育施設での出来事を記録し・そこから問いを立て・問いに基づいて事例を読み解くといった，観察調査に依る一連の研究プロセスに参与する。	4	准教授 保木井啓史
幼児心理学特論	幼児の姿をみていると，一見意味のないような行動にも意味がある。これを見ることができないと，子どもは未熟で，早く大人と同じような行動を身につけさせなければならないという考えになってしまう。本授業では，幼児期の行動をとくに，イメージの発達に焦点をあててみながら，幼児の行動について考えていきたい。	2	教授 原野　明子
幼児心理学特論演習Ⅰ	幼児の行動の意味を各年齢で出会うであろう経験をもとに考え，幼児期の発達と保育者や親の役割について考える。	4	
幼児心理学特論演習Ⅱ	前期の授業では，「子どもの養育に心理学がいえること」を読み，保育現場にこれらの研究がどう資するのか，また，これらの研究にどのような意味があるのかをディスカッションする。後期には，「発達心理学再考のための序説」を読みながら，前期にディスカッションしたことも含め，心理学的見方について考察する。	4	
幼児教育内容特論	「保育的発達論のはじまり」を読み，個人を尊重しつつ，「つながり」を育むいとなみとしての保育について考える。発達って「個」の話？保育現場では，「仲間」がいるのが前提だが…等の現場からの声を受け止め，発達をみる目をひろげるために学び，討論し，深めていく。	2	特任教授 齋藤美智子 （令和３年度担当）
幼児教育内容特論演習Ⅰ	震災後の福島の保育実践から学ぶ。具体的な実践記録を読んで，子どもの最善の利益とは何か，育つために欠かせないことは何か等，幼児教育の根源的な問いを討論により深め，豊かな保育実践を考える。具体的な保育内容にふれ，保育の面白さを探る。	4	
幼児教育内容特論演習Ⅱ	前期の授業では，「保育実践のまなざし」を読んで，日本の保育実践史をたどり大枠をとらえる。後期では，保護者への子育て支援などを含む保育の公共性について探る。子ども，保護者，保育者の三者の共同による保育とは何かについて前期の学びを活かし考える。	4	
幼稚園実践研究	幼稚園・保育園におけるアセスメント（子どもの発達評価）に関して，① Learning story という手法を使って，②実際に保育の場で子どもの記録を取り，③それを保育に生かしていく方法について学ぶ。	2	原野　明子 保木井啓史 齋藤美智子
プロジェクト研究Ⅰ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。現地調査・構想の立案を中心に行う。	1	全　教　員
プロジェクト研究Ⅱ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。実践と総括，報告書の作成を中心に行う。	1	
地域文化創造特論	この科目は，地域文化創造専攻の学生に高度専門職業人としての基本的資質を身につけさせることを目的とする。地域の中で文化を習得・創造・伝達し，地域を担って活躍していくことができるように，社会人としての基礎やキャリア意識，市民として職業人としての規範意識を涵養するとともに，地域を支援していくために必要な基本的知識やスキル，具体的な実践例などを学んでいく。	2	小野原雅夫 初澤　敏生 他
人間発達支援コミュニティⅠ	人間発達支援領域の院生として，研究方法について学ぶとともに研究コミュニティを形成する。領域としての特性を押さえつつ，研究テーマの構想，研究実施のための取り組みについて，院生どうし，あるいは院生と教員が議論を行ない，研究の見通しを確認する。	2	高谷理恵子 髙橋　純一 原野　明子
人間発達支援コミュニティⅡ	人間発達支援領域の院生として，研究方法について学ぶとともに研究コミュニティを形成する。人間発達支援コミュニティⅠで構想された研究テーマについて，研究を展開する。得られた研究結果について，院生どうし，あるいは院生と教員が議論を積み重ねる。その上で，研究内容を深化させ，自分の研究テーマの実現を目指す。	2	

○　地域文化創造専攻（日英言語文化領域）

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
日本語史特論			未　　定
日本語史特論演習			
日本語教育特論			
日本語教育特論演習			
現代日本語特論	計量的な日本語研究の方法について考察する。日本語研究の中でこれまでに用いられた多変量解析の技法について概観するとともに，電子化された言語データを使用し，実際にアプリケーションソフトを用いて各技法の使用法を学ぶ。具体的には，記述統計，クロス集計，検定といった基礎的な技法のほか，因子分析，林の数量化理論，クラスター分析，重回帰分析，VARBRUL，パス解析，SEM などを扱う。コンピュータリテラシーと一定の数学的素養が要求される。	2	教授 半沢　　康
現代日本語特論演習	計量的日本語研究の実践。現代日本語特論の講義内容を踏まえ，受講者がそれぞれ，自己の興味関心にもとづいて，現代日本語に関するデータ収集のための調査を企画し，多変量解析を適用した分析を行う。日本語の音声，文法的変異に関する事象，待遇表現などの言語運用に関わる事象，日本語の世代的変異等が調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし，各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。前期は調査計画および実査が中心となる。後期は受講者が各自のデータを分析し，口頭発表を行う。調査の企画力および実査への貢献が重視される。	4	
地域言語特論	方言研究の方法について考察する。本年度は社会言語学的な観点に基づく言語変化研究を扱う。諸文献の講読を通じて，戦後の国語研究所による言語生活研究，各地で実施された共通語化の研究，日本出自の技法であるグロットグラム法などの成果を概観し，方法を把握するとともに各研究の問題点についても考察する。日本語方言の研究にとどまらず，W. Labov, P. Trudgill, J. Chambers ら欧米の研究者による研究にも目を配る。また随時コンピュータを用いて実際の方言データの分析実習も行う。	2	
地域言語特論演習	方言研究の実践。受講者各自の研究テーマに基づいてそれぞれが方言調査を企画し，分析結果を発表する。音声，アクセント，文法，語彙の地理的な変異のほか，共通語化や方言意識なども調査対象として想定される。調査はフィールドワークを原則とし，各自の企画を盛り込んだオムニバス調査を共同で実施する。前期は調査計画および実査が中心となる。後期は受講者が各自のデータを分析し，口頭発表を行う。調査の企画力および実査への貢献が重視される。	4	
日本近代文学特論	文体という観点から日本における近代文学の変遷を辿る。文語文体から言文一致を経て自然主義の隆盛へ向かう明治期，モダニズム的な様相を呈する大正期，関東大震災後から戦時下へ向かう昭和期，多様な様式が展開される戦後と，それぞれの時代の小説を文体という視角からアプローチすることで，小説の方法や様式を把握する。	2	准教授 高橋　由貴
日本近代文学特論演習	明治期から現代までの日本の小説を取り上げ，これらを「西洋と東洋」というテーマから論述する。明治期以来，文学において日本の外部である「西洋」という〈他者〉や「東洋」という〈自ら〉をどう表象するかについて様々な試みがなされてきた。この「自己と他者」という問題を洋の東西という視点から考える。	4	
比較言語文化特論	「比較文学・比較文化とは何か？」というテーマに則って，比較言語・比較文学という方法の多様性について考える。「比較文学」という名称が冠せられてなされてきた言語・文学・文化への様々な方法的アプローチを取り上げ，その方法の可能性の拡がりを理解する。	2	
比較言語文化特論演習	日本における近現代詩を欧米における詩の展開と比較考察しながら考える。西欧の poetry を受容して独自に発展した日本における詩の展開を通時的に捉え，詩の本質である言葉自体によって自立しえる創造物としての言葉の確立に至るまでを講述する。	4	
日本古典文学特論	日本古代文学の概要を理解するとともに，主要な作品の特徴や意義について考察する。日本古代文学史について概説し，講義で取り上げた作品の中から主要なものを，学生に選択させて講読していく。国語教材を取り上げることも可。	2	教授 井實　充史

授業科目名	授 業 科 目 の 内 容	単位数	担当教員名
日本古典文学特論演習	日本古代文学の作品について，先行研究をふまえて独自に調査し，批評することを目標とする。授業は，日本古代文学のなかから特定の作品を取り上げ，校本，諸注釈書，主要な先行論文等の事前調査を受講生に課し，その発表内容を吟味・検討するかたちで進めていく。	4	教授 井實　充史
日本言語文化史特論	日本の言語文化の形成と特色を，日本古典文学を特徴づける伝統的な美意識の形成と展開を主軸に据えて，言語的，歴史的，文化的，社会的，風土的な環境，及び外国文学・思想の影響などの多面的な視点から講述する。	2	
日本言語文化史特論演習	代表的な日本文学の作品，作者の論説を資料として，日本の伝統的な美意識や文芸思潮の成立と展開を明らかにする。	4	
日中比較文学特論	日中比較文学の概要を理解するとともに，中国文学の影響を受けた日本古典文学の特徴や意義について考察する。また，受講生の関心に従って，日本と中国の文学に限定せず，比較文学を中心とした文学理論一般を取り上げることも可能である。	2	未　　定
日中比較文学特論演習	中国文学の影響を受けた古代日本文学のなかから，具体的な作品を取り上げ，先行研究をふまえて独自に調査し，批評することを目標とする。授業は，出典，諸注釈書，主要な先行論文等の事前調査を受講生に課し，その発表内容を吟味・検討するかたちで進めていく。	4	
伝統言語文化特論	日本の伝統的な文化現象を代表する能，狂言，人形浄瑠璃，歌舞伎について，その言語芸術的な特徴を中心にして，各芸能の特色と歴史の講述，及び代表的な作品の芸術学的な考察を行う。	2	
伝統言語文化特論演習	日本古典演劇を代表する近松門左衛門の人形浄瑠璃作品について，文学史的，演劇論的，文学論的な考察を行う。	4	
中国文化特論	漢文学における中国神話は従来「涸れたる神話」と見なされてきたが，もともと稀薄だったわけではない。前半は枯渇の主因となった儒教経典化について講述し，後半は豊饒な神話的世界を，主に『楚辞』をもとに読解し，巫祝文化との関係について講述する。なお，理解の度合を確認するため毎時レポート提出を求める。	2	教授 澁澤　　尚
中国文化特論演習	漢文原典として『楚辞』『淮南子』『山海経』を中心に読解・分析をすすめるが，演習に先立ち漢文学の特質，難解な古代漢語の特質，及び工具書についての概説を丁寧に行い，導入とする。また，『楚辞』読解の前には，古代歌謡の特質について巫風と関わらせて解説する。演習の際は，毎時レジュメを用意する。	4	
中国思想特論	漢文学の根底に流れる道家思想の「混沌」の概念について，「老荘列」三書から具体例を示しつつ講述する。特に『列子』における楽園説話成立の背景に，「昆侖」に代表される混沌境地の地理的表象があることを詳述する。なお，授業理解の度合を確認するため，毎時小レポートと短い漢文原典読解の提出を求める。	2	
中国思想特論演習	漢文学における道家思想の原典として，『列子』『荘子』を中心に読解分析をすすめるが，演習に先立ち難解な古代漢語の特質，及び工具書についての概説を丁寧に行い，導入とする。また，『列子』読解の前には，古代思想の特質について寓話・寓言と関わらせて解説する。演習の際は，毎時レジュメを用意する。	4	
国語科教育特論Ⅰ	国語科教育法には，様々な理論と方法が存在する。本特論では，「単元学習」「文芸研」「読み研」「一読総合法」「読者論による授業」「分析批評」「読書指導（ブックトーク・アニマシオン等）」といった様々な理論と方法について，理解を深める。	2	教授 佐藤　佐敏
国語科カリキュラム特論演習Ⅰ	「言語活動の充実」と「学力向上」にかかわる国語科教育の指導法について学習する。小・中学校の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」，古典，文法等，様々な分野で実際に実践されている「言語活動」と，その「言語活動」が「学力の向上」とどのように関連していくのかを，様々な学習分野の理論と照らし合わせて理解する。そのうえで，言語活動を核として学力の向上を図るカリキュラムを開発する。	2	
国語科教育実践研究Ⅰ	「実践報告」と「実践研究」の違いを理解したうえで，国語科教育における質的研究と量的研究の違いを理解する。そのうえで，様々な実践記録に対して質的分析と量的分析を試みるとともに，分析した後の考察の仕方を学ぶ。また，受講者の希望によっては，文献研究の方法について，具体的な文献にあたりながら理解する。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
国語科教育実践研究Ⅱ	教育現場に出向いて授業記録をとり，質的な分析と量的な分析を試みる。そして，その実践に対して様々な視点から考察を加える。また，可能であれば受講者が附属小・中学校や公立小・中学校にて介入授業を行い，それぞれ実践研究を行う。	2	教授 佐藤　佐敏
英語意味論特論	理論言語学に基づく意味論の概説書を精読し，述語論理，動詞や法助動詞の諸特性，作用域に関する英語意味論の基本概念と思考法を理解する。	2	准教授 佐藤　元樹
英語意味論特論演習	生成文法理論における統語論と意味論のインターフェイスに関わる具体的研究を取り上げ，言語の構造と意味の関係について考察する。演習では，担当者が研究論文を発表，または研究テーマの調査結果を報告し，ディスカッションを行う。	2	
英語意味研究Ⅰ	生成文法理論における意味部門（LF）に関わる言語現象を取り上げ，統語と意味の両側面から各現象に関する分析方法について批判的に検討する。	2	
英語意味研究Ⅱ	生成文法理論における極小主義プログラムの基本概念と思考法を概観し，狭義の統語部門，意味部門，両部門の接触領域で扱われる問題について考察する。	2	
英語構造論特論	英語学の研究領域の中で，統語と意味のインターフェイスの問題を中心に生成文法のこれまでの理論的展開を概観することにより，生成文法の基本的概念・思考法を理解する。	2	教授 朝賀　俊彦
英語構造論特論演習	英語学領域の修了研究との関わりにおいて統語と意味のインターフェイスの研究として特に重要と考えられる研究を取り上げ，文献講読を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。	2	
英語構造研究Ⅰ	統語構造と意味構造の分析を中心に，英語学領域における各自の研究テーマに関する先行研究の文献報告を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。	2	
英語構造研究Ⅱ	形式と意味のインターフェイスの問題を中心に，英語学領域における各自の研究テーマに関する先行研究の文献報告を通じて生成文法各論としての事例研究を行う。	2	
英語語彙論特論	英語学分野の英語史における語彙形成史を中心に講述する。	2	未　　定
英語語彙論特論演習	英語学分野の語構成のテーマである「二重語」と「新古典的複合語」について講述した後，それぞれのテーマについて演習形式で発表して，具体的に学習する。	2	
英語語彙研究Ⅰ	古英詩 Beowulf における財宝を表現する名詞 maeddum，gestreon，hord，sinc などの用法を調査し，作品における重要な役割を英語学の観点から明らかにする。	2	
英語語彙研究Ⅱ	古英詩 Beowulf における親族を表現する名詞 sib，fader，sunu，freond，cythu などの用法を調査し，作品における重要な役割を英語学の観点から明らかにする。	2	
外国語教授学特論	外国語教授法について第二言語習得理論を中心に理解を深める。文献輪読を通して外国語教授法について理論的背景を学び，教育現場で行われている指導法について討議を行う。同時に，現場の教師が抱える指導上の問題点を洗い出し，その解決策を理論研究及び実証研究に求められるようになることを目指す。	2	准教授 高木　修一
初期近代英米文学特論	15世紀から17世紀の英国初期近代における韻文，散文の文学テクストを用いて，文学テクストの意味作用を理解することを目的としている。とりわけ，ジェンダー，階級，人種などのカルチュラル・スタディーズなどの観点から考察を加える方法を教えるとともに，自分なりの英米文学に関する理解の方法論を身につけるための技法について明らかにする。	2	教授 川田　　潤
初期近代英米文学特論演習	15世紀から17世紀の英国初期近代における韻文，散文などの文学テクストなどを用いて，文学テクストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし，文化理解を図ることを目的としている。授業時には原典テクストの精読と周辺資料の多読を同時に行う。そのような作業を通じて，文化的な観点からの英米文学理解を目指す。	2	
初期近代英米文化研究Ⅰ	15世紀から17世紀の英国初期近代における文学テクスト・歴史資料，政治，経済パンフレットなどを用いて，文学テクストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし，主に共時的な文化理解を図ることを目的としている。その際に，同時代における意味の関連性と広がりに注目して読む力を，英米文学に関して，身につける。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
初期近代英米文化研究Ⅱ	15世紀から17世紀の英国初期近代における文学テクスト・歴史資料，政治，経済パンフレットなどを用いて，文学テクストと当時の英国の社会・文化的な状況の相互関係を明らかにし，それを基盤として通時的な観点からの文化理解を図ることを目的としている。その際に，とりわけ，テクストの読解における解釈者のスタンスに気をつけながら英米文学を読む力を学ぶ。	2	教授 川田　　潤
近代英米文学特論	英国を代表する文芸批評家（F. R. Leavis, Raymomd Williams, Terry Eagleton）のテクストを読む。文学作品をそれが輩出された当時の時代思潮と結びつけることによって，それを読んだだけでは分かりにくい諸問題（植民地主義，ナショナリズム，資本主義，帝国主義など）を浮かび上がらせ，そして，その作品の意義を考察する手がかりをつかむことを，この授業の目的とする。授業は，基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	2	教授 高田　英和
近代英米文学特論演習	米国を代表する文芸批評家（Edward W. Said, Fredric Jameson, JedEsty）のテクストを読む。文学作品をそれが輩出された当時の時代思潮と結びつけることによって，それを読んだだけでは分かりにくい諸問題（植民地主義，ナショナリズム，資本主義，帝国主義など）を浮かび上がらせ，そして，その作品の意義を考察する手がかりをつかむことを，この授業の目的とする。授業は，基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	2	
近代英米文化研究Ⅰ	19，20世紀の英米の社会と文化についての文献を読む。具体的には，Peter J. Kalliney の Cities of Affluence and Anger : A Literary Geography of Modern Englishness（2007）を読む。21世紀に生きるわれわれの世界は，19，20世紀の英米を中心とした世界と，どのように断絶しまた連続しているのか。概観し，考察する。キーワードは「資本主義，階級，ジェンダー，セクシュアリティ」となる。授業は，基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	2	
近代英米文化研究Ⅱ	19，20世紀の英米の社会と文化についての文献を読む。具体的には，Bruce Robbins の Upward Mobility and the Common Good : Toward a Literary History of the Welfare State（2007）を読む。21世紀に生きるわれわれの世界は，19，20世紀の英米を中心とした世界と，どのように断絶しまた連続しているのか。概観し，考察する。キーワードは「資本主義，階級，ジェンダー，セクシュアリティ」となる。授業は，基本的に受講生の発表と質疑応答による演習形式で進める。	2	
現代英米文学特論	現代英米文学の代表的な作品についての講義を中心に研究する。20世紀，21世紀の英語文化圏の作家による小説・戯曲・詩等・児童文学などを取り上げ，批評理論の基礎概念を習得し，関連資料の収集などと合わせて作品分析を行う。	2	准教授 飯嶋　良太
現代英米文学特論演習	現代英米文学の代表的な作品についての講読を中心に研究する。20世紀，21世紀の英語文化圏の作家による小説・戯曲・詩等・児童文学を取り上げ，批評理論の基礎概念に基づき，関連資料の収集などと合わせて作品分析を行う。	2	
現代英米文化研究Ⅰ	特定のテーマを設定し，設定したテーマに関連した現代英米文学作品について研究する。20世紀以降の英語文化を理解する鍵となるような文芸作品を分析することを通じて，現代の英語文化圏に対する理解を深める。基本的に毎時講義と演習（講読）を組み合わせて行う。	2	
現代英米文化研究Ⅱ	異文化表象の問題を中心に20世紀以降の英語文化を理解する鍵となるような文芸作品を分析することを通じて，現代の英語文化圏に対する理解を深める。基本的に毎時講義と演習（講読）を組み合わせて行う。	2	
外国文化特論	主にドイツ・ロマン主義の文学作品，および文学論を読み，ロマン主義運動の本質を探る。扱う作品としては，ノヴァーリス『青い花』『キリスト教世界あるいはヨーロッパ』，フリードリヒ・シュレーゲル『ロマン派文学論』『ルツィンデ』，ハインリヒ・フォン・クライスト『マリオネット劇場について』などを予定している。	2	准教授 高橋　　優
外国文化特論演習	特論で扱ったテクストに関して，さらに深く追求して分析することを試みる。学生による発表とそれに関する議論が授業の中心となる。テクスト分析の技術向上を目指すことがこの授業の目的である。	2	
外国文化研究Ⅰ	ドイツ文学における「異文化理解」のモチーフについて，作品を読み考察を行う。ドイツ，およびヨーロッパにおける「異文化理解」の形の変遷を，時代を追って概観することが目的である。教材はコピーを配布する。教材を熟読し，問題点を明確にする作業が必須となる。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
英語科教育特論Ⅰ	英語科教育におけるテストの意義について理解し，目的に応じた適切な言語テストを作成するための理論と実践を学ぶ。テストが学習者に与える影響（波及効果）の検討やテスト得点の取り扱いといった，テスト実施前及び実施後の適切な処理方法を身につける。	2	准教授 高木　修一
英語科カリキュラム特論演習Ⅰ	英語教育研究の方法論を学び，英語教育に関わる先行研究を緻密に検討する。また，実習活動を通じて，様々な方法論を自身の修了研究に応用できるようになることを目指す。主要な方法論を概観した後は，個人の研究テーマに応じた研究手法を取り扱う。	2	
英語科教育特論Ⅱ	心理言語学の視点から，言語的立場の相違（第一言語，第二言語及び外国語）も含め，記憶のメカニズムを中心に文字及び音声言語の情報処理プロセスの理論について研究する。	2	教授 佐久間康之
英語科カリキュラム特論演習Ⅱ	文字及び音声言語の情報処理上の記憶のメカニズムの特徴を踏まえた上で，外国語環境にある日本人が英語を理解し習得する際に，重要となる要因の解明とその要因の有効な提示の具現化について研究する。	2	
英語科教育実践研究Ⅰ	英語科教育及び外国語活動における様々な指導法について，実際の教育機関（附属学校及びその他の公立学校）の授業参観，授業記録データの観察及び理論に基づく文献の講読を通して，理論と実践の統合的指導法のあり方を学ぶ。	2	佐久間康之 高木　修一
英語科教育実践研究Ⅱ	英語科教育及び外国語活動における様々な教材（教具・教育機器等）について，実際の教育機関（附属学校及びその他の公立学校）の授業参観，授業記録データの観察及び理論に基づく文献の講読を通して，理論と実践の統合的教材のあり方を学ぶ。	2	
プロジェクト実践研究Ⅰ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。現地調査・構想の立案を中心に行う。	1	全　教　員
プロジェクト実践研究Ⅱ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。実践と総括，報告書の作成を中心に行う。	1	
地域文化創造特論	この科目は，地域文化創造専攻の学生に高度専門職業人としての基本的資質を身につけさせることを目的とする。地域の中で文化を習得・創造・伝達し，地域を担って活躍していくことができるように，社会人としての基礎やキャリア意識，市民として職業人としての規範意識を涵養するとともに，地域を支援していくために必要な基本的知識やスキル，具体的な実践例などを学んでいく。	2	小野原雅夫 初澤　敏生 他
日英言語文化コミュニティⅠ	領域における研究の特性を押さえるとともに，自らの研究の見通しを得る。また，課題に対する論点整理やディスカッションの方法を学ぶ。さらに，自らの研究の方向性や研究構想のプレゼンテーションに基づく院生相互の研究交流を通じて，大学院レベルの研究者の共同体としての関係を深め，日本語と英語を中心とした言語文化に関わる比較研究を視点に入れた「実践コミュニティ」の構築をめざす。	1	教授 半沢　　康
日英言語文化コミュニティⅡ	課題に対する論点整理やディスカッションによる研究交流を行い，領域における自らの研究の位置づけを確認する。さらに，自らの研究の方向性や研究構想のプレゼンテーションに基づく院生相互の研究交流を通じて，大学院レベルの研究者の共同体としての関係を深め，日本語と英語を中心とした言語文化に関わる比較研究を視点に入れた「実践コミュニティ」の構築を主導する。	1	

○　地域文化創造専攻（地域生活文化領域）

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
日本社会文化史特論	本講義では，日本史上の諸問題について，政治・社会・文化の各側面から理解を深めることを目的とする。古代・中世・近世・近現代の各時代に関わる主要学説を紹介しつつ授業を進める。そのため，受講者による文献の講読も行いながら研究史を批判的に評価する術を学んでもらう。研究の内容に対する理解を深めると共に，特にその研究の方法論を理解することが重要である。	2	准教授 小松　賢司
日本地域生活史特論演習	歴史学は，過去の事象を史料を用いて解明しながら論理的に説明する学問である。そのためには，史料の読解能力，特に正確に解釈する能力が不可欠である。さらに，現在の個別細分化された研究状況においては，地域の具体的な事例から歴史の全体像に迫ることが重要となってくる。そこで本授業は，日本史の史料の中から，特に地域史に関わる史料をいくつか取り上げて演習形式で輪読する。史料を解釈する能力を養うと共に，地域の視点から歴史を描く方法論を習得することを目的とする。	2	
ヨーロッパ社会文化史特論	現代社会は，工業力などの「ハード・パワー」が重視される社会から，生活の質や人間の価値観など「ソフト・パワー」が注目されるそれへと変化しつつある。この変化は，当然ながら現代歴史学にも大きな影響を与え，近年では「ソフト・パワー」を扱う「文化史」に注目が集まっている。「文化史」というと，かつては芸術の歴史と同一視されていたが，現在では「文化」の概念が拡大し，政治や経済なども対象とする「新しい文化史」が登場してきた。本講義では，現代歴史学の主潮たる「新しい文化史」に焦点を当て，当該分野の主要文献を輪読する形で歴史学の社会的意義と現代社会との関連を学んでいくことを目指す。	2	准教授 鍵和田　賢
ヨーロッパ地域生活史特論演習	20世紀後半のヨーロッパでは，19世紀以来の「国民国家」の衰退と並行して，国家内部で独特な生活領域を形成していた「地域」や，国民国家を領域的に包摂するような広域的な「地域」に関心がもたれるようになった。これらの「地域」に対する歴史学的アプローチは，「地域」に暮らす人々が日常生活の中で形作っていく「生活空間」の分析をも伴うため，日常生活史への関心も強く持つ。本講義では，ヨーロッパ史を対象に，「生活空間」そして「地域」に関する諸問題を扱った研究文献を輪読することを通じて，現代社会における「生活空間」・「地域」の問題を考える手がかりを得ることを目指す。	2	
アジア社会文化史特論	多民族が居住する中国では，複雑な社会と文化が作り出されてきた。各民族の現在的在り方を規定し，現在の社会文化を規定している歴史的背景を浮かび上がらせることに主眼を置いて，思想・宗教（信仰）から政治に至るまでの幅で，主要テーマをとりあげて検討し，日本などとの比較も行う。こうした授業を通して，社会科（外国史）・地理歴史（外国史）の観点から，アジア社会の文化・歴史について探究する。	2	未　　定
アジア地域生活史特論演習	巨大な地域複合体である中国社会を統合する官僚支配と郡県制（州県制）システムの下，中国各地域で歴代営まれてきた人々の生活は，経済状況，徴税システムなどの影響や，末端官吏の恣意などを受けながらも，多様な展開がみられた。それらの諸様相を多面的にとりあげ，日本などとの比較も行う。こうした授業を通して，社会科（外国史）・地理歴史（外国史）の観点からアジア社会生活史について探究する。	2	
風土と生活特論	人間は過去の歴史において，また現時点で，風土・土地条件といかにかかわり，対応してきたか・対応しているかに関心をおき，自然地理学に関する理解を深めるとともに，地域において防災・環境評価等を行うための基礎的な能力を身につけることをめざす。授業では土地環境の構成要素と変化速さ論（災害考古学を含める），風土と生活（乾燥寒冷地，乾燥高温地，湿潤温暖地），防災と土地保全論を扱う。また，これらの知識を地域に還元する，あるいは教材化するための「防災マップづくり」，「環境アセスメントのしくみ」の実際を述べる。	2	教授 中村　洋介
環境地理学特論演習	地域における防災・環境評価等を行うための基礎的な資質として，自然地理学の基本的技法の習得と土地環境理解を目標とする。授業では土地利用や，地すべり・活断層などの地域防災に関わる土地環境要素の調査法を習得するため，文献講読・実習・現地観察を行う。実習では，１．新旧地形図の読図，２．空中写真判読，３．人工衛星画像の画像処理と判読などを行う。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
地域と文化特論	本授業では，人文地理学・文化地理学的な観点から，主として地域における文化の存立基盤について検討を加える。具体的には，文化に関する概念や人間の文化習得についての理論的な検討と既存の研究の批判的検討の後に，「まつり」と「伝統工芸」を取り上げ検討を深める。まつりは地域社会と密接な関係を持って存在し，地域によって支えられるとともに，地域を支える役割も果たしている。本授業では地域の社会構造に注目しながら，その点を構造的にとらえていきたい。一方，伝統工芸はその地域の文化的な存在であるとともに経済的な存在でもある。ここでは主に製作に焦点を当て，その文化意識が産業にどのような影響を与えるのかを考察する。それにあたっては，文化的側面に注目しつつも，経済的側面にも視野を広げ，その存続基盤について検討する。	2	教授 初澤　敏生
地域振興とまちづくり特論演習	本授業は，人文地理学における近年の研究成果に基づく課題分析と，それを基にした院生によるケーススタディから成る。まず授業前半部において主に経済的側面からの地域振興の現状と課題について考察を加える。ここでは，グローバルとローカルをつなげる視点を常に持ち，具体的な事例の検討を通して検討を深める。また，まちづくりについては，このような経済的な視点の他，社会・文化的視点，それを支える市民の視点なども必要になる。授業中盤においては，これらに関する具体的事例も挙げながら，まちづくりに関する視点を深化させる。これを受け，院生が調べた事例を紹介するとともに，その実践について批判的に検討し，討議を深める。	2	
人間と社会の地理学特論	人間は周囲の空間に自分なりの意味を付与し，「まとまり」を作りながら生きている。人間が作り出すこうした「まとまり」のパターンは「humanmosaic」と呼ばれる。本講義では，これと同名のタイトルを持つ著名な地理学の教科書をテキストとして，地理学の見方・考え方を身につける。授業はテキストの章立てに沿い，各テーマの内容を様々な事例で補いつつ進める。	2	未　　定
農業と農村の地理学特論演習	高度経済成長期以降，日本の農業と農村は大きな変化を遂げてきた。本講義では東北地方各地の農村に具体的事例を求めつつ，その変容と現況についての認識を深め，農業・農村の地域的見方を養う。具体的には，兼業化，主産地形成，多就業化，環境農業，地産地消，中山間地農業，開拓地農村の変容，限界集落の問題を地理学的観点から取り上げる。	2	
異文化共生の政治学特論演習	福澤諭吉の『学問のすすめ』『文明論之概略』をテキストにして，それを欧米の近代理論と比較しながら検討することで，異文化共生の基軸である国際的人権論が，具体的に儒教文化，仏教文化，キリスト教文化，イスラーム文化などに内包されていることを確認すると共に，それぞれの内部及び外部の間で生起する対立の諸相とその解決の手法を探求する。	2	伊藤　宏之 （非常勤）
現代の地域経済特論	本講義では，第一に，日本経済の発展過程と国土開発計画の歴史について概観し，第二に，都市の商業，中山間地域，漁村の３地域の産業と経済を取り上げて考察する。第三に，市街地の小売商業については大店法の歴史や市街地活性化の方策，まちづくりの事例研究について，とくに詳しく検討する。	2	未　　定
経済学特論演習	第一に，経済循環の各々の役割の理解，社会経済編成の基本構造，市場経済と資本主義経済の基本法則などを把握する。第二に，資本蓄積と再生産構造の原理的解明を行う。第三に，これらを前提としつつ，現代日本経済と現代資本主義の特質および国際経済の現状を把握することに重点をおく。	2	
コミュニティ文化特論	高度成長期の工業化・都市化・大衆化，そして1980年代以降の情報化・高齢化・グローバリゼーションの進行によって，日本の地域社会は構造的な変化を経験し，一方で解体・再編が進むとともに，他方ではコミュニティとしての再形成の動向がみられるようになった。この授業では，社会学の視点と方法により，地域社会の変化をデータと実態に即してあとづけるとともに，社会・生活・意識構造の今日的特徴を描出することによって，形成途上にあるコミュニティの文化的特質を明らかにする。	2	教授 牧田　　実

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
コミュニティ形成特論演習	この授業は，戦後日本における地域社会の解体・再編を前提としつつ，これに対する再組織化の動向をコミュニティ形成の文脈で捉え，その主体的・構造的条件を社会学の視点と方法により明らかにすることを目的とする。具体的には，国家によるいわば危機管理的なコミュニティ政策の展開を一方の軸とし，住民運動，都市社会運動，まちづくりなど住民主体の運動をこれに対置するとともに，今日のコミュニティ形成の文脈において，両者が交差しつつあることを論じる。	2	教授 牧田　　実
人間理解の哲学特論	人間の「行為」「心」についての哲学的な考え方，いわゆる「心の哲学」の概要をとらえる。人間が人間自身をいかに理解・解明しようとしてきたかについて学び考えていく。	2	佐藤　恒徳 （非常勤）
知識の哲学特論	哲学における理性主義，経験主義，およびカント等の近代認識論諸説を確認し，その後にポパーの批判的合理主義を中心としながらも論理実証主義やクーンのパラダイム論をも含む現代科学論の概要を紹介することによって，知識の根拠，確実性，成長，限界等に関する多様な論点とそれぞれの意義を明らかにしていく。	2	
人間開発の倫理学特論	「人間開発」とは，教育的な場面においては，人材育成や人間発達支援を意味する語であり，倫理学や政治・経済学の場面においては，弱者（開発途上国なども含む）の支援を意味する。いずれの場合にも育てる者と育てられる者，助ける者と助けられる者という上下関係の中での営みになるため，そこにはパターナリズムの危険性が生じる。自由な主体を育成するような人間発達支援，弱者支援のあり方を学んでもらう。	2	教授 小野原雅夫
共生の倫理学特論演習	人権について理解を深め，多様な価値観をもった人々が互いの違いを尊重し合いながら共生していくということの困難さと意義を実感してもらい，そのための具体的な手法を学んでもらう。具体的なトラブルが生じたときに非暴力コミュニケーション等を用いて紛争を解決していく平和的手法や平和的態度を身につけ，またそれらを指導するファシリテーションの技法についても学んでもらう。	2	
社会科教育特論	この授業では，戦後誕生した社会科の変遷と各時代の社会情勢を関連付けながら分析・考察していくことにより，児童生徒の「公民としての資質・能力」を育てる学習内容・方法等について理解を深めることを目的とする。その視点の一つとして，脈々と実践されてきた地域教材の特徴等を考察するとともに，カリキュラム・マネジメントを機能させた教育課程の在り方について考える。	2	特任教授 野木　勝弘 （令和３年度担当）
社会科カリキュラム特論演習	この授業では，社会科教育における「公民」領域を中心としたカリキュラム研究を行うことにより，小学校や中学校における授業プランや教材の開発を行う。またそれらの方法の理論的バックボーンをなすものとして，教育方法学の文献を講読していく。	2	未　　定
社会科教育実践研究Ⅰ	この授業では，社会科の授業実践の参観，ビデオ視聴により，地理・歴史・公民領域の学習指導が人間理解（様々な工夫・努力を重ねてよりよく生きる姿）にとどまり，人間のあり方，生き方の追求まで至っていないことを整理し，これからの社会科教育の目標・内容・授業のあり方などを追求する。	2	
社会科教育実践研究Ⅱ	この授業では，附属小学校・附属中学校及び研究拠点校における社会科の授業を参観し，現場教員との授業研究を通して，授業分析や教材分析を行う。また，授業記録を元に研究室でディスカッションを行うことで実践を省察し，現実の教科の授業及び教科経営のあり方を学ぶ。	2	特任教授 野木　勝弘 （令和３年度担当）
食品科学特論	本授業では，食品の持つ生体調節機能（三次機能）に関わる成分の化学的特徴およびその機能について解説し，それらが栄養とどのように関わるかを考える。具体的には，食物繊維やオリゴ糖などの特定保健用食品に用いられる各種機能成分について，その化学的性質と機能の関係を明らかにしながら，社会生活における一般的な食品や健康的な発達を担う栄養との関連を考える。	2	教授 千葉　養伍
食物学研究	本授業では，食物学分野の文献，特に糖質や糖質に関連する酵素の機能に関わるものを講読し，それをもとに内容についての解説と議論を行う。議論を通して，研究の背景や課題，手法などの理解を深めるとともに，現代の社会生活における食品や栄養に関する課題への関連や発展性を考える。	2	

授業科目名	授 業 科 目 の 内 容	単位数	担当教員名
食生活特論	現在の日本は，生活習慣病の増加，食品の安全性と表示の問題，あふれかえる食情報，食料自給率の低迷など，さまざまな問題を抱えている。本授業では，学生同士や教員とのディスカッション及びレポート作成・発表を通して，調理科学及び食物学の視点から，現在の日本の食に関わる諸問題を分析する。	2	教授 中村　恵子
食生活支援研究	本授業では，学生各自で食生活支援をする対象と場面を設定し，食物学・調理学等の知識を活用して，地域に即した食生活支援プログラムを作成する。事例研究や発表・討論を通して内容を深め，レポートにまとめる。	2	
衣生活特論	現代の人間と衣服の関わりについて捉えるためにこれまでの事例等について解説する。さらに人間の生涯にわたる成長，発達を踏まえた上での衣服設計や着装の問題について考える。さらにこれからの衣生活のあり方について環境との関連も検討し追究する。	2	教授 千葉　桂子
衣生活支援研究	まず個々の自立とは何か，またそれを支援するために必要な知識・技術について学習する。それを踏まえて衣生活支援の実践例を検討し，衣服のリフォームによる改良等の具体的な支援について被服学の立場から提案する。（講義７回，演習８回実施）	2	
住生活特論	わが国の住生活は，戦後期に大きな変化を経験している。そこで，間取りの発展を，生活の展開と関連させて理解した後，現代住宅の多様性を理解する。続いて，ライフサイクル，郊外化，高齢化と人口減少など，今後の住生活に重要なテーマへの理解を深めていく。	2	特任教授 鈴木　　晃 （令和３年度担当）
住環境とまちづくり特論演習	マンションや交通，人口高齢化，線引き，買物，住民参加に関し，最近の文献をもとに議論を進める。続いて，ウェブページを通じて様々な資料を検索し収集する方法を理解し，テーマを設定した上で，住宅まちづくりに関する情報を収集し，その資料を検討してまとめる作業を行う。	2	
生涯生活マネジメント特論	生涯にわたって自分らしく生きるために必要なライフ・マネジメント・スキルについて学ぶ。生活を主体的に選択・構築し，アクティブ・エイジングが実現できる個人のあり方とその生活および多様な「つながり」を再構築する方策である世代間交流活動について検討する。	2	教授 角間　陽子
家庭科教育特論	家庭科教育における自立・自律と共生を中心にした学習内容と構成を整理することにより，主体的生活者を育成するための学習指導計画や教材，指導と評価を図るためのパフォーマンス評価についても検討していく。また，生活を総合的に捉える視点，生涯を見通してライフマネジメントする視点からのカリキュラムを探究する。	2	
家庭科カリキュラム特論演習	家庭科教育における自立・自律と共生の視点から，生活を主体的に営むための能力を育成する学習，生涯を見通してライフマネジメントするための学習について考察する。学習者の実態や授業実践例，学習効果等を検討し，問題点や課題を踏まえた今後のあり方について研究していく。	2	
家庭科教育実践研究	家庭科の教育及び実践について追究することを目的に，授業参観や実践記録の視聴及び実践報告や先行研究等の文献購読を通して，題材計画や学習指導の在り方，教材，評価等を分析し，課題や展望について検討する。また専門科学の理論が家庭科の教育内容とどのように関わるかについての理解を深める。さらに家庭科の本質や意義を踏まえた教育及び実践について考察する。	2	教授 角間　陽子 他
プロジェクト実践研究Ⅰ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。現地調査・構想の立案を中心に行う。	1	全　教　員
プロジェクト実践研究Ⅱ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。実践と総括，報告書の作成を中心に行う。	1	
地域文化創造特論	この科目は，地域文化創造専攻の学生に高度専門職業人としての基本的資質を身につけさせることを目的とする。地域の中で文化を習得・創造・伝達し，地域を担って活躍していくことができるように，社会人としての基礎やキャリア意識，市民として職業人としての規範意識を涵養するとともに，地域を支援していくために必要な基本的知識やスキル，具体的な実践例などを学んでいく。	2	小野原雅夫 初澤　敏生 他

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
地域生活文化コミュニティⅠ	地域生活文化領域の学生がともに，研究について共同的「実践コミュニティ」の構築をめざす。この授業では，まず自らの研究に取り組むにあたり領域の特性を押さえながら研究テーマの構想，研究方法についてお互いの取り組みを発表し合う。それに対して自らの研究の見通しを確認する。	1	未　　定
地域生活文化コミュニティⅡ	地域生活文化領域の学生がともに，研究について共同的「実践コミュニティ」の構築をめざす。この授業では「地域生活文化コミュニティⅠ」において実践したディスカッションを踏まえ，その後の各自の研究の進行状況等について発表し，領域の特性を押さえつつ，さらに学際的な視野に立ち，研究テーマの構想や研究方法について問題意識を明確化することをめざす。	1	

○　地域文化創造専攻（数理科学領域）

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
代数構造の数理特論	可換環およびその上の加群について講義する。はじめに可換環上の加群を定義し，特に単項イデアル整域上の加群について調べる。線型代数をこの立場から見直しジョルダンの標準形，単因子論について論じる。後半では群の表現論を講義する。特に有限群の表現および対称群の表現について基本的事項を論じる。	2	特任教授 相原　義弘 （令和3年度担当）
代数構造の数理特論演習Ⅰ	可換環に関する専門書および論文等の講読を主として授業を行う。最初に，ネーター環におけるイデアルの準素分解を導入する。次に局所化の概念を学ぶ。局所環における次元論を展開する。正則局所環およびパラメーター系の概念を理解する。コーエン・マコーレー環の概念を理解する。代数幾何学との関係を理解する。	2	
代数構造の数理特論演習Ⅱ	グレブナー基底に関する専門書および論文等の講読を主として授業を行う。はじめに多項式環における割り算のアルゴリズムを反省しグレブナー基底の概念を導入する。応用上非常に有用なブッフベルガーのアルゴリズムを与える。グレブナー基底と関連が深い消去法について学ぶ。後半は以上の理論の代数幾何への応用について考察をする。	2	
構造の数理特論	ディオファンタス近似論について講義する。はじめに古典的なファレイ数列，ディリクレの定理について講義する。同時近似の問題やヴァイルの一様分布にも触れる。リュービルの定理と超越数について紹介した後，ロスによる決定的な結果の証明を与える。これを用いて Diophantus 方程式の解の有限性について論じる。	2	
構造の数理特論演習	古典的な射影代数幾何学について現代的立場から理解する。初めに射影空間・射影多様体を定義し，曲線・曲面について学習する。接線・接平面・接空間の一般論を講義し，楕円曲線について学ぶ。以上の知識を用いて交点数の概念がいかに定義されるべきかを理解しベズーの定理を証明する。	2	
整数論と暗号特論	代数学の応用として主として暗号理論について講義する。最初に，代数学および初等整数論から準備の話をする。暗号については，その基本構造を述べ，最初に古典的秘密鍵暗号系のアフィン暗号について講義する。その後，公開鍵暗号系の代表である RSA 暗号について講義をする。実際に，受講者間で模擬 RSA 暗号通信を行わせる。その時の計算に使うコンピュータプログラムも作らせる。RSA 暗号通信のためには大きい素数を求める必要があり，それに使われる楕円曲線の理論にも触れる。	2	
多様体と構造の幾何特論	多様体上の幾何的構造の基礎について学ぶ。接空間，接ベクトル場について復習する。幾何学の共通の基礎であるベクトル束，接続理論，リー群などを学習する。	2	准教授 中田　文憲
多様体と構造の幾何特論演習Ⅰ	球面・射影空間に対して接空間，接ベクトル場，について考察する。カッコ積，リー微分を具体的な例について計算する。リーマン計量についての復習をした後，具体的に与えられた曲面の曲率の計算をさせる。	2	
多様体と構造の幾何特論演習Ⅱ	ベクトル束について学ぶ。オイラー類，スティフェル-ホイトニー類と呼ばれる特性類についてまず学ぶ。複素ベクトル束を学んだ後で，チャーン類，ポントリャーギン類について学習する。グラスマン多様体，トム空間について学び，横断定理を通してトムの理論を概観する。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
現象の幾何特論	初めに，微分形式を学び，それらに対して定義されているドラム-コホモロジーを学ぶ。及びその環構造を学ぶ。次に，多面体上で定義されている通常のコホモロジーを学ぶ。それらのコホモロジーが同型であるというドラムの定理の証明を紹介する。	2	准教授 中田　文憲
現象の幾何特論演習	球面や射影空間に対してドラムのコホモロジー群，コホモロジー環，通常のコホモロジー群，コホモロジー環を計算させる。それらを通してトポロジーの基礎的なことを身に付くようにする。	2	
グラフとネットワーク特論	グラフの辺に重み（費用，容量，長さなどを一般化して表す）がついたものがネットワークである。グラフ理論，組み合わせ論を学び，さらに発展を考えるために代数的トポロジーの基本を学び，その応用を考える。	2	
自然現象の数理特論	いくつかの物理的現象から正則関数の概念が得られるさまを考察する。Riemann の写像定理の自然さ，その意義を物理的に述べた後に，厳密な証明を与える。	2	准教授 和田　正樹
自然現象の数理特論演習Ⅰ	調和関数は様々な物理現象に共通した性質をもっており，このことは正則関数が２次元の物理現象のいくつかを描写するのに有効であることを示している。そこで，正則関数の復習をした後，その応用について関連した文献を紹介し，輪読を通して理解を深める。	2	
自然現象の数理特論演習Ⅱ	複素数，座標系，微分積分が融合して，一つの数学的自然が創られる。その空間のある領域で定義された解析関数は，それぞれ固有の自然存在域をもち，固有の振る舞いをする。そういう数学的自然を解析関数によって表現しようとするとき，一変数だけでは不十分であり，多変数の解析関数の自然存在域が任意な領域ではないという事実に出会う。そのような世界，複素多変数関数論の入門として，岡の上空移行の原理をプリミティブな形で紹介する。	2	
力学系と数式処理特論	力学系の積分可能性に関する判定理論を学ぶと共に，数式処理を行い力学系の積分可能性の判定を如何にして行うか，具体的な方法を学ぶ。	2	
数理認識発達特論	グラフ理論の発端である一筆書きについてまず学びグラフの平面性や４色問題と５色定理について学ぶ。オイラーの多面体定理を介してトーラスの７色定理について学ぶ。作図の問題と２次方程式３次方程式の関係について学ぶ。サイコロの目の出方について多項式の因数分解を介して理解する。	2	未　　定
数理認識発達特論演習Ⅰ	正五角形の作図を２次方程式の解の作図と絡ませて考える。さらに黄金比の特徴について考える。平面の地図の彩色を実践してみる。正多面体の分類について考察する。	2	
数理認識発達特論演習Ⅱ	はじめに魔方陣について考察する。２次方程式を作図で解くことを実践する。道具を使って角の３等分を考える。ユークリッド幾何の公理，折り紙の公理について考える。定規とコンパスで出来る作図がコンパスだけで出来るか考える。	2	
情報コミュニティ特論	マークアップ言語のひとつである数学等の組版処理言語の TeX 実際にはそのマクロを含んだ LaTeX を学び，実際に文章を作成してみる。それに続いて HTML や ABC 譜（楽譜記述言語）などで各自選んだ言語での原稿を作る。	2	特任教授 瀧口　和也 （令和３年度担当）
伝統の数理特論	適宜図形問題を解く。山本安之：算法助術の紹介その現代語訳である中村信弥：和算の図形公式－算法助術－を紹介する。和算図形公式のいくつかを紹介させ及び検討をする。コクセター：幾何学入門の紹介しそれに続いてテーマを選んで紹介させ検討する。	2	
数学科教育特論	算数・数学科におけるこれまでの理念や方法を整理し，めざすべき授業についての研究の視点と研究方法を解説する。	2	未　　定
算数・数学カリキュラム特論演習	小・中・高等学校における指導内容とその系統と発展について具体的にとらえ，カリキュラムのあり方と指導方法についての理解を深める。	2	
数学科教育実践研究	理論と実践を互いに映す，映し出される関係としてとらえ，実践に根ざした理論の開発，理論に根ざした実践の開発という２側面での開発の意識化を図る。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
統計理論の社会的応用特論	統計学は自然科学・社会科学の広い分野で応用されるが，その目的は現実にある現象を解析しその法則性を見出したり，判断の正しさに科学的根拠を与えることである。しかし，データは数多くの既知・未知の要因によって影響を受け，特殊な性質が含まれることが多い。この観点から，これまで利用されてきた各種の実験デザインや統計手法について調査し，その問題点と改善方法について研究しながら様々な統計処理の手法を習得する。	2	准教授 和田　正樹
統計理論の社会的応用特論演習	これまで利用されてきた各種実験デザインや統計手法についてデータ解析環境「R」を利用して具体的な事例の統計解析を行いながら，様々な統計処理の手法について学習する。目的に応じて適切な調査研究のプロトコールを立案し，それに基づいて収集したデータを適切に統計処理する能力の習得を目指す。「統計理論の社会適応用特論」で修得した手法をより実践的な課題に適用することにより，社会に対する数理的な視点を深化させる。	2	
生命環境科学特論	本科目では，基本的なバイオテクノロジーのうち，生態学分野の研究で使用される機会の多いものを中心に，その原理を学習し，生態学分野の研究を遂行したり論文の内容を理解するための基礎力を養う。実践事例の紹介は，受講者が英語の論文を読み分析手法について紹介する，調べ学習の形式である。	2	准教授 水澤　玲子
生命環境科学特論演習	生態学分野で使用することの多い基本的な実験手法について，演習形式で学習する。	2	
自然環境科学特論	輪読形式で生態学の基礎を学習する。受講生は割り当てられた章についてレジュメを作成し，発表する。輪読中に生じた疑問等について，適宜インターネットで調べながら議論を行う。	2	
自然環境科学特論演習	生態学データの解析を想定した統計処理について学習する。R を用いた実習形式で，一般化線形モデルを中心に解説する。	2	
物質化学特論	理科の学習では，実社会や実生活との関連を重視し，学習の意義と有用性を実感させることが重要である。自然科学や科学技術の現状を物質化学の視点からとらえ，それらの素材を理科学習においてどう教材化していくかを学ぶ。	2	特任教授 村上　正義 （令和３年度担当）
物質化学特論演習	自然科学や科学技術を取り巻く課題について，物質化学の分野を中心として調査や文献により情報収集しながら認識を深め，理科学習指導への実践的活用の在り方を検討する。	2	
理科教育特論	理科教育の現代的な課題を踏まえ，科学的リテラシーを育むために，小・中学校の理科学習において必要とされる，自然のとらえ方や科学技術を検討する。また，ICT 活用を活用した実験，観察などの効果および課題について，実践例などを交えながら検討する。	2	准教授 平中　宏典
理科カリキュラム特論演習	身近にある自然や素材と ICT を組み合わせた理科教材の開発を通して，小・中学校の理科学習における科学的な見方や考え方を育成するためのカリキュラム開発を行う。	2	
理科教育実践研究Ⅰ	この授業では，附属小学校，中学校及び関連校での理科の授業を参観し，現場教員との授業研究を通して授業分析や題材分析を行う。また，授業記録を元に研究室で検討を行うことで実践に対する考察を深め，実際の理科の授業及び理科という教科の経営のあり方を学ぶ。とくに，附属小学校・中学校の研究公開に参加することにより，授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。	2	
理科教育実践研究Ⅱ	この授業では，附属小学校・中学校，及び関連校での理科の授業を参観したり，現場教員との授業研究を通して授業分析や教材の分析を行う。また，先行研究や授業記録を元に研究室で検討を行うことで実践に対する考察を深め，実際の理科授業及び理科という教科の経営のあり方を学ぶ。とくに，附属小学校・中学校の研究公開に参加することにより，授業実践とその授業案を対照させながら授業実践について学習する。	2	
プロジェクト実践研究Ⅰ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。現地調査・構想の立案を中心に行う。	1	全　教　員

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
プロジェクト実践研究Ⅱ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。実践と総括，報告書の作成を中心に行う。	1	全　教　員
地域文化創造特論	この科目は，地域文化創造専攻の学生に高度専門職業人としての基本的資質を身につけさせることを目的とする。地域の中で文化を習得・創造・伝達し，地域を担って活躍していくことができるように，社会人としての基礎やキャリア意識，市民として職業人としての規範意識を涵養するとともに，地域を支援していくために必要な基本的知識やスキル，具体的な実践例などを学んでいく。	2	小野原雅夫 初澤　敏生 他
数理科学コミュニティⅠ	専門家以外にもわかるような内容を含んだものを学習する。授業は以下のテーマで構成され，その話題について学生・教員協力して検討をくわえる。⑴問題を解くための考え方の紹介と授業毎の演習⑵暗号と素因数分解の一意性⑶ユークリッド幾何学，非ユークリッド幾何学の成立についての紹介⑷数理における認識の特徴について⑸ダーウインの再評価と社会生物学の紹介	1	未　　定
数理科学コミュニティⅡ	専門家以外にもわかるような内容を含んだものを学習する。授業は以下のテーマで構成される。⑴代数構造の数理に関すること⑵幾何に関すること⑶自然環境科学や生命環境科学に関すること⑷領域の人材養成や目的の中での自己の達成度について	1	

○　地域文化創造専攻（スポーツ健康科学領域）

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
身体教育とスポーツ文化特論	本講義では，身体教育，スポーツ文化について理解を深めるとともに，身体教育とスポーツ文化との関連性について体育原理の観点から考察していく。スポーツを教材とした身体教育のあり方や，様々なスポーツ文化の教育的意義を踏まえたスポーツ指導および保健体育科教育のあり方について，テキストや資料をもとに論究する。具体的にはテキストや資料を読み進め，受講生が要点をまとめて説明した上で，教員からの内容確認の質問に答えていく形式で進める。	2	教授 小川　　宏
現代スポーツ特論演習	本演習では，現代社会における体育・スポーツの様々な話題や問題について受講生がローテーションで話題提供し，体育・スポーツに対する考え方についてディスカッションを行い，理解を深める。現代社会における体育，スポーツ指導のあり方や，各スポーツの現代的特徴，レクリエーションスポーツの今後の方向性など，できるだけ広い視野から現代スポーツの特徴を捉えていく。そして将来，保健体育教育やスポーツ指導の現場に立ったときに，正しい判断と対処ができる指導者を育成していく。	2	
身体観と身体技法特論	江戸時代に集大成された武術・武芸は，心身一如の「身体観」に基づいて技や技術が創られている。ここでは，自然体・すり足・正座・蹲踞など武道独特の身体技法から，心身一如の「身体観」に基づく技や技術を保健体育（体育理論及び体育史）という立場から探究していく。	2	未　　定
身体文化史研究	世阿弥の『風姿花伝』，柳生宗矩の『兵法家伝書』，宮本武蔵の『五輪書』を講読しながら，そこで述べられている身体技法や所作事の解説をとおして，現代の教科としての保健体育や体育実技にも受け継がれている「心と体を一体としてとらえる（心身一如）」の「身体観」を比較検討する。	2	
運動学習と人間発達特論	初めに，運動学習と発達に関する認知心理学的研究，生態学的研究について概観する。これらの研究の成果と問題点を整理しつつ，人間発達を促す運動学習の在り方の一つとして，自己調整による運動学習について理解する。最後に，子どもの運動学習指導の実践例を題材に検討を加えることにより，実践的な理解を深める。	2	未　　定
運動心理学特論演習	最近のスポーツ心理学，運動心理学と体育心理学の研究領域の共通性と独自性を理解しつつ，特にこの授業では，体育科教育の観点から，運動行動が人間発達に及ぼす影響について，国内外の心理学の文献を手がかりに理解を深める。更に，それらの知見を基に，異なる年齢層を想定して健康運動指導計画を立案し，相互に評価しあうことにより，指導の実践力を身につける。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
スポーツ社会政策特論	国，都道府県，市区町村の三つのレベルから現代社会におけるスポーツ政策の重要性と理念を理解する。また，地域におけるスポーツ振興において，その重要性が高まっているスポーツ振興計画策定の手順について体育社会学の観点から解説する。さらに，諸外国のスポーツ・健康政策について概説する。	2	准教授 蓮沼　哲哉
スポーツクラブマネジメント特論演習	プロ・アマ問わず，スポーツクラブが自主独立し健全に発展するためには，人材，施設，財源，広報など，効果的なマネジメントが不可欠となる。そこで，本演習では，国内外のスポーツクラブを事例に取り上げ，設立のノウハウ，運営・指導・評価の観点から，実践的な知識・技能を高める。	2	
スポーツ医科学特論	アスリートは最高のパフォーマンスを発揮するために日々トレーニングを行っている。良いトレーニングを行ったり，トレーニングで鍛え上げた能力をより良く発揮したりするためには，より良いコンディションを維持しなければならない。本講義では，アスリートがより良いコンディションでトレーニングを継続したり，競技会で最高のパフォーマンスを発揮したりするためのコンディショニングについてスポーツ医科学の観点から論究する。	2	准教授 杉浦　弘一
健康科学と運動処方特論	健康の維持増進，および生活習慣病の予防にとって，日常生活における身体活動量の確保は非常に重要である。本講義では健康に対する考え方，身体活動量の評価，健康と運動（または身体活動），生活習慣病と運動，健康の維持増進のための様々な取り組みについて，理解を深める。そして，健康の維持増進に欠かすことのできない運動をどのように処方すべきかについて，健康（健康科学）と運動の効果を概説する。	2	
運動とライフサイエンス特論	本講義では，大学で学んだ生理学，運動生理学の知識を基礎として，より深化発展させた内容を行う。運動による生体の反応，適応変化を遺伝子レベルから個体レベルで考察できるようになることを目的とする。具体的には，遺伝子とタンパク発現，運動時の遺伝子発現と情報伝達系の変化，運動パフォーマンス向上に関係する細胞内情報伝達系，健康の維持増進を目的とした運動を生理，生化学的にとらえる，筋の萎縮と肥大，等のテーマについて学ぶ。講義は理論を基礎とするが，理解を助けるために必要に応じて実験実習を行う。	2	教授 安田　俊広
健康指導特論演習	本演習では，運動が生体に与える影響について基礎的知識を総括した後，運動パフォーマンス向上および健康の維持増進のためにどのような運動が適切であるのかについて学ぶ。最近の研究成果を知るために運動生理学を中心とした論文を読む。また実験実習を通じて運動に伴う生体の反応について測定し，健康運動指導やコーチングに必要とされる測定方法，評価について学習する。講義，実習の成果をレポートにまとめ理解度を確認しながら進める。	2	
ボールゲーム指導特論	ボールゲームの各種目の特性，またボールゲーム共通の特性について運動学の観点から考察を加える。また，スポーツ全般の中でのボールゲームの特徴について検討する。さらに，ボールゲームの指導方法について文献，ビデオ資料等で検討をし，それぞれの特徴，特性に合わせた指導方法を追究し，保健体育教育へつなげていく。	2	未　　定
スポーツ運動の分析特論演習	スポーツ運動におけるさまざまな動作について，コンピューターによる三次元動作分析を行い，身体各部位の動きを運動学的に詳細に明らかにする。また，ボールゲームにおけるチームメンバー全員の動きについて，メンバー間での関連性を重視しながらその動きを詳細に明らかにする。	2	
舞踊教育特論	体育実技・舞踊の知識を深め，身体表現の指導のための専門的知識を修得する。また，舞踊の歴史を踏まえ，舞踊教育のあり方を探る。教材研究では発達に伴う身体表現の現象を分析し，題材，保健体育教育の体育実技・舞踊領域の学習指導案の書き方，指導言語等，発達に応じた指導の展開を学習し，体育教師との共同研究を計画する。地域の舞踊活動に関しては，民俗芸能保存会や祭礼の実行委員会等に依頼してフィールドワークの計画を立てる。芸術活動に関しては，ダンススタジオや劇場の実態を調査したり，芸術作品の分析等を行う。それぞれの研究方法を模索して，教育・芸術領域における舞踊文化の伝承方法を追究する。	2	特任教授 鈴木裕美子 （令和３年度担当）

授業科目名	授 業 科 目 の 内 容	単位数	担当教員名
舞踊表現特論演習	学会における研究動向や地域での実態を踏まえ，舞踊芸術作品にみられるイメージと動きの相関やテクニックの分析を運動方法学の観点から行う。世界の舞踊文化について見聞を広げるために，さまざまな民族舞踊や芸能，舞踊芸術作品にみられるイメージと動きの相関やテクニックの分析，音楽・衣装・照明・大小道具などの効果，演出等を分析し，保健体育教育の体育実技・舞踊の観点から，芸術性，教育的価値，文化的背景について言及する。さらに，文献やDVD等で理論や実態を踏まえた上でフィールドワークを行い，報告書を作成する。	2	特任教授 鈴木裕美子 （令和3年度担当）
コーチング特論	本講義では，保健体育教育や運動部活動の指導に必要な「競技力の構造」，「コーチングの基本構造」，「スポーツコーチに必要な資質」，「運動の分析と観察」，「戦術とゲームの分析」，「コーチとしてのコミュニケーションスキル」，「コーチのメンタルスキル」，「トレーニングマネジメント」などについて，運動学と運動方法学の両分野の研究成果を踏まえて，実践に即した内容を解説する。講義の各項目ごとに，そこで得られた知見を指導の実践でどのように応用していくのかを毎回演習問題として課すことで，より深い理解と応用力を身につけることをねらいとしている。	2	未　　定
メンタルトレーニング特論演習	本演習では，メンタルトレーニングの対象領域である「意欲」，「自信」，「感情コントロール」，「リラックス」，「集中力」，「視覚化」，「コミュニケーションスキル」などについてその理論的な部分の理解を深めながら，その具体的なトレーニング方法について実習する。そのことによって，実際の体育実技や運動部活動を指導する際に，メンタル面のサポートを行えるような実践的スキルを習得することをねらいとしている。知識のみの獲得ではなく，実践的な運用能力が身につくよう配慮したい。	2	
スポーツトレーニング特論	本授業は，運動学の観点からスポーツトレーニングを構成する原理について概説し，トレーニングにおける課題設定，トレーニング計画立案等について，文献や具体的事例をもとに論究するとともに，トレーニングの今日的課題について明らかにしていく。また，授業の後半では，スポーツ科学のトレーニングへの応用について知見を深めていく。具体的には，スポーツパフォーマンスの基礎となる「走」を例に挙げ，最新のスポーツ科学研究成果を実際のトレーニングにどう応用していくかを検討する。	2	教授 川本　和久 （令和5年3月 退職予定）
トレーニング実践特論演習	トレーニングプログラムは，競技種目や競技レベルの他，選手個人の年齢，性別，身体的特徴，遺伝的要因，性格等も考慮して作成する必要がある。実際のトップアスリートのトレーニングプログラムを題材にして，トップアスリートのトレーニング計画や構成等のトレーニング理論について，運動学の観点から実践的に学んでいく。さらに，競技種目や競技レベルに応じたトレーニングプログラムの作成，および各競技において一般的に行われているトレーニングプログラムの改善を試みる。	2	
運動発達のバイオメカニクス特論	ヒトの運動を理解するための基本的知識から各競技種目の専門的な動作のメカニズムまでを学習すること，さらに測定・分析手法を習得することを目的として授業を展開する。「良い動き」とは何かを考え，実際の運動指導現場への応用方法も身につけることを目指す。	2	講師 本嶋　良恵
発達と加齢の運動学特論	発育期ごとの身体の構造や機能の変化や運動の発達過程を学ぶこと，運動を習得し，修正し，自動化するまでの運動の学習・発達について理解することを目的として授業を展開する。受講学生自身の運動学習・発達過程を振り返り，考え，理解することで，運動指導を行うための能力を身に付けることを目指す。	2	
保健体育科教育特論Ⅰ	授業の「計画－実践－評価」という授業づくりの構成要素を理解する。計画段階では，教材づくり，単元計画ならびに1単位時間の指導計画の立案，学習資料の作成などを行う。実践段階では，立案した授業計画にもとづいてマイクロティーチング（仮想模擬授業）を実施し，授業運営や相互作用行動などの実践的に学習する。評価段階では，体育授業観察者チェックリスト及び形成的授業評価，授業場面の期間記録法などの組織的観察法を用いた授業分析にも取り組む。これらの活動を通して，よい体育授業を実現するための実践的な指導力を高めることを目指す。	2	講師 松本　健太

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
保健体育科教育特論Ⅱ	この授業では，「授業」や「学習」に関する知見に手がかりを得て，保健体育科教育に対する理解の深まりを図る。具体的には，「授業論」や「学習論」に関する文献講読と体育授業の実践事例の分析・考察等を行うことを通して，体育授業を省察できる能力の育成を図る。	2	未　　定
保健体育科カリキュラム特論演習Ⅰ	体育科・保健体育科では，児童生徒に生涯にわたってスポーツを実践するための基礎的な学習を保証しなければならない。そのためには，教育目標に向かってどのような教育課程を編成し，どのようにそれを実施・評価し改善していくのかというカリキュラム・マネジメントの視点が重要となってくる。ここでは，カリキュラム・マネジメントの必要性を理解するとともに，履修者間で議論し，各校種におけるカリキュラムを作成する。その際，単に体育・保健体育授業の年間指導要領を作成するに止まらず，体育的行事や運動部活動も含めて議論し，生涯スポーツの実践者を育むための学校教育全体のカリキュラムを検討できるようにする。	2	講師 松本　健太
保健体育科カリキュラム特論演習Ⅱ	体つくり運動・基本の運動・器械運動（器械体操）・表現運動（ダンス）及び健康領域の学校教育における課題を踏まえて，幼稚園，小学校・中学校でのそれぞれの教材開発ができ，全体のカリキュラムの整合性が図れるようになる。	2	未　　定
保健体育科教育実践研究Ⅰ	学校（小学校・中学校・高等学校）現場での体育科・保健体育科の授業を参観し，授業分析を行うとともに，模擬授業を立案・実践することを通して，保健体育科教師としての指導力向上ならび実際の教科の授業や学級経営のあり方について学修する。	2	講師 松本　健太
保健体育科教育実践研究Ⅱ	この授業では，附属小学校・中学校及び研究拠点校における体育科・保健体育科（ゲーム・ボール運動・球技）の授業を参観し，現職教員との授業研究を通して，授業分析や題材分析を行う。また，参観した記録を元に研究室でディスカッションを行うことで実践を省察し，現実の教科の授業及び教科経営のあり方を学ぶ。	2	未　　定
プロジェクト実践研究Ⅰ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。現地調査・構想の立案を中心に行う。	1	全　教　員
プロジェクト実践研究Ⅱ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。実践と総括，報告書の作成を中心に行う。	1	
地域文化創造特論	この科目は，地域文化創造専攻の学生に高度専門職業人としての基本的資質を身につけさせることを目的とする。地域の中で文化を習得・創造・伝達し，地域を担って活躍していくことができるように，社会人としての基礎やキャリア意識，市民として職業人としての規範意識を涵養するとともに，地域を支援していくために必要な基本的知識やスキル，具体的な実践例などを学んでいく。	2	小野原雅夫 初澤　敏生 他
スポーツ健康科学コミュニティⅠ	M２年生の授業進行により，スポーツ健康科学領域の研究概要や研究の進め方について学ぶとともに，M２年生との研究コミュニティを形成していく。授業の前半部分では，M２年生の研究概要発表を聞いて，不明な点について質問し理解を深める。授業の後半では，自らの研究テーマの概要について発表し，M２年生のアドバイスをもらいながら研究の方向性を探っていく。このような活動を通してM２年生との研究交流を深め，修了研究について日常的に相談，ディスカッションができる環境作りをしていく。	1	准教授 杉浦　弘一
スポーツ健康科学コミュニティⅡ	担当教員の助言のもとで，M１年生との合同授業を計画，進行し，スポーツ健康科学領域における研究コミュニティを形成していく。授業の前半部分では，自らの研究概要，計画についてM１年生に分かりやすく説明することで，プレゼンテーション能力を身につける。授業後半では，M１年生の研究の方向性や研究構想を聞き，それにアドバイスを与えることにより，領域のコーディネーターとしての役割を果たしていく。このような活動をとおしてM１年生との研究交流を深め，修了研究についてディスカッションができる環境作りをしていく。	1	

○　地域文化創造専攻（芸術文化領域）

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
現代ピアノ演奏演習	鍵盤楽器の発達史に遡り，その時代的な楽器の様相や特徴をとらえるとともに，それらを演奏史の流れの中に位置づけながら理解する。西洋音楽の歴史における４つの代表的な時代様式について，その特徴を理解するとともに，楽器の発達史に現れる事象との相関関係についても多角的に探究し，現代的な視点をとおして文化としての音楽芸術を探究する。	2	教授 中畑　　淳
ピアノ演奏特論演習	「現代ピアノ演奏演習」で扱った内容をもとにしながら，音楽芸術における作品解釈法ならびに具体的な演奏表現技法について研究する。作品に記された音を手がかりに，作品の世界を探究しながら，器楽における具体的な解釈法・演奏法，また伴奏法について検討する。	2	
鍵盤楽器特論演習	音楽表現は感性で修飾される部分が存在するが，その根幹では作品の姿と演奏表現・作品解釈との間に一定の相関関係が存在することを理解するとともに，演奏表現法のみならず地域における芸術文化の振興育成にたずさわる指導者をそだてるべく，ピアノ教授法としてもとらえなおす。これらのことを通じて，主にピアノを中心とする器楽（鍵盤楽器分野）における，演奏家と教育家を育成することを目指す。	2	
現代器楽演奏演習	そもそも道具である楽器を用いた表現が芸術として成立するためには，表現者と受容者という立場が不可欠であり，演奏者はその両者を体感していなければならない。そのため演奏行為を追及することのみでは真の表現者になることはできない。また聴く側からの一方的な音楽理解もまた，演奏表現の一部を読み取っているに過ぎない。この授業では，器楽による音楽表現のあり方を，表現の基となる楽器の理解とその奏法に起因する表現，つまり楽器と奏法の研究を通して解釈につながっていく「演奏行為」に内在する諸相を深く見つめることで，今日的な器楽のあり方を模索する。特に地域における芸術活動を支える人間発達支援者の養成を強く意識し，「演奏指導」にとどまらない深みをもった器楽分野の専門的力量を備えた人材の育成を目指す。	2	未　　定
器楽演奏特論演習	授業では実技指導を中心にしながら発表の機会を多くもち，演奏法，表現法の双方から器楽をとらえていく。発音のシステムや材質の違いによる楽器ごとのサウンドの違いを手がかりに，作曲者が意図した表現を深く研究しながら，演奏技術の向上をはかると同時に，地域に求められる高度な専門的力量を具えた演奏家，そして指導者を育成する。	2	
器楽アンサンブル特論演習	「現代器楽演奏研究」および「器楽演奏演習」は個々の知識・演奏技術の深まりや向上を目指しているが，本授業においては器楽合奏を通して他者とコミュニケーションできる能力を育成する。言い換えれば楽器をそのために利用できる「（自分と楽器両方の）調整力」を養うことを目的とする。また地域における芸術文化の振興育成に関わって，「合奏指導のあり方」についても研究する。当然ながら，上手な演奏家が優れた指導者になれるとは限らない。つまり演奏技術を自分のものにできた経験を他者に伝えることは，楽器経験者であれば比較的容易であるが，その時々の学習者の状態を踏まえた適切な指導が行える能力は，そのための訓練無しに培うことはできない。本授業ではこの視点を強く意識しながら，アンサンブルの「表現手法」と「音楽的意思伝達法」を研究する。	2	
現代声楽演奏特論演習	日本の歌曲を中心に邦人作品の表現方法を研究する。日本と西欧との文化や生活環境の差異を認識し，そこからくる国民性としての人間の行動様式の違いが声楽の違いに反映していることの実態を認識する。その上で，クラッシック音楽の範疇での日本語の表現法を探究する。又，19世紀終盤から20世紀にかけての声楽作品を中心に，作品の内容の理解とその歌唱法を探究する。我が国におけるクラッシック音楽としての声楽のあり方について考え，また，近代から現代にいたって声楽に要求されるようになった，多彩な要素についても探究する。	2	教授 今尾　　滋

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
声楽演奏特論演習	西欧の発声，すなわちクラッシック音楽の呼吸法及び発声法を深く学ぶともに，基本的に歌曲全般の歌唱を通じて歌唱法の実践研究を行う。教材は受講者の希望を聞きながら教員が判断し，イタリア歌曲，ドイツ歌曲，フランス歌曲，日本歌曲等を与える。歌唱可能であれば，オペラ・アリアを選んでもよい。各国語の発音，詩の朗読，文献研究を通じ，それぞれの演奏様式に則った方法で歌うことができるようになることを目指す。文化の相違を実感するため，できるだけ多くの曲に触れてもらいたい。	2	教授 今尾　　滋
オペラ特論演習	モーツァルトのオペラを中心にアリア及びアンサンブルの歌唱法と演技法を研究する。欧米のオペラの演唱・演技には，文化や生活様式の研究は欠かせない。一方我が国の文化や生活様式には独特の背景が横たわっている。この異なる文化や生活様式を解明しながら，歌唱法や演技法を肉体運動として構築・実践していく。歌唱は暗譜で行う。劇音楽がいかなるものであるかを体験し，表現力の向上に役立てて欲しい。	2	
音楽メディア創造演習	本講義では，今日，音楽作品創作の専門的研究において求められる様々なメディア（楽器，電子メディア，情報機器，その他プレゼンテーション・発表に必要な多様なメディアなど）を利用し，作曲法の研究を行う。時として，個々の受講生の能力・関心・必要性に応じた課題を設定する。また，この授業を通じて，多様なメディア利用による作品研究，またそれに関する著述なども，研究の対象とする。この研究によって，より現代の社会・文化に対応する表現のあり方を考察する。	2	教授 横島　　浩
作曲特論演習	本演習では，作曲法における研究課題を深化させ，自らの作品に発展すべく，自己の音楽の語法の確立を指向する。その過程で過去の様々な作家の作品を研究し，また彼らの語法の研究も行う。また，音楽以外の幅広い領域への関心を広げ，作品の創作へ導入あるいは，そうした多領域の表現における創作のあり方を研究し，幅広い視点に立った創造の世界への可能性を追求する。	2	
現代指揮法演習	本講義では，指揮法における基礎的な技術の基盤の上に，古典から現代にまで至る様々な作品を指揮法の観点から，研究する。取り扱う編成としても，オーケストラ作品，合唱作品，アンサンブル，コンピュータを利用した現代的作品を含んだ幅広いものを扱う。また，欧米の作品のみならず，邦人による作品，伝統楽器などを含んだ作品を扱う。そのため，作品の内容の分析はもとより，楽器や使われるメディアに関する研究も行われる。また，指揮の活動として求められるアレンジも扱う。	2	
音楽科教育特論	音楽科教育に関する研究方法論について，便宜上，哲学的・歴史的・記述的・実験的・民族誌的研究に区分けし，それぞれの梗概を把握する。また，音楽科の授業研究の方法について，質的・量的研究双方について学習する。次に音楽科教育の歴史，思想・哲学，教材論について，拙著を手掛かりとしつつ，批判的に検討する。さらに，ポピュラー音楽の教材化について議論することで，今日の学校音楽教育が抱える問題点と可能性について考究する。	2	教授 杉田　政夫
音楽科カリキュラム特論演習	教育学におけるカリキュラム研究において主流である「カリキュラム開発」，及び「カリキュラム批判」双方について，音楽科教育の文脈で考察する。そして音楽教育実践者自らがカリキュラムを（再）構成する際に求められる基礎理念を，文献講読等を通して形成することを主眼としている。	2	
音楽科教育実践研究Ⅰ	音楽授業の観察方法について学び，本学の附属小学校・中学校の学校公開で扱われる教材についての研究や，指導案の検討を行った上で，参観する。さらに授業者を交えて意見交換，議論することで，音楽教育実践の課題や可能性，展望について考察する。	2	
音楽科教育実践研究Ⅱ	福島大学附属小学校・中学校の学校公開用の指導案の検討を行った上で公開に参加する。授業を観察し，授業者を交えた検討会に参加し，議論することで，音楽授業のあり方について目的，内容，方法，評価の観点から検討する。さらに音楽科学習指導要領とも関連付けて考察し，その意義や有効性について検証する。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
音楽文化特論	現代の私たちは非常に多様化した音楽文化の中にいる。この授業では，多様な音楽の中から，西洋音楽，日本音楽（日本の伝統音楽を含む），ポピュラー音楽（特に歌謡曲）を取り上げ，それぞれの音楽に見られる文化について考察する。受講生のほとんどは，学類（学部）において，西洋音楽や日本音楽についてある程度学んでいるが，ここでは，文化としての音楽の理解を深め，それぞれの音楽文化間の共通性や異質性，影響等について考えて欲しい。	2	未　　定
音楽文化特論演習	日本では様々な音楽が享受されているが，その大半は西洋音楽系の音楽であり，日本音楽に対しては，特に子どもや若者は興味を示さず，馴染みの薄い音楽と感じている。しかし，現代音楽の世界では，文化としての日本音楽（日本の伝統音楽を含む）のあり方は非常に魅力に満ちたものとして注目されている。この演習においては，文化としての日本音楽のあり方を，現代の音楽の問題として考察したい。具体的には，文献講読（民族音楽学的視点からの文献と音楽美学的視点からの文献）を中心に進めるが，福島の音環境（音楽を含む）の調査からも日本音楽のあり方を考えていく。	2	
現代文化と絵画特論	絵画の近代以降の系譜を検証し，美術制作学，美術教育学の視点からその構想について分析，考察する。併せて絵画表現の特質を理解し，現代における絵画表現と地域文化との関わりを深く追求する。具体的には，個別に設定したテーマに沿って，絵画の制作理論に関する英文の翻訳を行い，絵画制作の主題，絵画の重層構造，技法や歴史的な問題について，再検討を行う。また，絵画における教材研究の新たな可能性についても検討する。	2	教授 渡邊　晃一
現代文化と絵画特論演習Ⅰ	絵画および現代美術に関して，個別に設定したテーマに沿って制作を行い，自身の制作について深く研究する。具体的には，テンペラ，混合技法による実制作をする中で，絵画のタブロー制作についての基礎概念を習得する。また西洋絵画と日本の伝統絵画や，写真表現との比較検討等を行うなかで，制作学や美術教育との関わりについても提起していく。	4	
現代文化と絵画特論演習Ⅱ	個別に設定したテーマに沿って，「版表現」の制作を行い，美術制作学，芸術教育学の視点をふまえつつ，自身の制作について深く探求していく。現代における Print-making の授業研究と重ね，BoxArt や BookArt の制作を行う。通じて「版表現」に関わる材料や制作技術，理論の構築をはかる。	2	
環境と彫刻特論	環境と彫刻特論の授業では，現代のパブリックスペースに設置された，いわゆるパブリックアートとそれを取り巻く歴史的，物理的，社会的環境との関係について学習を深めていく。前半では近代以降の日本における野外彫刻の展開を年代ごとに学ぶ。特に西欧近代彫刻の考え方の移植を受けてから後の明治大正期の彫刻設置と，1960年代以降の公共事業における１％システム事業に焦点を当て，各種環境との影響関係の概略を整理する。後半パブリックアートの今日的展開について調査研究することで，今後の環境と彫刻の望ましい関係について考察を深めていく。	2	教授 新井　　浩
環境と彫刻特論演習Ⅰ	環境と彫刻特論演習Ⅰでは，パブリックアートの具体的作例をもとに，設置環境における歴史的，物理的，社会的成立要因を分析することで，実際の彫刻制作につなげていくことを目的とする。今日ではパブリックスペースにおける彫刻設置は，数多くの要因が複雑に絡み合い，対応として入念な検討を要求されている。授業では入念な検討をもとに，彫刻における造形技法を使い，環境と彫刻のより良い関係を模索する制作者側からの提案を発信する試みを行う。	4	
環境と彫刻特論演習Ⅱ	環境と彫刻特論演習Ⅱでは，サイトスペシフィックな具体的作例をもとに，造形表現を中心とした実際の制作活動につなげていくことを目的とする。今日のサイトスペシフィックの概念では，表現は必ずしも造形的側面ばかりが強調されてはいないことを，具体的作例を通して学びながら，造形表現の更なる可能性を探っていく。授業では入念な検討をもとに，彫刻における今日的造形技法を試み，環境と彫刻のより良い関係をさらに模索していく。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
社会とデザイン特論	本講義では，デザイン領域のうち特に視覚伝達デザインの分野について，その目的や内容を主に日本デザイン史上の作品や文献を抽出して概説する。講義の中で，デザインに対する断片的な知識を統合し，デザインの目的は商業主義に立脚するのではなく社会や人間生活への貢献であることを理解させる。特に川添登著「デザイン論」やパパネック著「生きのびるためのデザイン」の内容紹介には時間を割く予定をしている。また特論演習で扱うユニバーサルデザインの糸口となるような工夫も加えたい。	2	未　　定
社会とデザイン特論演習Ⅰ	視覚伝達デザイン制作で使用する用具や材料，技法の検討を踏まえて作品制作を行う。視覚伝達デザインの二大構成要素の一つであるイラストレーション制作に関して，材料経験の乏しさを補うため，コンピュータグラフィックスとは別にカラーインクやマーカーでの制作を経験させる。修了後の進路も考慮し，印刷の実際を知るために印刷やデザイン関係会社を見学する機会を含める。なお，後半部分では暗室における写真の特殊表現技法による制作に取り組み，制作の幅を広げ「映像メディア」の世界を理解させる。	4	
社会とデザイン特論演習Ⅱ	本演習は，デザイン特論を受けて現代のデザインについて考えることを中心とする。バリアフリーを経てユニバーサルデザイン的発想が定着しつつあるが，自然的資源，社会的資源，人的資源がデザインを考える上でのキーワードと言われる意味合いを考え，地域との関わりの中でデザインの占める位置を模索することを中心課題としたい。特に，ここ数年 ETHICALDESIGN の発想が紹介され始めた点についても触れながら，フィールドワークも含めた演習内容とする。	2	
生活と工芸特論	工芸は，造形芸術の一分野と位置づけられるものの，美術的な観点以外の諸要素も多く，より複眼的な見方を必要とする。この授業は，工芸が私たちの生活の中で，様々な価値を形成していることについて着目し，造形芸術としての側面，社会における生産やシステムとしての側面，人の生き方や生活のあり方との関連など，いくつかの側面からの論評や文献などを通して，考察を深める。	2	片野　一 （非常勤）
生活と工芸特論演習Ⅰ	各自の生活をデザイン的観点より改めて点検し，自らの生活や社会，環境などに連関したデザイン上のテーマを見出すとともに，具体的な市場や商品調査，専門情報誌，書籍などから収集した情報の整理をもとにデザイン・工芸作品の制作を実践し，発想から制作，生活化という一連のデザイン・工芸表現の特徴を検証する。	4	
生活と工芸特論演習Ⅱ	受講生各人のそれまでのデザイン・工芸の修得状況を勘案しつつ，必要かつ適切な範囲での選択をしながら食生活のための造形のデザイン性，生活との関わり方も含む創作性や独自性について探求する。課題の制作計画は，柔軟性をもって対応するが，概ね板状材料の加工と組み立てによる課題を，それまでに使用していない工具の使用法を修得しつつ，作品として完成させる。	2	
日本美術史特論	この授業では，美術科教育の視点を踏まえながら，日本美術史の展開について，各時代における個々の作品に焦点を当てながら，学習を深めていく。前半では飛鳥時代から近世以前までの様式の変遷をたどり，制作の意図や背景を探求することで，作品を分析し，洞察する力を養う。後半では近世の絵画，工芸に焦点を絞り，当時の風俗や生活に関連させながら読み解いていく。さらに日本美術史の基礎的な研究方法についても，実際の作品や文献の読み方から学習していく。	2	准教授 加藤奈保子
西洋史美術特論	この授業では，美術科教育の視点を踏まえながら，西洋美術史の展開について，各時代における個々の作品に焦点を当てながら，学習を深めていく。前半では古代からルネサンスまでの様式の変遷をたどり，制作意図や制作背景を探求することで，作品を分析し洞察する力を養う。後半ではバロック・ロココ時代と市民芸術が花開いた19世紀以降を，主題，表現，造形性の観点から比較し，読み解いていく。さらに西洋美術史の基礎的な研究方法についても，実際の作品や文献の読み方から学習していく。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
美術科教育特論	美術教育における絵画及び彫刻領域を中心とした実践研究を行い，幼稚園造形表現・小学校図画工作科や中学校美術科の「心象表現領域」の授業計画と授業展開について研究する。特に，受講学生の研究内容に関連した美術教育文献および専門用語についての分析・研究をすすめ，絵画・彫刻表現における基本的な表現力など，戦後の指導方法・指導内容の変遷，他国の実践事例との比較研究などを行う。また，参考文献や引用文献など，大学院での研究に関する基礎的な方法も学ぶ。	2	特任教授 内藤　良行 （令和３年度担当）
美術科カリキュラム特論演習	教科書や美術資料等を参考にカリキュラムと教材について研究し，小・中学校における心象表現題材のカリキュラム開発を行う。特に，美術教育で用いられるキーワードに着目し，キーワード分析を通して，絵画（含：版画）や彫刻における主題性や造形性および表現意欲を向上させる導入方法の研究を行う。また，育みたい学力などの視点から構想したカリキュラムや教材を附属学校園等に提案する。	2	
美術科教育実践研究Ⅰ	附属小学校・中学校及び研究拠点校における図画工作・美術（心象表現領域）の授業を参観し，現場教員との授業研究を通して，授業分析や題材分析を行う。また，授業記録を元に研究室でディスカッションを行うことで実践を省察し，現実の教科の授業及び教科経営のあり方を学ぶ。	2	
美術科教育実践研究Ⅱ	附属小学校・中学校及び研究拠点校における図画工作・美術（適応表現領域）の授業を参観し，現場教員との授業研究を通して，授業分析や題材分析を行う。また，参観した記録を元に研究室でディスカッションを行うことで実践を省察し，現実の教科の授業及び教科経営のあり方を学ぶ。	2	
プロジェクト実践研究Ⅰ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。現地調査・構想の立案を中心に行う。	1	全　教　員
プロジェクト実践研究Ⅱ	本授業は，主として，修了研究において「プロジェクト研究」を選択した学生を対象として実施し，主指導教員の指導の元に，学生の地域におけるフィールドワークや実践的な活動を計画的に行うものである。実践と総括，報告書の作成を中心に行う。	1	
地域文化創造特論	この科目は，地域文化創造専攻の学生に高度専門職業人としての基本的資質を身につけさせることを目的とする。地域の中で文化を習得・創造・伝達し，地域を担って活躍していくことができるように，社会人としての基礎やキャリア意識，市民として職業人としての規範意識を涵養するとともに，地域を支援していくために必要な基本的知識やスキル，具体的な実践例などを学んでいく。	2	小野原雅夫 初澤　敏生 他
芸術文化コミュニティⅠ	芸術文化領域のＭ１年生がＭ２年生に研究の経緯やテーマ，研究方法などを提示してもらうことで，芸術文化領域の特性を押さえるとともに，自らの研究の見通しを得る。担当教員のコーディネートのもとで，課題にたいする論点の押さえ方や，芸術文化領域におけるディスカッションの方法を学ぶ。さらに，Ｍ１年生が自らの研究の方向性や研究構想をＭ２年生に対して発表することにより，大学院レベルの研究者の共同体としての関係を深め，「実践コミュニティ」の構築をめざす。（隔週実施）	1	未　　定
芸術文化コミュニティⅡ	芸術文化領域のＭ２年生がＭ１年生に研究の経緯やテーマ，研究方法などを提示することで，芸術文化領域の特性に即して，自らの研究内容の対象化，一般化を行うとともに，Ｍ１年生に対して研究の見通しを与える。担当教員のコーディネートのもとで，課題にたいする論点の押さえ方や，芸術文化領域におけるディスカッションを実践し，議論を組み立てる。さらに，Ｍ１年生の研究の方向性や研究構想を聞き，それにアドバイスを与えることにより，大学院レベルの研究者の共同体としての関係を深め，「実践コミュニティ」の構築をめざす。（隔週実施）	1	

○　学校臨床心理専攻

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
教育分野に関する理論と支援の展開（学校臨床心理特論）	学校現場が抱える不登校，いじめ，非行，発達障害といった困難な問題行動に対する理解と解決に向けたアプローチを学ぶ。ここでは学校と社会，学校と家庭，子どもの発達とその障害，学校の組織と体制等の理解について学際的な視点から学び，学校カウンセリングの在り方や基本的な方法を検討する。さらに，子どもの問題行動に対して，アセスメントの方法，支援方針，援助の実際にふれて，個別援助計画の重要性を認識する。	2	岸　　竜馬 安部　郁子 髙橋　純一 鈴木ひろ子 （非常勤）
臨床心理学特論Ⅰ	精神分析的心理療法をベースに，心理療法を始めるにあたって必要な知識を身に付ける。また，精神病理についての実践的理解を深める。	2	准教授 岸　　竜馬
臨床心理学特論Ⅱ	認知行動療法の技法習得に先立って，エビデンスに基づく医療，科学者－実践家モデル，共同的実証主義といった認知行動療法の土台となる発想を理解する。その上で，うつ病，不安症，および逆境体験に対して適用される認知行動療法のフォーミュレーション，認知論的・行動論的介入技法を体験的に習得する。	2	竹林　由武 （非常勤）
心理臨床特論	近年の心理療法の基礎的概念を理解すると同時に，心理臨床が教育活動と違って，人間をいかに理解して援助しているかについて学ぶ。さらに，学校と医療等の専門機関とが連携する上で必要な臨床心理学の重要な理論や知識を学ぶ。	2	准教授 岸　　竜馬
心理支援に関する理論と実践（精神分析学特論）	精神分析的心理療法の治療に必要なこと，面接室の創り方，その面接空間で進められていくこと（見立て，治療契約），体験し理解していくこと（聴くこと，伝えること，知ること，転移と逆転移など）を学ぶ。	2	
投影法特論	投影法の中で，特にロールシャッハ法を中心に取り上げて，分析方法や解釈に関するさまざまな理論を検討する。さらに事例を通して，分析方法，病態把握，援助計画の実際を学ぶ。	2	
障害児病理特論	被虐待やDV家庭で育った子どもたち等の心的外傷をアセスメントし，対応・ケアの方法を学ぶ。	2	武士　清昭 （非常勤）
臨床発達心理学特論	虐待やDV家庭といった機能不全家庭に育った児童の心理特性と心理的ケアについて学ぶ。虐待を受けたことによる愛着の問題や心理的外傷（トラウマ）に対し，心理的ケアを行うことが重要である。授業では，愛着の発達と愛着の問題，児童虐待が発達に及ぼす影響，心理的外傷に対する心理的ケアについて考えることができるようにする。	2	特任教授 安部　郁子 （令和３年度担当）
臨床心理査定演習Ⅱ	発達検査・知能検査の意義を理解し，適切に実施・解釈を行い，検査結果を心理・教育的アプローチに活用できるための理解と技法を学ぶ。授業ではWISC-Ⅳを中心に取り上げる。発達検査・知能検査の基本的な考え方，知能と精神機能，WISC-Ⅳの理論と実施方法，検査結果の生かし方，検査報告書の書き方などを実践的に取り上げ考えさせる。授業は，講義以外は，小グループに分かれて演習，実習形式で進める。	2	
知能検査法演習	知能検査の理論的背景について理解し，検査の施行方法と結果について学ぶKABC-Ⅱなどについて理解を深める。	2	
臨床心理面接特論Ⅱ	システム論に基づいた家族療法を中心に臨床心理面接を講じる。家族療法の歴史的展開を概観し，その諸学派の特徴的な技法を学ぶ。ブリーフセラピー，ナラティヴセラピー，解決志向アプローチなども取り上げ，家族面接の理論と技法の実際をDVD教材を活用して修得する。	2	未　　定
家族カウンセリング特論	学校臨床において，保護者の協力を得て，問題行動に対処するための諸技法について講じる。システム論に基づいた学校臨床を論じた上で，保護者をエンパワーメントする家族カウンセリングについて，その理論と技法の実際をDVD教材も活用して学ぶ。	2	
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 （家族臨床心理学特論）	家族臨床心理学の理論と実際について講じる。家族臨床と司法・矯正保護，精神保健，学校教育，地域社会等との関連を整理した上で，家族臨床心理学の諸理論について紹介する。家族臨床的援助の方法として，家族構造や家族コミュニケーション，家族の認知構造等に焦点を当てた技法を紹介し，ビデオ・モニター・システムを活用したライブ・スーパービジョンにより問題を抱える家族に対する有用な心理的援助の方法論について修得する。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 （犯罪・非行臨床特論）	非行少年の社会復帰過程を援助する心理臨床的諸活動である非行臨床を講じる。非行少年処遇の流れを理解した上で，非行臨床の目的，援助者の役割，援助構造の特質を論じ，認知行動療法，短期療法，家族療法，心理教育等を統合したアプローチについて，非行臨床機関の見学も交えて学ぶ。	2	未　　定
非行カウンセリング特論	学校臨床における非行問題への心理的援助の理論と技法について学ぶ。非行少年の処遇システムを理解した上で，動機付けが乏しく，保護者の協力も得にくい非行問題に対するカウンセリングの実際について，スクールカウンセラーや非行臨床機関との連携の実際を学ぶ。	2	
学校カウンセリング基礎実習	学校カウンセリングを行うための基礎的技術の修得を目指す。ロールプレイによりカウンセラー及びクライエント双方を経験し，自己理解・他者理解を深め，かかわりづくりや面接の基礎を徹底した体験学習により学ぶ。学校臨床支援センターの「教育臨床研修講座」（年間９回）での事例検討により，コンサルテーション，コーディネーション手法の実際を修得する。	2	
心理支援に関する理論と実践 （臨床心理面接特論Ⅰ）	臨床心理面接の基本（枠組，面接者の態度，初回から終結まで，など）を概説，その後力動論に基づく心理療法，力動的発達論について論じる。心理療法が対象とする症状，問題行動を説明し，その支援方法について論じる。	2	教授 青木　真理
教育カウンセリング特論	学校教師が，学校のあらゆる場面で行い得る教育相談的対応について論じる。その際の子ども理解として，子ども個別の理解と，集団の中での子どもの理解という両面から論じる。また，スクールカウンセラーをどう活用し，どのように協同するかという重要な課題についても論じる。	2	
心理的アセスメントに関する理論と実践 （臨床心理査定演習Ⅰ）	臨床心理実践に必要な臨床心理査定についての意義と内容を学び，演習を通じて実際に使えるようになることを目的とする。演習する内容は，質問紙性格検査法，投影法，描画法や箱庭療法のような治療的側面を持つ査定法である。演習参加者は互いにテスター・テスティーとなって，査定法を体験し，反応結果と体験過程を討議する。また，それぞれの査定法ごとにレポート作成が求められ，自己分析と他者の評価を連続して行いながら，テスト所見の書き方を学ぶ。	2	
人格検査法演習	学校教師が子どもを理解し，子ども自身の自己理解を深める方法について学ぶ。アセスメントの意義と方法について論じたのち，子ども理解の方法としての査定法のいくつかを演習を通じて学ぶ。また，それらの理解の結果を子どもの指導と学級経営にどう生かすか，子ども自身の自己理解へとどうつなげるかといったことについても討論する。	2	
教育臨床学特論	学校とその周辺における子どもまたはスタッフの不適応行動への，臨床心理学の専門家による援助，学校教員などの他の専門家との連携・協同についてロールプレイを併用しながら体験的に学ぶ。	2	
福祉分野に関する理論と支援の展開（福祉心理特論）	福祉現場で生じる問題と背景について理解し，現場における心理社会的課題とその支援方法の知識を得る。社会的福祉の基本理念及び社会福祉制度や行政制度と現状と課題を理解するとともに，現場で生じている問題とその背景，社会的制度と専門職の役割，臨床心理学的援助の具体的課題や実践的技法についての基礎的知識を習得する。児童福祉，障害者福祉，高齢者福祉の現場における心理社会的課題と必要な支援方策の理解を習得する。	2	未　　定
福祉分野に関する理論と支援の展開（家族福祉臨床特論）	変革期にある家族の問題について，臨床心理学や家族心理学などの専門領域の知見から現代の家族問題を総合的視野から理解し，家族を援助するためのさまざまな方策について考える。また，家族福祉の理念や社会福祉制度，行政政の動向，今後起こりえる変化についての予測と対策，各関係機関等の社会的資源の役割や課題等について実践的な知識を得る。	2	
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 （臨床心理地域援助特論）	地域社会や集団組織に働きかける心理的援助の理論と方法を習得する。具体的には危機介入，コンサルテーション，ケースマネージメント，社会生活技能訓練，家族心理教育，地域精神保健などの基礎的知識と技能並びに，臨床心理学的援助の役割と課題，各場面での具体的課題や実践的技法についての知識を習得する。このために専門相談機関を訪問し施設見学と専門職員から講義を受ける。	2	

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
カウンセリング実習Ⅰ，Ⅱ	相談事例のインテーク・カンファレンス，事例検討の他に，学校不適応児に対するグループ，保護者グループ，ひきこもり者支援のグループなどの支援活動についての報告・討議を行う。	2	青木　真理 安部　郁子
臨床心理査定特論	臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱでとりあげる査定技法以外のものをとりあげ，集中講義で行う。適切な見立てと治療のためのテストバッテリーを考える。	2	
学習心理学特論	学習能力の低下や障害について，基礎的なテキストあるいは文献を基に学んでゆきたいと思う。具体的には，「成人における認知機能障害」，「学習能力の発達の基盤となる認知発達」，及び「発達における認知機能障害」などのトピックスを考えている。	2	教授 住吉　チカ
心理実験統計法特論	心理学・教育学において，実験や調査を行うのに必要なデータ処理・統計について基礎的な知識を身につける。さらに，多変量解析など特殊な目的に応じた統計分析手法についても知識を得る。	2	
心理学研究法特論	心理学における調査・実験・臨床研究の知識と手法について講義を中心に行う。具体的にはそれぞれの研究方法における研究計画，データ処理，結果の解釈等について，調査計画法，質問紙調査，統計学，事例研究法等の基本的理解を目的とする。	2	青木　真理 岸　竜馬 安部　郁子
臨床心理基礎実習	生徒指導・教育相談など学校臨床，心理臨床の専門職として面接を行うための基礎的技術の修得を目指す。ロールプレイによりカウンセラー及びクライエント双方を経験し，自己理解・他者理解を深め，臨床心理面接の基礎を徹底した体験学習により学ぶ。また，「教育臨床研修講座」での事例研究に参加して生徒指導・教育相談などの実際に触れる。また，病院，福祉臨床等の関係領域のアプローチを学んで，関連する専門機関と連携する視野を養うことも大きな目的である。	2	岸　竜馬
臨床心理実習	大学附属の臨床心理・教育相談室において，実際に電話相談や面接相談のケースを担当して，教員からスーパービジョン（臨床指導）を受け，将来カウンセラーになるための資質を養う。さらに院生の希望に応じて，学外の臨床施設において，実地研修（インターンシップ）を行い，臨床心理士・スクールカウンセラーとしてのアイデンティティを培う。学外実習では，非常勤講師によって実地指導を受けることができる。	2	岸　竜馬 安部　郁子 非常勤 北沢　香織 岡田乃利子 小野　陽平 遠藤　佳子
保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神医学特論）	精神科医としての経験を参照しながら様々な精神疾患について理解を深め，そこから心理専門職ができる支援について，ともに考えていくことを目標としたい。	2	熊切　力 （非常勤）
社会心理学特論	この授業では，人間関係の形成・維持にかんする，および，集団の形成，発展，解消にかんする社会心理学的な知見について講述する。特に，社会心理学の理論と方法，学級集団の特徴，児童・生徒の仲間関係，教師のリーダーシップなどについて，身近な事例やこれまでの研究成果を踏まえて学習し，社会心理学の基礎的理論とアプローチについて理解する。	2	教授 飛田　操
障害児教育学特論演習Ⅰ	知的障害児を始めとする障害児の早期発見・早期支援の重要性とその在り方について保護者支援も含めて総合的に学ぶ。	2	准教授 髙橋　純一
障害児教育学特論演習Ⅱ	知的障害児を始めとする後期中等教育の課題や現状，高等部卒業後の社会参加と自立について総合的に学ぶ。	2	
進路指導特論	学校教育における進路指導の意義とその役割について，職業発達心理学の視点から検討する。特に，代表的な進路指導の理論を中心に進路指導に関する研究動向と今日のキャリア教育の動向を取り上げる。また，学校教育における進路指導の具体的な展開について文献や資料，データをもとに検討し，現場臨床と相談活動の実践との結びつきについて取り上げる。	2	未　定
幼児発達心理学特論	子どもたちの様々な問題に対し，幼児期の体験の重要性について言及されることが多い。本授業では，幼児の認知・思考の発達，自己意識の発達，社会性の発達，言語の発達等幼児期の発達の様子をたどりながら，発達の原理，発達課題に言及しながら，幼児期に必要な体験とは何か，また，それらを支える親や保育者など大人の役割，あるいは子どもの育ちを見る眼とはどのようなものであればよいかについて，考えていきたい。	2	教授 原野　明子

授業科目名	授　業　科　目　の　内　容	単位数	担当教員名
神経生理学特論	学校保健，特に精神保健の基礎となる神経科学，脳科学の進歩は著しい。「心」は脳の活動自体であること，脳の中で何が進行しているか，具体的な過程について最新の知見を学ぶことを目的としている。脳の部位の機能やその障害について，心理臨床との関わりの中で考察する。	2	横山　浩之 （非常勤）
心理療法特論	児童養護施設にみられる虐待児童の心理的理解と，外傷体験を持った被虐待児童への心理療法の理論と実践を身につける。児童養護施設で起こる様々な問題と課題に対して，どのように心理療法を行っていくかについて学び，活用できるように演習も行う。	2	渡部　純夫 （非常勤）
グループ・アプローチ特論	グループ・アプローチは，家庭や学校，職場などの人間関係をよくし，人々のメンタルヘルスに貢献するものとしてその広がりをみせている。本特論では，はじめにグループ・アプローチについて，定義，歴史，効用，グループリーダー等について概説する。その後，グループ・アプローチの代表的な技法であるサイコドラマを取り上げ，理論と実践を交えた体験学習を行う。	2	茨木　博子 （非常勤）
保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神病理学特論）	心理臨床の現場で遭遇する精神障害の原因，分類，症状の現れ方など総論的な概観を行ったあと，いくつかの重要な精神障害を取り上げ，おのおのについて概念，頻度，症状，診断，治療，予後などの知識を深め，さらに精神障害に対する施策についても学習する。	2	准教授 片山　規央
学校保健特論	学校における心理的諸問題の現状を把握し，思春期・青年期に起こりやすい精神障害について，概念，症状，診断，治療，予防などについて学ぶ。	2	
学校保健特論演習	思春期・青年期に起こりやすい精神障害に対して使われる様々な治療方法について，まずその理論を理解し，次に，実例や実体験を通して，実際の方法を詳しく学ぶ。	2	
学校教育臨床研究ＩＡ・ⅡＡ	６月と９月に集中講義の形態で行う。全院生が参加。各院生が学校教育臨床に関するテーマに沿って研究の意図と計画，中間段階での結果などについて報告し，集団討論，複数の教員の指導を受ける。なおこの授業は「学校臨床研究ⅡＡ」と隔年で開講する。こうすることによって，院生は２年かけてⅠとⅡの両方を履修でき，研究テーマを深化させることが期待される。	2	専修専任教員

５．履 修 方 法 等

⑴　履修の方法

教職実践専攻の学生は，「ミドル・リーダー養成コース」「教育実践高度化コース」「特別支援教育高度化コース」のいずれかのコースに沿った履修をします。「学校における実習領域」では，教職経験の無い学生は「長期インターンシップⅠ・Ⅱ」を，教職経験のある学生は「教職専門演習Ⅰ・Ⅱ」「学校支援実習Ⅰ・Ⅱ」「教育実践高度化実習」「学校改題対応実習」を教職歴に応じて履修します。「プロジェクト研究Ⅰ～Ⅳ」は，それぞれ１年前期（課題の明確化と連携協力校とのマッチング），１年後期（課題解決方法の探究），２年前期（方策の計画・実践），２年後期（実践結果の分析・評価，教育実践報告書の作成）に配し，ラウンドテーブル（教育実践報告会）に参加し発表します。

地域文化創造専攻の学生は，１年前期に「課題研究Ⅰ」を履修し，研究テーマの決定を行います。１年後期の「専門演習Ⅰ」を履修し，主指導教員の指導と副指導教員のアドバイスを受けて，研究の骨格をつくり，中間発表を行います。２年前期に「課題研究Ⅱ」を履修し，研究テーマをさらに深め，２年後期の「専門演習Ⅱ」で，複数の教員のアドバイスを受けながら，修了研究をまとめていきます。

学校臨床心理専攻の学生は，各々の就業状態も考慮しながら，カリキュラムの組み立て，または長期履修制度の活用の有無などを，指導教員に相談しながら確定していきます。

⑵　プロジェクト研究・修了研究

教職実践専攻のプロジェクト研究は，学校における教育活動の進展に寄与しうる内容を有する教育実践報告書とします。

地域文化創造専攻及び学校臨床心理専攻の修了研究は，各領域に関する主題で，学校教育および地域・企業における教育活動の進展に寄与しうる内容，もしくは地域の文化活動や文化創造の進展に寄与しうる内容，もしくは学校臨床心理の進展に寄与しうる内容を有する修士論文とします。

⑶　修業年限

修業年限は２年とし，在学期間は４年を超えることはできません。

６．長期履修学生制度について

福島大学大学院では，学生が，職業を有しているなどの事情により，標準修業年限（２年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し，課程を修了することを希望する旨申し出たときは，申請内容を審査の上，その計画的な履修を認めることができるという制度を設けました。制度の概略は下記のとおりですが，なお不明な点は下記までお問い合わせください。

（職業を有しているなどの事情とは）

○　定職【主婦（夫），家事労働に主に従事している者および非常勤講師を含みます。ただし，パート，アルバイトは除きます。】に就いている場合をいいます。

（一定の期間にわたりとは）

○　本学では，計画的な履修を認められた学生を「長期履修学生」といい，また，その認められた履修期間を「長期履修期間」といいます。

本学の長期履修期間は

①　入学時から長期履修学生として認められた者……４年または３年

②　２年次から長期履修学生として認められた者……２年

と定められています。

（在学年限について）

○　最長４年間在学することができます。

（授業料について）

○　一般学生の２年（標準修業年限）分の授業料で，長期履修期間在学することができます。支払うべき年額は，一般学生が在学中に支払うべき総額を，認められた年数で分割した額となります。また，一般学生と同様に在学中に授業料が値上げされる場合があります。なお，長期履修期間を超えて留年した場合，留年分の授業料は一般学生と同額の年額を支払うことになります。

長期履修学生制度についての問い合わせ先

福島大学教務課

☎　024－548－8106

7．取 得 資 格 等

(1) 教員免許状

本研究科の各専攻において取得できる教員免許状は，次の表の通りです。ただし，既に当該学校種・教科の１種免許状を所持している者に限られ，教育職員免許法に定める所要の単位を修得することによって取得することができます。

研究科	専攻・コース		免許状の種類（免許教科等）
人間発達文化研究科	教職実践専攻	ミドル･リーダー養成コース 教育実践高度化コース 特別支援教育高度化コース	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状 （国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語） 高等学校教諭専修免許状 （国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，英語，農業，工業，商業，水産，福祉） 養護教諭専修免許状 栄養教諭専修免許状 特別支援学校教諭専修免許状*
	地域文化創造専攻		幼稚園教諭の専修免許状 小学校教諭の専修免許状 中学校教諭の専修免許状 （国語，社会，数学，音楽，美術，保健体育，家庭，英語） 高等学校教諭の専修免許状 （国語，地理歴史，公民，数学，音楽，美術，保健体育，家庭，英語）
	学校臨床心理専攻		幼稚園教諭の専修免許状 小学校教諭の専修免許状 中学校教諭の専修免許状 （国語，社会，数学，音楽，美術，保健体育，家庭，英語） 高等学校教諭の専修免許状 （国語，地理歴史，公民，数学，音楽，美術，保健体育，家庭，英語）

（注）専修免許状を取得するには，免許状授与に該当する科目の指定があります。

＊は特別支援教育高度化コースのみ取得可。

(2) 公認心理師・臨床心理士の受験資格

学校臨床心理専攻臨床心理領域は，国家資格「公認心理師」のカリキュラムに対応しています。また，(公財)日本臨床心理士資格認定協会により第１種の養成大学院として指定されています。したがって，**臨床心理領域**を専攻して，資格に必要な単位を取得後，直近に実施される資格審査を受験することができます。

ただし，公認心理師には大学において定められた科目の履習が必要です。

8．授業担当教員の研究概要

（ただし担当教員および研究概要の一部を変更することがあります。）

○　地域文化創造専攻（人間発達支援領域）

担当教員	研　　究　　概　　要
教授　　高谷理恵子	乳・幼児の自発運動に関する観察，および実験的アプローチによる研究。医療や教育の場での発達支援に関する研究を行っている。
教授　　住吉　チカ	認知発達や認知機能の障害について，統合失調症や発達障害を中心に研究を進めている。
教授　　飛田　　操 （令和５年３月退職予定）	学級集団のダイナミックスについての研究。学校組織やグループ学習などのテーマに取り組んでいる。
未　　定	人間の生涯にわたるキャリア発達にかかわる心理学的研究。青年期を中心とした時間的展望の特徴や学校・企業教育におけるガイダンスのあり方に関心がある。
教授　　木暮　照正	研究領域は認知心理学，教育心理学，メディア心理学。心理学の視点から成人発達・成人学習・成人教育について研究している。また，インターネット調査などを通じてサイバーコミュニケーションの特徴についても研究している。
准教授　　富永美佐子	発達心理学，臨床心理学。心理学の視点から，青年期のキャリア発達，学修動機について研究している。中学校でのキャリア教育，進路指導・キャリアカウンセリングの研究にも取り組んでいる。
准教授　　髙橋　純一	障害を通した能力の多様性とその理解に関する研究。障害観の形成における心のはたらき，社会や学校における障害理解を促進するための背景要因の探究，障害観が教育に及ぼす影響，障害児・者の知覚・認知特性に関する検討など。
准教授　　保木井啓史	保育者が設定した活動を子どもが「改変していく」という視点からの，主に集まり場面での子どもと保育者の相互作用の質的なアプローチによる検討など。
教授　　原野　明子	保育の中での幼児の対人関係。保育者の保育観と保育環境の構成および幼児をみる視点について。
特任教授　齋藤美智子	子ども，保育者，保護者の三者の共同による保育はどのようにして作られるのか。保護者支援のあり方，どの子も「楽しかった！」と思える毎日が送れるような保育について探る。

○　地域文化創造専攻（日英言語文化領域）

担当教員	研　　究　　概　　要
教授　　半沢　　康	日本の方言研究を行っている。特に東北地方の方言を対象とし，方言の伝播・変容，人々の方言意識などの問題を社会言語学的観点から考察する。
准教授　　高橋　由貴	日本近代文学および比較文学の研究。
教授　　井實　充史	古代和歌および古代日本漢詩の研究。特に中国古典文学との比較を通じて，東アジア文学としての普遍性と日本文学としての独自性を追求している。
教授　　澁澤　　尚	中国古代の文学・思想・神話（漢文学），漢字文化などの研究。
教授　　佐藤　佐敏	国語科教育における理論と実践の架橋を試みる研究。
准教授　　佐藤　元樹	生成文法理論に基づく英語の構文と言語現象の分析。
教授　　朝賀　俊彦	英語を中心とした統語と意味のインターフェイス研究。

担当教員	研　　究　　概　　要
教授　　川田　　潤	初期近代英文学及びユートピア文学を学際的な関心から分析する。
教授　　髙田　英和	近現代イギリス文学・文化研究。
准教授　　飯嶋　良太	近現代アメリカ文学・文化研究。
准教授　　高橋　　優	ドイツ・ロマン主義の文学と思想。
教授　　佐久間康之	外国語としての英語（EFL）における文字言語及び音声言語の理解プロセスに関して認知心理学の記憶モデルの視点から基礎的研究を行い，理論と実践の統合を目指す。研究の対象は小学生から成人までと幅広く設定している。
准教授　　髙木　修一	英語学習者の読解プロセスに関する研究。特に，心理言語学の観点から，母語話者と英語学習者の差異を解明している。また，妥当性の高い英語テストの検討，英語教育研究のメソドロジーについても研究を進めている。

○　地域文化創造専攻（地域生活文化領域）

担当教員	研　　究　　概　　要
准教授　　小松　賢司	日本近世村落史，地域社会史。
准教授　　鍵和田　賢	ドイツ近世宗教社会史，神聖ローマ帝国国制史。
教授　　初澤　敏生	繊維産業・陶磁器業などの地場産業を中心に，地域経済構造の解明に関する研究を進めている。また，地域社会構造面からの地域文化の把握，地理教育を中心とする教育研究にも取り組んでいる。
教授　　中村　洋介	自然災害科学，防災教育。東日本大震災後の地震発生予測なども扱う。
教授　　牧田　　実	地域社会の今日的な変容と再編の動向をふまえつつ，これに対する住民の主体的都市形成の営為をまちづくりとして捉え，その構造と過程を社会的に解明する。
教授　　小野原雅夫	カントを中心とした西洋倫理思想の研究。平和論，バイオエシックス，環境倫理学，教育倫理学等，現代応用倫理学の諸課題の研究。高等教育に関する研究。
未　　定	戦後日本経済及び地域経済論。経済理論・経済教育論も対象とする。
特任教授　野木　勝弘	社会科教育の目標や内容及びそれを実現するための教材研究。その一つとして，地域教材の開発・実践について研究している。
教授　　千葉　養伍	食品の糖質構造解析およびそれに関連した酵素についての実験研究。
教授　　中村　恵子	調理・加工過程における食品の変化やおいしさの知覚について科学的に研究する。食に関する教育について調査・分析・考察する。
教授　　千葉　桂子	被服の適合性に関して，被服設計の立場から着用性能について検討する。また衣服と人間の関わりについても，時代の背景や気候風土と関連させて考察する。
特任教授　鈴木　　晃	住居ならびに住居をとりまく諸問題について研究している。
教授　　角間　陽子	生涯を見通した主体的な生活者を育成する家庭科教育の研究。生活の自立と共同・共生の理論に基づく生活経営分野（家族，消費生活を含む）の学習内容や教材，評価についての研究。

○　地域文化創造専攻（数理科学領域）

担当教員	研　　究　　概　　要
特任教授　相原　義弘	1．多様体上の Nevanlinna 理論，特に有理型写像の有限性・一意性問題および除外因子に関する研究。 2．数論的方法，特に Diophantus 近似論における手法の Nevanlinna 理論への応用に関する研究。
准教授　　和田　正樹	解析学・確率論。
准教授　　中田　文憲	微分幾何学，特に不定値の幾何構造に関するツイスター理論の研究。
特任教授　瀧口　和也	学習者（児童・生徒・学生）としての人間の数理的認知，数学理解をめぐって，文化，科学のかかわりをも含めて研究している。特に和算（算額について）を通して数学を認識し，理解してきたかを研究している。
准教授　　水澤　玲子	島嶼生植物の繁殖生態学および進化生態学。
特任教授　村上　正義	よりよい理科学習のありかたを，生活の中にある物質の教材化の視点から研究する。
准教授　　平中　宏典	ICT（情報通信技術）を活用した理科教育のカリキュラム開発に関する研究。地域地質を活用した地学教育に関する研究。

○　地域文化創造専攻（スポーツ健康科学領域）

担当教員	研　　究　　概　　要
教授　　小川　　宏	体育・スポーツにおける哲学的な諸課題についての研究，及びバレーボール競技に関する多角的な研究を行っている。
未　　定	日本における近代スポーツの受容・発展過程と，在来武術のスポーツ化過程を比較検討し，それらの学校教育教材化の過程をスポーツ史の立場から研究する。
未　　定	運動技術獲得のメカニズムを，認知心理学的な研究手法を用いて明らかにする。
准教授　　蓮沼　哲哉	トップアスリートの活動の機会やスポーツ政策と生涯スポーツのあり方について，またスポーツで地域活性化に繋げる研究を行っている。
准教授　　杉浦　弘一	スポーツ医科学，特に競技選手のコンディショニング，および疲労と疲労回復について研究を行っている。
教授　　安田　俊広	身体活動にともなう生体の変化と適応について，主に骨格筋を中心に研究している。
未　　定	スポーツ運動における個人および集団としての達成能力の内容，さらにその指導法に関して運動方法学的に研究を行っている。
特任教授　鈴木裕美子	舞踊学全般を研究対象とする。様々な舞踊の現象を捉え，発達特性に応じた「踊り，創り，観る」学習のあり方を追究し，舞踊教育の方法について研究を行っている。
講師　　本嶋　良恵	跳躍動作及び様々な競技種目の動作について競技力向上と関連づけて研究を行っている。
教授　　川本　和久 （令和５年３月退職予定）	陸上競技に関する諸問題，及びスポーツトレーニング理論を研究している。
講師　　松本　健太	体育科・保健体育科の授業を研究対象にしながら，学修指導論ならびに授業づくりについて研究を行っている。

○　地域文化創造専攻（芸術文化領域）

担当教員	研　　究　　概　　要
教授　　中畑　　淳	バロックから近現代に至るピアノ作品の演奏法および器楽領域（管弦打楽器）における作品解釈ならびに室内楽を中心としたアンサンブル研究。
未　　定	器楽の領域で，主に弦楽器（チェロ）の研究を行っている。またオーケストラ・および室内楽を中心としたアンサンブル，また合奏指導についての研究も行う。器楽における表現と奏法との関わりから，演奏法や合奏法を考える。
教授　　今尾　　滋	オペラを中心とした声楽の発声法並びに演奏法の研究。また，R・ヴァーグナーの作品の主要な担い手である「ヘルデンテノール」について研究している。近年は関連研究として，アルベルト・ニーマンの生涯とその果たした役割について研究を進めている。同じく関連研究として，キャリアを積んだ歌手におこるバリトンからテノールへの声種転換の問題についても研究中である。
教授　　横島　　浩	主に作曲，作品分析の領域での研究だが，音楽創造に関わる事柄（管弦楽法，演奏史，音楽史等）についても研究を進める。
教授　　杉田　政夫	音楽科教育の歴史的・哲学的研究。音楽科カリキュラムの構成理念に関する研究。
教授　　渡邊　晃一	絵画，版表現，現代美術（インスタレーション等）の制作や，芸術企画のプロジェクト研究。論文では主に身体，生命形態を主題とし，美術における「制作学」の理論的構築をめざしている。
教授　　新井　　浩	木彫による具象彫刻の制作。特に彫る・寄せる・併置する・重ねる等の各種技法を用いた表現の研究。公共空間における彫刻設置の問題についての研究。
准教授　　加藤奈保子	美術理論および美術史。とくに17世紀イタリアの絵画・彫刻に関する研究。
特任教授　内藤　良行	美術教育理論と実践を多角的に分析し，学校教育における造形活動の意義について考察するとともに児童生徒理解にもとづくカリキュラムと授業構造の研究。
未　　定	工芸デザイン作品の制作。特に集成的方法による工芸作品の研究，制作を行っている。

○　学校臨床心理専攻（臨床心理領域）

担当教員	研　　究　　概　　要
未　　定	非行・犯罪臨床学，家族臨床学。司法・矯正保護領域における心理臨床モデル，学校臨床における問題行動のある生徒と保護者のための心理・社会的援助に関する研究，リスク・マネジメントに関する研究，ならびに臨床実践。
教授　　青木　真理	臨床心理学，教育臨床学。教育現場における不登校等の不適応行動への対応，教師の教育相談的実践力養成，スクールカウンセリングの方法，祭祀と心理臨床等についての研究，描画法研究，北欧諸国の若者支援システムについての調査研究。
未　　定	臨床心理学，福祉心理学，社会福祉領域における心理臨床活動に関する理論，発達障害の特性に応じた専門的援助，学校での支援，家族援助，子ども虐待の援助についての研究。
准教授　　岸　　竜馬	臨床心理学，精神分析学。児童期・思春期から成人に至るまでの心理臨床，パーソナリティや病態水準に関するアセスメント，弁証法的行動療法による衝動性や情動制御に対する心理教育，教員と生徒のメンタルヘルス。
特任教授　安部　郁子	臨床心理学，被虐待児童，DV 家庭に育つ子ども，様々な問題を抱える子どもたちの支援，心理的関わり，ケアについての研究。

福島大学案内図

JR東北本線金谷川（かなやがわ）駅下車
中央広場まで徒歩約10分

国立大学法人

福島大学

Fukushima University